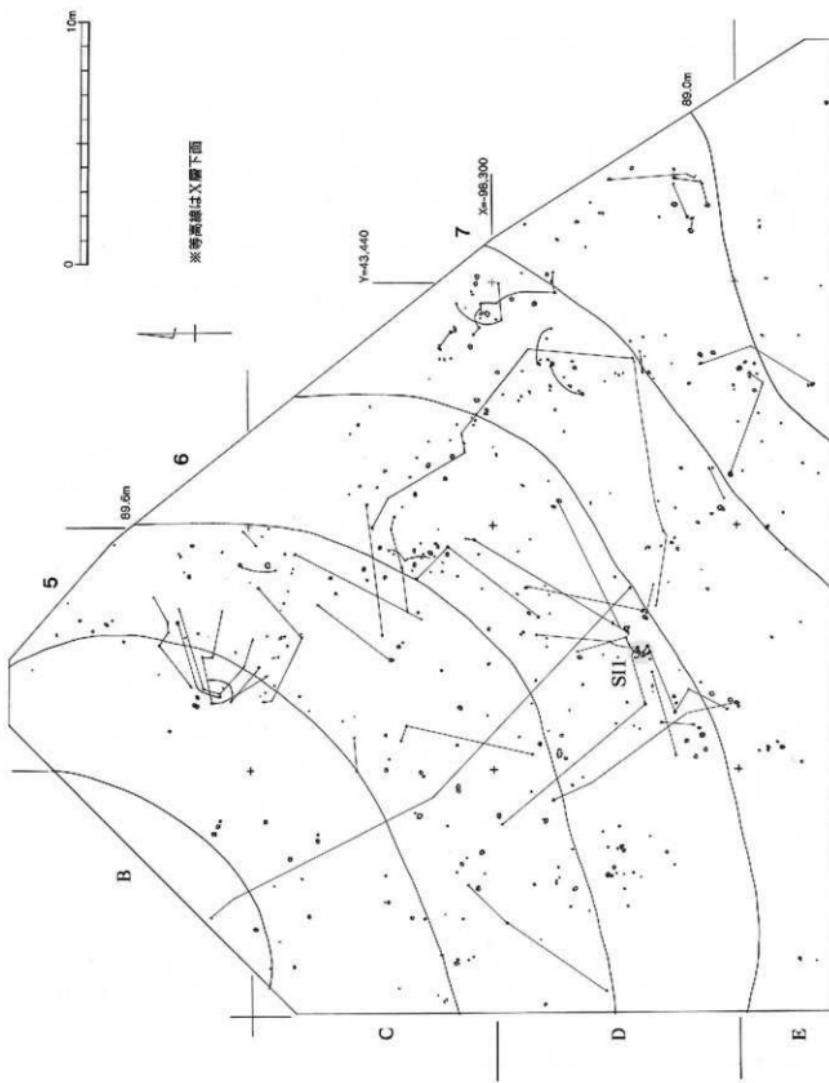


第7図 後期旧石器時代I期螺分布・接合状況図 (S = 1/20)



## (2) 遺物

### ○石器器種

出土石器は、159点である。内訳は、ナイフ形石器1点、搔器1点、削器1点、石核4点、二次加工剥片6点、磨石3点、敲石7点、亜石器10点、剥片120点、チップ3点である（第4表参照）。

製品は少なく礫塊石器や剥片が中心である。風化が著しい石器が多く、剥離面の観察は困難を要する。

### ○遺物分布

石器は調査した北部全域に分布する。特に集中城は確認されていないが、西側の緩斜面に多く分布する傾向は伺える。器種別の遺物分布状況を第8図に示す。

### ○石材

石材の内訳は、ホルンフェルス76点、流紋岩41点、頁岩19点、砂岩20点、尾鈴山酸性岩類2点、チャート1点である。ホルンフェルスが全体の約46%、流紋岩が約25%を占める。ホルンフェルス製石器は特に風化が著しい。いずれも遺跡近傍で入手可能な石材である。チャート製石器は、削器1点のみの単独出土であり、他の場所から持ち込まれたものと考えられる。

石材別に遺物の分布状況をみると、ホルンフェルス製石器は調査区全域から出土している。流紋岩製

石器は調査区北端と南端に分布が分かれ、頁岩製石器は逆に調査区中央に集中する傾向がうかがえる。

### ○接合資料（第9図）

石器は16組45点が接合し、第9図に接合状況を示した。比較的離れた距離の石器が接合する様子がうかがえ、最大20m以上離れた石器同士の接合が確認できる。ただし、礫の接合状況と同様、傾斜にそって接合する遺物が多く、自然に流されて動いた可能性も考えられる。石材別では、ホルンフェルスが8組、流紋岩4組、頁岩3組、砂岩1組である。このうち、ホルンフェルスの接合資料1組14点を実測し、第12図に掲載した。

### 【接合資料1：ホルンフェルス】（第12図）

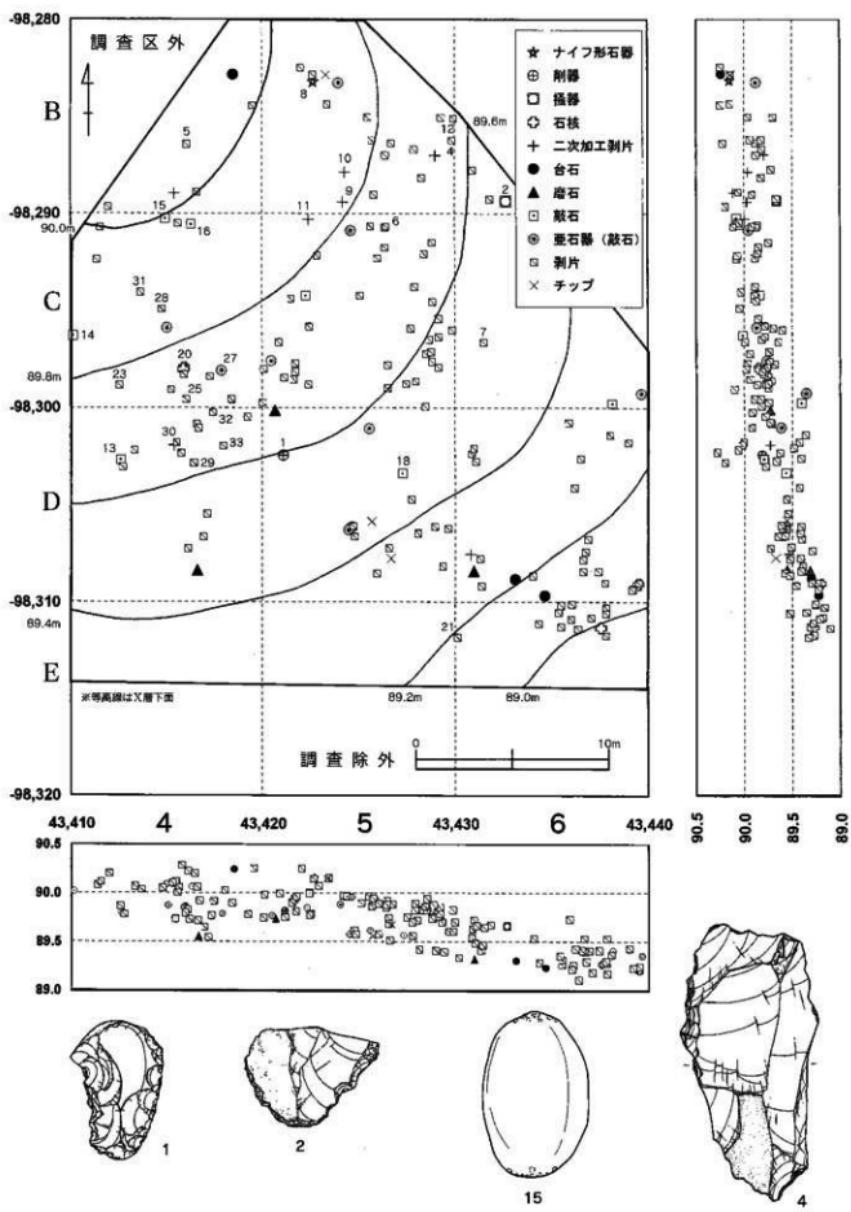
接合資料1は、ホルンフェルス製石核1点と剥片13点が接合している。手のひらサイズの原石の表皮を正面・上下・左右と打点を変えて剥いでいる。裏面には自然面も残る。

まず、上面の21を剥離して打面を作り出し、右に90度回転して22を、再び戻して上から23→24→25の順に剥離している。さらに、右から26→27をさらに28→29→30と連続して剥出した後、向きを変え31を、再び正面上より32→33を剥ぎ、残核20が残った。

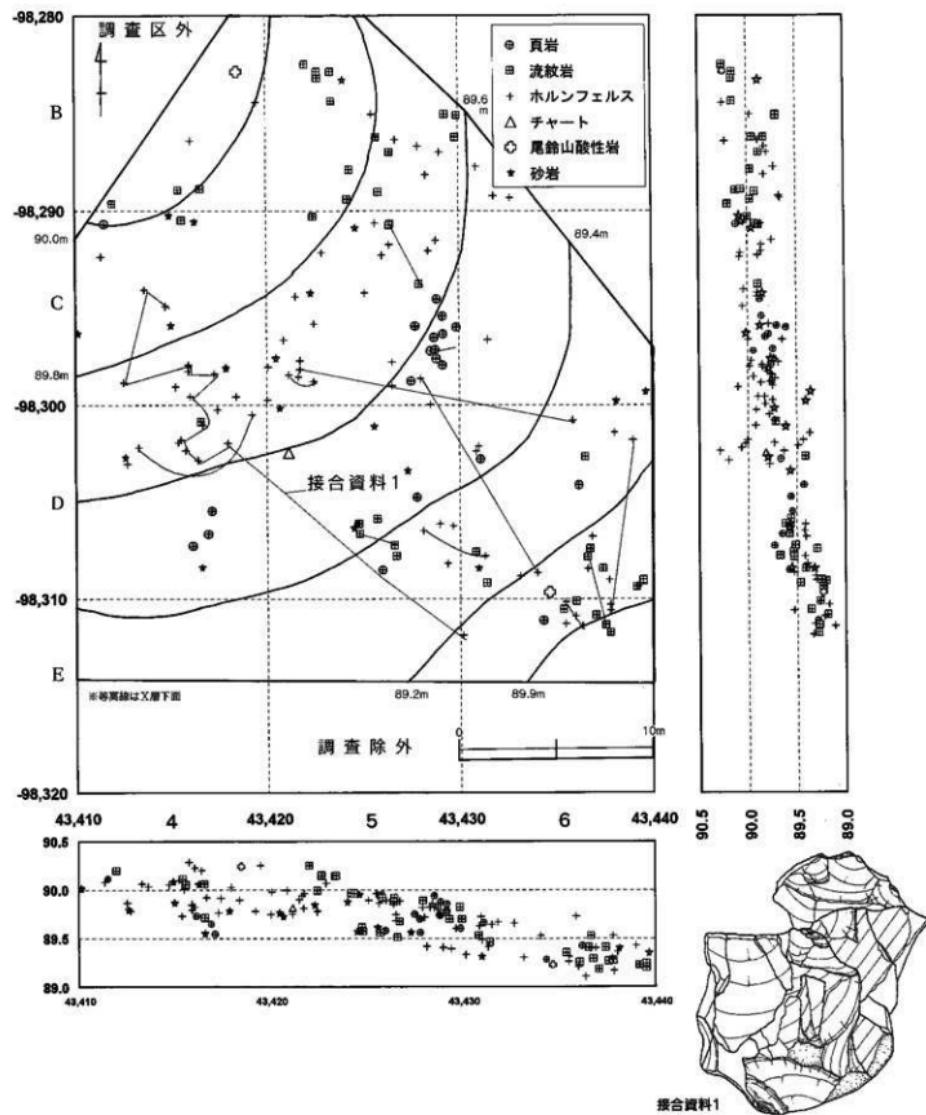
石材別出土石器の観察表は、第5表に掲載した。

石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	チャート	砂岩	尾鈴山酸性岩類	計
ナイフ形石器	1						1
搔器			1				1
削器				1			1
石核	3		1				4
磨石					3		3
台石			1			2	3
敲石					7		7
亜石器(敲石)					10		10
二次加工剥片	4		2				6
剥片	30	19	71				120
チップ	3						3
計	41	19	76	1	20	2	159
総重量(g)	1891.2	113.3	3688.7	30.5	2195.4	5025.1	
平均重量(g)	48.5	5.2	52.7	30.5	109.8	2512.6	

第4表 後期旧石器時代I期石器・石材組成表



第8図 後期旧石器時代Ⅰ期器種別遺物分布図 (S = 1/250)

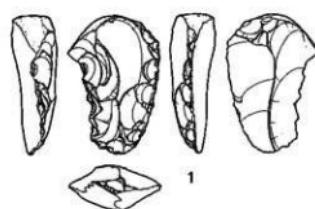


第9図 後期旧石器時代Ⅰ期石材別遺物分布 ( $S = 1/250$ )

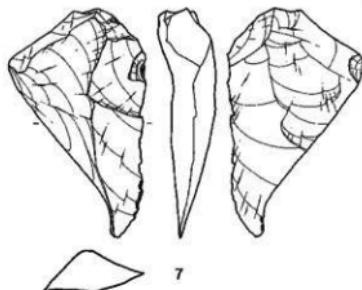
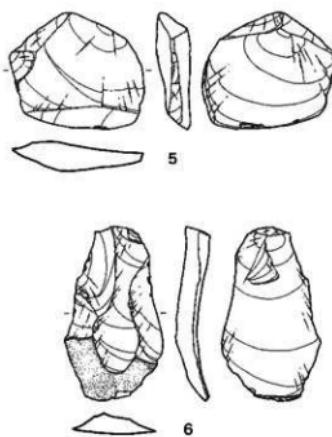
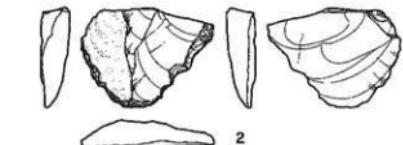
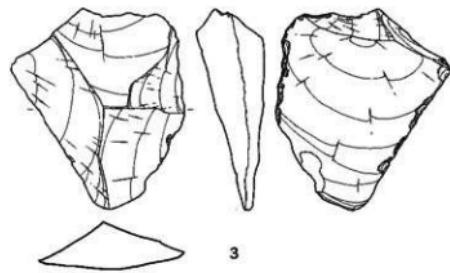
番号	注記 者番号	グリッド	層	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土地理 X座標	国土地理 Y座標	レベル (m)	備考
【チャート】(第10回)												
1	6411	D 52	X	刮削器	5.7	3.5	1.7	30.5	-98302.445	43421.136	89.816	円筒形に近い裏面削片の両側面を腹面からの打撲により刃部を作り出している。上面に背筋面を残す。
【ホルンブッシュ】(第10回)												
2	6491	B 61	X	刮削器	4.0	5.3	1.4	23.5	-98289.342	43432.665	89.662	平行面の素材剥片に腹面からの打撲を施している。背面に側面に自然筋を残す。
3	6357	D 44	X	一次加工剥片	8.4	6.9	2.5	100.9	-98301.943	43415.406	89.731	した右から左側面により大きめに、形を整え、その後両側面に腹面からの打撲を施す。
4	6381	B 53	X	二次加工剥片	11.3	5.6	2.5	162.7	-98286.997	43429.035	89.793	長削片の左から右側面に背・腹両面からの加工を施す。下部に自然筋を残す。
5	6374	B 43	X	刮削器	5.3	5.2	1.5	35.8	-98286.414	43416.064	90.226	上から下への順序により大きめに、形を整えていく。美化が少し。
6	6395	C 54	X	刮削器	7.1	4.1	1.4	26.8	-98292.298	43426.008	89.890	下部にふくらみを持つ不定形削片。背面下部に自然筋を残す。
7	6437	C 61	X	刮削器	8.7	5.2	2.6	79.0	-98296.631	43431.503	89.643	裏材削片の背・腹両面に腹面の打撲を施していくが、刮削面は風化が著しい。
【流紋岩】(第10-11回)												
8	6256	B 52	X	ナイフ形石器	1.2	1.1	0.6	0.3	-98283.190	43422.686	90.186	左側面に腹面からの調整を施す。下部は欠損している。
9	6446	B 51	X	二次加工剥片	8.3	7.9	2.5	131.2	-98289.421	43424.204	89.972	大型の剥片に当たる腹面から部分的に加工を施す。
10	6385	B 51	X	二次加工剥片	10.8	9.1	3.2	234.9	-98287.587	43424.336	89.967	上面に腹面を残し、腹面にやや大きめの打撲を施す。背面右側面は下部に自然筋を残す。左側面は上部には自然筋を残す。
11	6367	C 52	X	二次加工剥片	7.5	4.7	1.8	52.7	-98290.306	43422.419	89.997	背面右側面に腹面を大きく残す。前面は右側面と並んでには、背面から左側面への二次加工を施す。
12	6380	B 53	X	刮削器	6.3	3.8	2.3	42.6	-98286.217	43429.847	89.823	背面全体に自然筋を残す剥片である。背面右、下部に顕著な剥落痕がある。
【砂岩】(第11回)												
13	6355	D 42	X	敲石	9.6	4.3	3.7	214.1	-98302.685	43412.619	89.796	椎円形の標の上下両端に敲打痕を残す。
14	6366	C 41	X	敲石	7.5	6.2	4.7	281.7	-98296.295	43410.152	90.017	円形の標の下から右側面にかけて、調節的な敲打痕を認め。
15	6371	C 44	X	敲石	6.9	4.8	3.5	148.0	-98290.250	43414.945	90.084	椎円形の標の上下両端に敲打痕を残す。右側面にも側面打撲痕がある。
16	6390	C 44	X	敲石	6.8	4.1	4.4	162.5	-98290.558	43416.282	90.061	椎円形の標の上下両端に敲打痕を残す。
17	6435	C 63	X	敲石	6.6	4.6	4.6	212.4	-98299.777	43438.154	89.407	小ぶりの椎円形標の上下両端に敲打痕を認め。背面下部にもわずかに敲打痕を認め。
18	6445	D 54	X	敲心	6.7	4.0	3.9	139.9	-98303.374	43427.306	89.567	やや小ぶりで、円形の標の上と下に敲打痕を残す。
19	6449	C 62	X	敲石	6.5	4.4	3.6	124.3	-98294.213	43422.287	89.844	下部から背面左側面にかけてのやや古い範囲に敲打痕がある。上面にもわずかに敲打痕を認める。
【接合資料】 【接合資料1: ホルンブッシュ】(第12回)												
20	6362	C 43	X	右被	7.5	4.6	2.9	87.6	-98297.938	43415.934	89.851	打点を上下左右に転移し、剥片剥離を繰り返した右被。
21	6348	E 62	X	剥片	6.8	3.8	2.5	46.7	-98311.861	43430.158	89.334	打撲形成を目的的に削られた不定形剥片。背面下部に自然筋を残す。
22	6067	D 44	DX上	剥片	4.3	2.3	1.2	7.0	-98302.848	43416.431	90.200	背面右上にやや小さい剥離板を残す不定形剥片。
23	6305	D 44	DX下	剥片	4.6	3.5	1.6	29.2	-98301.805	43415.517	90.007	背面右上に自然筋を残す不定形剥片。
24	6358	D 44	X	剥片	5.0	3.1	1.4	15.7	-98301.050	43416.668	89.919	裏材剥片剥離を目的的に削られた。やや小ぶりに削られたため以上に加工が施されていない。
25	6132	D 44	DX下	剥片	2.7	1.6	0.6	2.1	-98301.963	43417.981	90.024	右側の裏材剥離得を目的として剥離された裏材剥片。
26	6086	D 44	DKL	剥片	3.2	1.8	1.0	4.0	-98302.340	43415.770	90.284	打撲形成を目的的に削られた不定形剥片。背面下部に自然筋を残す。
27	6564	C 43	X	剥片	3.4	1.9	1.7	8.6	-98299.574	43416.037	89.824	5枚の剥片(26, 27, 28, 29, 30)は、よどみで覆化した。28-27が剥離され、28-29と続いた。30は一連の作業中に削られたと考えられる。
29	6363	C 43	X	剥片	7.6	5.3	3.1	87.3	-98298.044	43415.895	89.846	背面右側面に削離板を残す。
30	6260	C 41	X	剥片	3.6	1.8	1.1	4.1	-98298.390	43417.287	89.765	背面右側面に削離板を残す。
31	6367	C 42	X	剥片	5.0	3.1	2.0	17.8	-98294.061	43413.639	90.034	背面から打撲を加えて削られた剥片。右側面に背面から左側面に削離された。
32	6369	C 43	X	剥片	4.2	3.7	2.3	21.6	-98298.272	43415.917	89.793	打撲を受ける。目的的打撲を獲得する過程で削離された剥離片。背面下部に自然筋を残す。
33	6368	C 41	X	剥片	5.6	5.7	2.6	77.2	-98298.840	43412.541	89.864	剥離片引き寄せられた剥片。上面より下面が確認し合形型で、自然筋・底面筋を残す。
【参考資料】 【参考資料1: ホルンブッシュ】(第12回)												
6363	C 62	X	虫不思(敲石)	12.2	3.1	1.8	116.9	-98290.668	43424.621	89.354	右側面に削離された剥片。	
6436	C 63	X	布石頭(敲石)	6.7	6.5	4.3	240	-98299.292	43429.668	89.353	右側面に削離された剥片。	
6440	C 44	X	虫不思(敲石)	—	—	—	—	-98295.901	43415.032	59.872	右側面に削離された剥片。	
6441	B 52	X	虫不思(敲石)	—	—	—	—	-98293.287	43424.008	89.881	右側面に削離された剥片。	
6442	C 51	X	虫不思(敲石)	4.6	4.2	3.6	96.3	-98291.596	43420.474	89.766	右側面に削離された剥片。	
6447	C 43	X	虫不思(敲石)	7.0	5.9	4.7	230.1	-98298.100	43417.871	89.788	右側面に削離された剥片。	
6452	D 54	X	虫不思(敲石)	8.6	6.8	5.1	368.4	-98301.064	43425.578	89.615	右側面に削離された剥片。	
6451	D 51	X	虫不思(敲石)	6.2	4.7	4.1	150.5	-98306.141	43424.686	89.577	右側面に削離された剥片。	
6465	D 61	X	虫不思(敲石)	8.7	5.0	4.4	273.4	-98306.309	43424.505	89.577	右側面に削離された剥片。	
6467	B 52	X	虫不思(敲石)	7.1	4.5	4.4	169.9	-	-	-	右側面に削離された剥片。	

第5表 後期旧石器時代I期石材別石器観察表

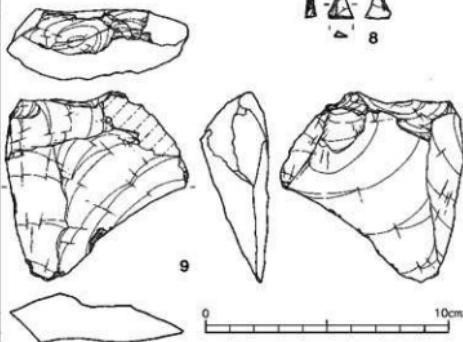
【チャート】



【ホルンフェルス】

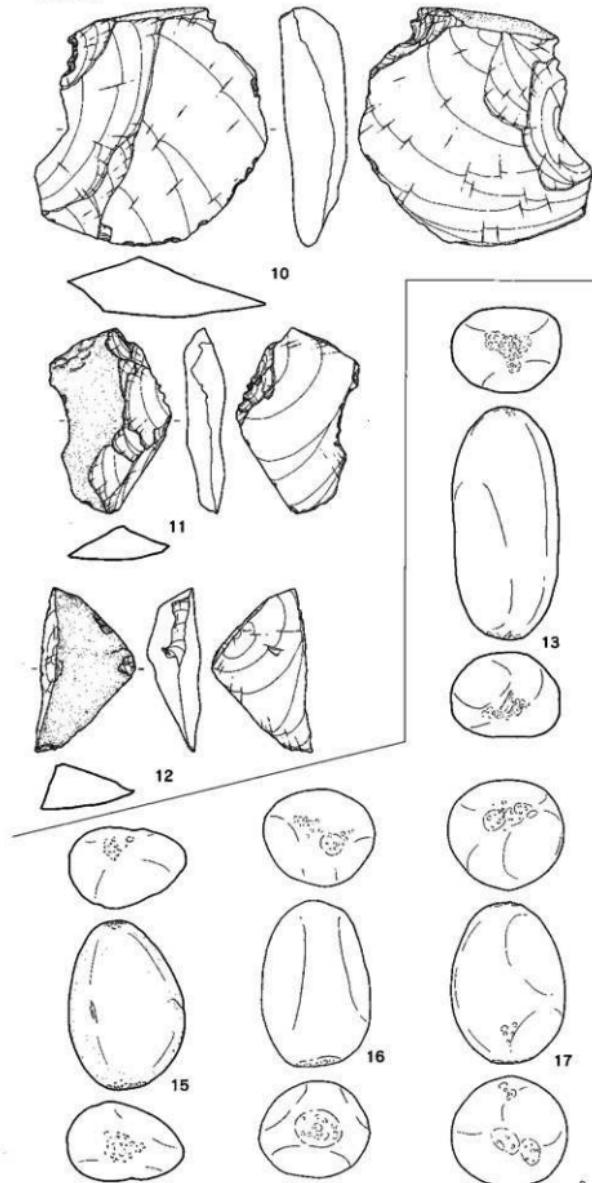


【流紋岩】

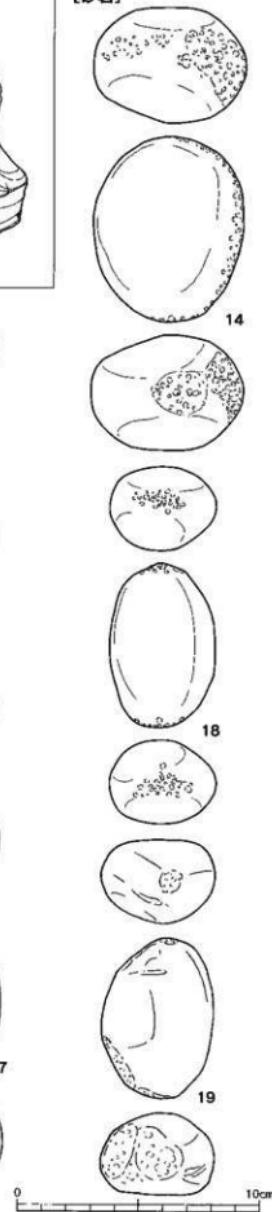


第10図 後期旧石器時代I期石材別石器実測図(1) (S=1/2)

[流紋岩]



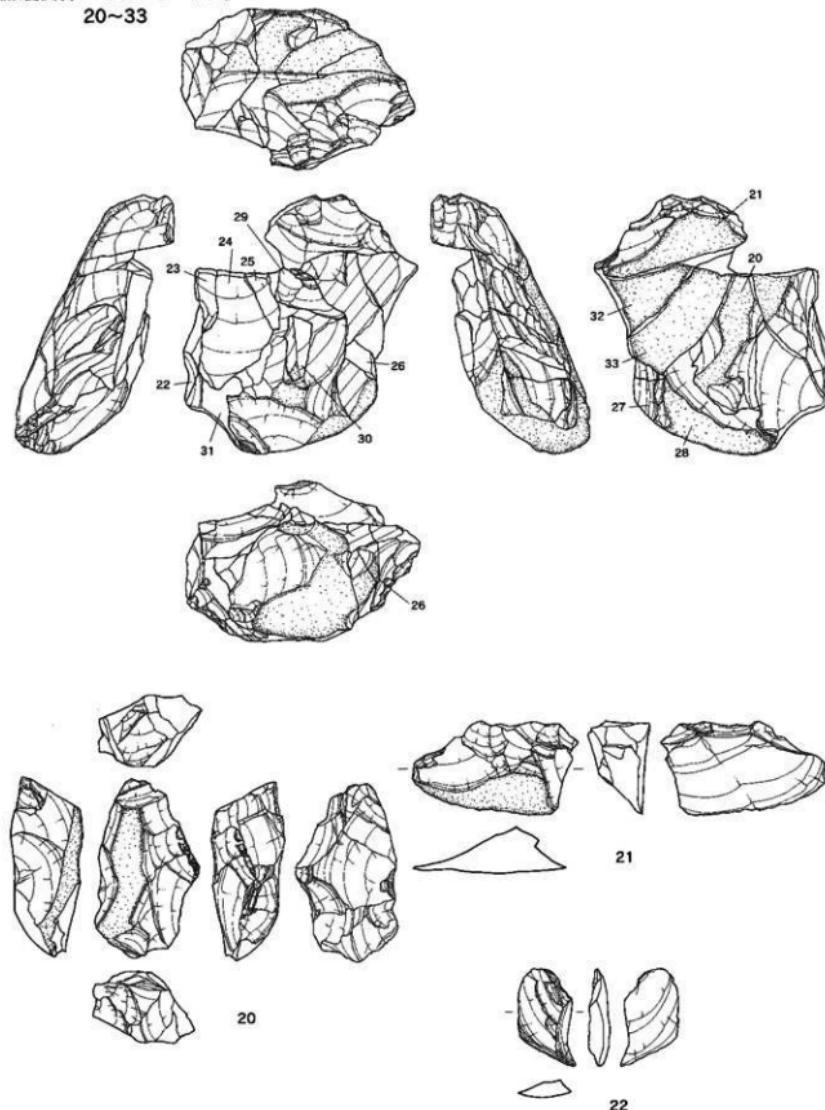
[砂岩]



第11図 後期旧石器時代I期石材別石器実測図(2) (S=1/2)

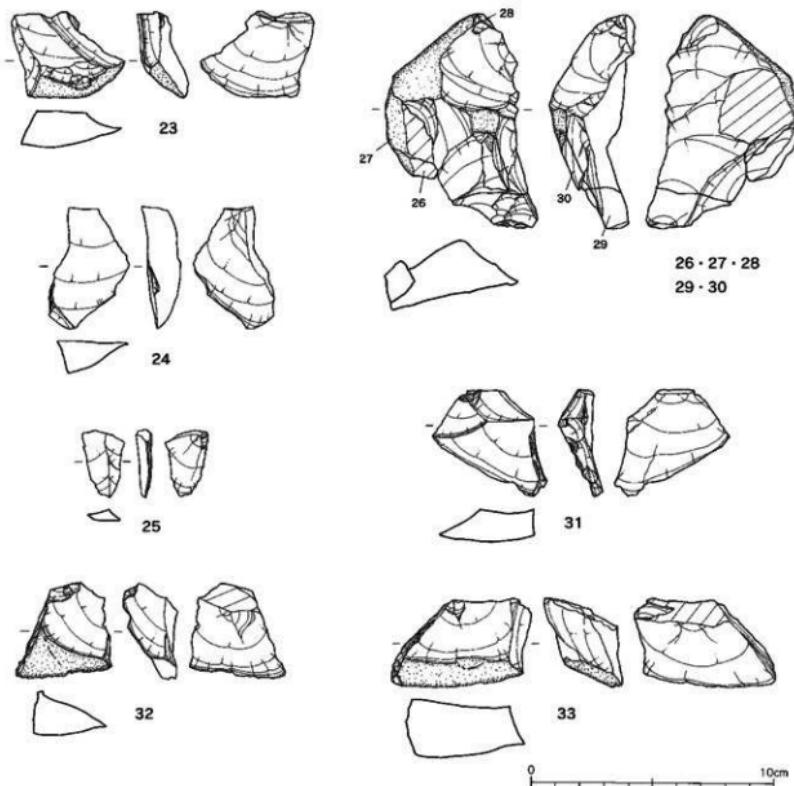
【接合資料1：ホルンフェルス】

20~33



第12図 後期旧石器時代Ⅰ期石材別石器実測図（3）（S = 1／2）

【接合資料1：ホルンフェルス】



第13図 後期旧石器時代I期石材別石器実測図(4)(S=1/2)

(3) 小結

後期旧石器時代I期では、礫群1基と散礫が出土、接合関係も多数確認された。

遺物は、搔器・削器・石核・剥片を中心で、ホルンフェルス・砂岩・流紋岩など在地産の礫を素材に活用している。剥片は全体的に大型で、礫面や自然面を残したまま剥離された不定形剥片が多い。ただし、風化が著しく剥離面の観察が困難なものもある。また、砂岩製で円形又は椿円形の形状をした礫が多く出土し、その形状から敲石としての利用を目的として持ち込まれたと考え、亜石器とした。このよう

な礫塊石器の出土が多いことが特徴の一つである。

1点だけ出土したナイフ形石器は、上層のAT直下(後期旧石器時代III期)に検出した石器ブロックの石器と出土地点・石材等が類似している。上層からの落ち込みの可能性も否定できない。

接合資料から、複数の遺物・礫の移動状況を確認することができた。また、打点を様々な方向に変えながら、連続して剥片を剥離していることがわかる。製品を伴う接合資料は確認できなかったが、製品の獲得を目的とした剥片の剥離作業が、本遺跡内で行われていた可能性は高い。

## 2 後期旧石器時代Ⅱ期

IX層下部、AT下の暗褐色土（東九州自動車道関連の基本層ではMB2）下部では、調査区北部から、礫群7基・散礫325点、遺物が136点出土した。この時代を後期旧石器時代Ⅱ期とする。調査面積は、約1,500m<sup>2</sup>である。

### (1) 遺構

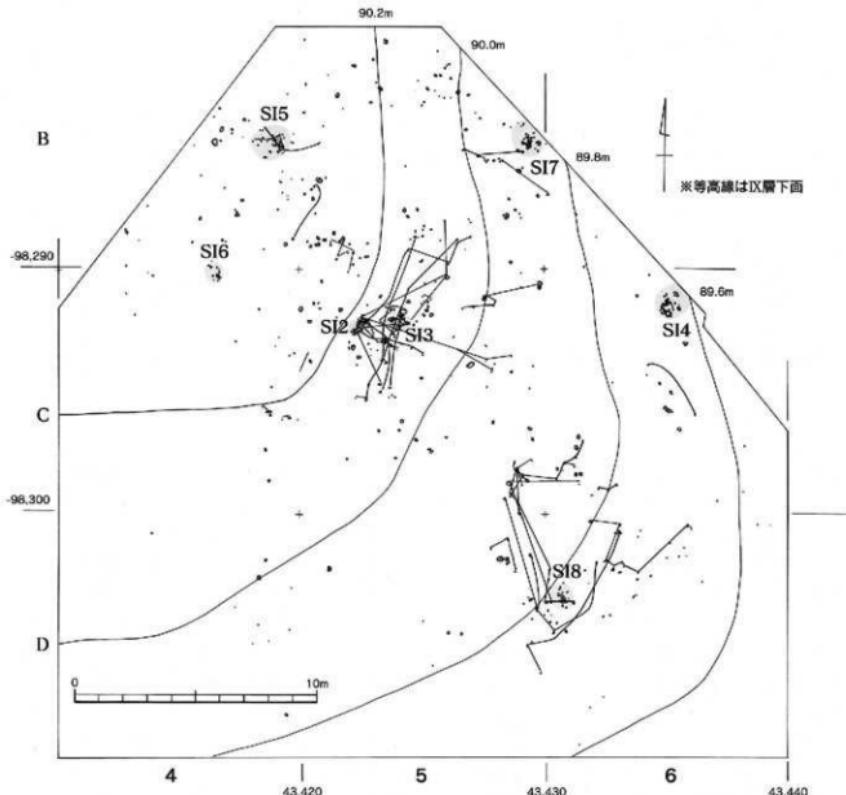
礫群は、調査区北部の東側斜面を中心に検出された。いずれも掘り込みではなく、炭化物も少ない。礫群・散礫の出土状況、さらに出土した礫の接合関係を第14図に示す。

石材は、ホルンフェルスが約50%、砂岩が39%を占め、平均重量は264gである。

しかし、これまで本遺跡の一次～三次調査や近隣遺跡で検出されたAT下位層の礫群とは、いくつかの点で違いが見られる。以下にその相違点を述べる。

#### ① 磕の出土範囲

平均長径2.0m、短径1.2mの比較的狭い範囲に、平均34点の礫が出土している。これまでAT下位層では、広い範囲に散漫に出土する礫群が多かったのに比べて、礫の密集度が高くなっている。



第14図 後期旧石器時代Ⅱ期遺構配置図・礫接合図状況 (S = 1/200)

## ②構成礫の赤化度

7基の礫群の礫総数は215点で、赤化していない礫は3点のみ。98.6%の礫が「弱」以上の赤化を受け、赤化度は高い。

### ③付着物の割合

78点(33%)の礫群出土礫に付着物が認められる。大部分が黒色のタール状の付着物で、これまでの確認された礫群と比べても、検出割合が高い。

### ④構成礫の完形度

完形を保つ礫は、礫群全体で4点(2%)にすぎず、ほとんどが破碎礫である。完形率40%以下の破碎礫が構成礫の90%をしめている。

各礫群と散礫の属性を第6・7表にまとめた。

出土礫の接合状況を見ると、礫群内で31組61点、礫群と礫群の間で7組42点、礫群と散礫の間で13組57点、散礫間で37組117点が接合した(第14図)。接合礫は、S I 2・S I 3付近とS I 8付近に集まっていることがわかる。遺物は、礫群内からはほとんど出土していない。

各礫群の詳細は次の通りである。

## S I 2 (第15図)

調査区北部、C52グリッド付近、標高約90.1mの比較的平坦な場所で検出された。長径2.3m、短径1.8mの範囲に30点の礫がみられた。石材は、砂岩が14点で全体の半数近くを占め、次いでホルンフェルス9点、尾鈴山酸性岩類1点、その他6点である。礫の平均重量は287gで、すべての礫が赤化している。また、黒色の付着物が半数以上の16点の礫で見られた。完形礫はなく、すべてが破碎礫である。礫群内で2組6点、隣接するS I 18との間で4組27点、散礫と2組13点が接合した。

## S I 3 (第15図)

S I 2のすぐ東隣で検出された。長径2.5m、短径1.8mの範囲に23点の礫から構成される。石材は、砂岩11点・ホルンフェルス14点・尾鈴山酸性岩類1点である。平均重量は272gで、すべて赤化しており、黒色の付着物が19点の礫で見られた。完形礫は1点のみで、破碎礫がほとんどである。礫群内で1組2点、散礫との間で6組28点が接合した。

## S I 4 (第15図)

調査区北東壁近く、C64グリッドで検出された。標高約89.6mで東に下る斜面上に、長径1.8m、短径1.4mの範囲に、大小45点の礫を確認した。石材はホルンフェルス26点・砂岩18点・その他1点である。平均重量は296g、すべて赤化しており、半数以上の23点の礫が強く赤化していた。付着物も9点で確認された。完形礫は1点のみで、破碎礫が大部分である。礫群内で5組10点、北西側にあるS I 7との間に、2組7点が接合した。

## S I 5 (第15図)

調査区北端のB44グリッド、調査区で最も標高の高い地点付近(約90.3m)の平坦面で検出した。長径2.0m、短径1.7mの範囲に40点の礫で構成される。石材はホルンフェルス22点・砂岩13点・頁岩3点・尾鈴山酸性岩類2点である。平均重量は165gでII期検出礫群の中では、中型から小型の礫が多い。すべての礫が赤化しており、8点に付着物が確認できた。完形礫は1点もない。礫群内で8組19点、南側に位置するS I 6との間に1組8点、散礫と1組3点が接合した。

## S I 6 (第15図)

S I 5の南側、B43からC44グリッドにかけて、13点の礫が確認された。長径1.2m、短径0.9m、標高は約90.7mである。石材は砂岩8点・ホルンフェルス4点・尾鈴山酸性岩類1点から成り、平均重量は101gと小型の礫が中心である。すべての礫が赤化しているが、付着物は見られない。礫群内で1組2点、散礫との間に1組3点が接合した。

## S I 7 (第15図)

調査区北東壁近く、東に下る斜面上に構成礫40点で検出された。長径1.8m、短径1.3mで、石材はホルンフェルス27点・砂岩11点・尾鈴山酸性岩類2点である。平均重量は307gとII期の礫群では最も重いが、これは大型の尾鈴山酸性岩類(平均重量2,120g)2点を含むためである。全ての礫が赤化しており、15点に付着物がみられた。完形礫は1点のみ、他は全て破碎礫である。礫群内で11組15点が接合した。

## S I 8 (第15図)

II基礫群の中では最も南のD54～D62グリッドに

	S12	S13	S14	S15	S16	S17	S18	全体
検出面	IX下	IX下	IX下	IX下	IX下	IX下	IX下	
検出グリッド	C52	C52, C54	C64	B44	C44, B43	B54	D54, D62	
長径 (mm)	2.3	2.6	1.8	2.0	1.2	1.8	2.6	平均2.0
短径 (mm)	1.8	1.8	1.4	1.7	0.9	1.3	2.2	平均1.4
添込の有無	無	無	無	無	無	無	無	
礫の構成密度	疊	疊	疊	疊	疊	疊	疊	
尾鈴山酸性岩種数 (%)	1(3)	1(4)	0	2(5)	1(8)	2(5)	3(13)	19(6)
石材 重量(g) (%)	81509	12522	0	31815	20516	424035	84518	5,545(12)
砂岩種数 (%)	14(45)	11(48)	18(49)	13(33)	8(62)	11(28)	729	82(38)
の 分 類 と そ の 割 合	重量(g) (%)	3,395(39)	1,550(24)	6,020(46)	2,150(33)	745(57)	1,890(15)	11,109(23)
頁岩種数 (%)	0	0	0	3(8)	0	0	1(4)	4(2)
重量(g) (%)	0	0	0	585(9)	0	0	360(8)	945(2)
ホルンフェルス種数 (%)	9(30)	11(48)	26(58)	22(55)	4(31)	27(68)	10(42)	109(51)
重量(g) (%)	2,220(37)	4,861(74)	5,775(43)	3,545(55)	360(27)	6,140(50)	2,105(44)	26,006(49)
その他の種数 (%)	6(20)	0	1(2)	0	0	0	3(13)	10(5)
重量(g) (%)	1,180(14)	0	1,505(11)	0	0	0	350(7)	3,538(6)
疊合計数	30	23	45	40	13	40	24	215
総重量(g)	8,613	6,536	13,305	6,595	1,310	12,277	4,765	53,399
平均長 (cm)	9.7	8.8	10.0	8.2	7.1	9.0	8.0	8.6
平均幅 (cm)	6.5	6.4	7.0	5.8	5.8	6.3	5.7	6.2
平均厚 (cm)	3.5	3.2	3.8	3.3	2.9	3.5	4.0	3.5
平均重量 (g)	287	272	296	165	101	307	199	232
赤化度	非赤化 種数 (%)	0	0	0	0	0	3(13)	3(1)
鶴 種数 (%)	8(26)	5(22)	7(16)	13(53)	3(23)	8(20)	7(30)	51(24)
中 種数 (%)	2(6)	3(13)	15(33)	12(30)	0	8(20)	8(33)	48(22)
強 種数 (%)	20(66)	15(65)	23(51)	15(37)	10(77)	24(66)	6(25)	113(52)
付着物	有 種数	16	19	9	8	0	16	11
完形度	K(完形) 種数 (%)	0	1(4)	1(2)	0	0	1(3)	1(4)
接合状況	A(完形以上) 種数 (%)	2(9)	3(7)	1(3)	0	2(5)	1(4)	10(6)
連携+接合 (接合箇所数)	B(40%～90%) 種数 (%)	3(10)	1(4)	2(4)	0	0	0	1(4)
連携+接合 (接合箇所数)	C(40%以下) 種数 (%)	26(86)	19(82)	39(87)	39(87)	13(100)	37(92)	21(89)
連携+接合 (接合箇所数)	2	1	5	8	1	11	3	-----
連携+接合 (接合箇所数)	5	2	10	19	2	15	-----	-----
連携+接合 (接合箇所数)	4	0	2	1	0	0	0	-----
連携+接合 (接合箇所数)	27	0	7	8	0	0	0	-----
連携+接合 (接合箇所数)	2	6	0	1	1	0	3	-----
連携+接合 (接合箇所数)	13	28	0	3	3	0	10	-----

第6表 後期旧石器時代II期疊群属性一覧表

かけて検出された。標高約89.7mの緩斜面に27点の疊からなる。石材はホルンフェルス10点・砂岩7点・尾鈴山酸性岩類3点で、平均重量は199 gである。

3点の疊を除き、すべて赤化している。疊群内で3組7点、散疊と3組10点が接合した。特にD6グリッド北側及び東側の疊と疊群内の疊が接合しており、D6グリッド杭を囲むような空間ができている。

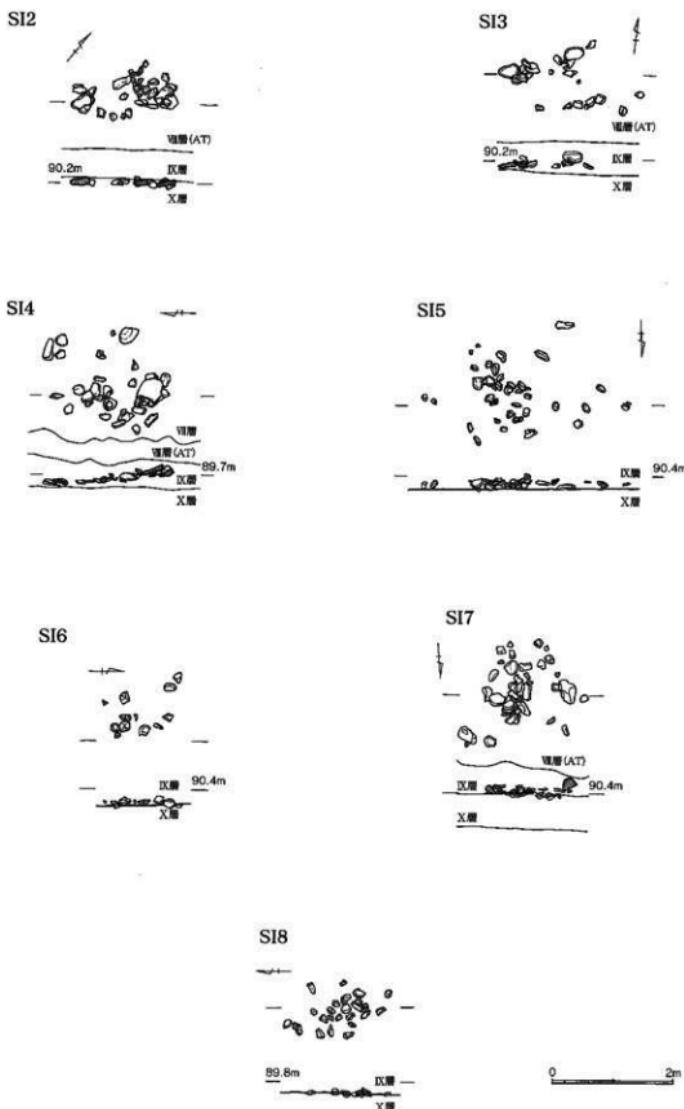
#### 散疊

散疊は調査区北部～北東側に多く、南側や西側には少ない。総疊数は325点で、ホルンフェルスが187点(58%)・砂岩102点(31%)・尾鈴山酸性岩類18点(6%)・頁岩12点(4%)・その他6点(2%)となり、疊群の構成割合に近い。平均重量は489 gで、疊群構成疊(平均232 g)の2倍以上の重さになる。

疊の約85%が%に赤化がみられるが、疊群構成疊に比べると赤化率はやや下がる。完形率は30点(9%)で、疊群構成疊の4点(2%)に比べると若干高いが、破碎疊が中心であることは同じである。

	検出面	IX層下部
尾鈴山酸性岩種数 (%)	18(6)	
石材 重量(g) (%)	31873(20.0)	
砂岩種数 (%)	102(31)	
の 分 類 と そ の 割 合	重量(g) (%)	27312(17)
頁岩種数 (%)	12(4)	
重量(g) (%)	4092(2.5)	
ホルンフェルス種数 (%)	187(58)	
その他の種数 (%)	91180(57.4)	
重量(g) (%)	4356(3)	
疊合計数	325	
総重量(g)	158,813	
平均長 (cm)	9.3	
平均幅 (cm)	6.2	
平均厚 (cm)	3.8	
平均重量 (g)	489	
赤化度	非赤化 種数 (%)	47(14)
鶴 種数 (%)	79(24)	
中 種数 (%)	76(16)	
強 種数 (%)	123(38)	
付着物	有 種数	42(13)
完形度	1 種数 (%)	30(9)
接合状況	1 種数 (%)	39(12)
連携+接合 (接合箇所数)	2 種数 (%)	45(9)
連携+接合 (接合箇所数)	3 種数 (%)	211(65)
連携+接合 (接合箇所数)	4	13
連携+接合 (接合箇所数)	5	57
連携+接合 (接合箇所数)	6	37
連携+接合 (接合箇所数)	7	117

第7表 後期旧石器時代II期散疊属性表一覧



第15図 後期旧石器時代Ⅱ期縄群実測図 ( $S = 1/40$ )

## (2) 遺物

後期旧石器時代Ⅱ期の出土遺物の器種・石材組成は、下の第8表のとおりである。

### ○石器器種

出土石器は136点である。内訳はナイフ形石器2点、石斧1点、石核2点、使用痕剥片1点、蔽石4点、剥片110点、チップ11点である。石器の器種別の分布状況を第16図に示す。

### ○遺物分布

石器は調査した北部全域から出土した。特に石器ブロックと認められる集中箇所は認められないが、調査区北東端で頁岩・流紋岩製剥片・チップがまとまって出土する箇所が見られる。この付近は、上層のIXa層（後期旧石器時代Ⅲ期）で検出した石器ブロックのちょうど下位にあたる。東に下る斜面でもあり、土層の堆積はやや不安定な場所といえる。接合関係は確認できなかったが、石材等に共通点もあり、上層の遺物が混入している可能性もある。

### ○石材

石材の内訳は、頁岩74点、ホルンフェルス37点、流紋岩16点、砂岩9点である。石材別の遺物分布状況を第17図に、観察表は第9表に示す。

### ○接合資料

接合関係は、第17図の石材別遺物分布図に示している。Ⅱ期出土遺物は、6組33点が接合した。石材別では頁岩が3組26点、ホルンフェルス3組7点である。そのうち1組を図化（接合資料2）し、第19図に掲載した。

接合資料2は、C6グリッド周辺に出土した頁岩製剥片と石核の接合関係が確認されたものである。C6グリッド北側に出土した石器と南側に出土した石器20点が、真ん中に遺物のない空間を挟んで接合している。剥片の多くが礫面を残し、一部には二次加工が施されているものもあった。

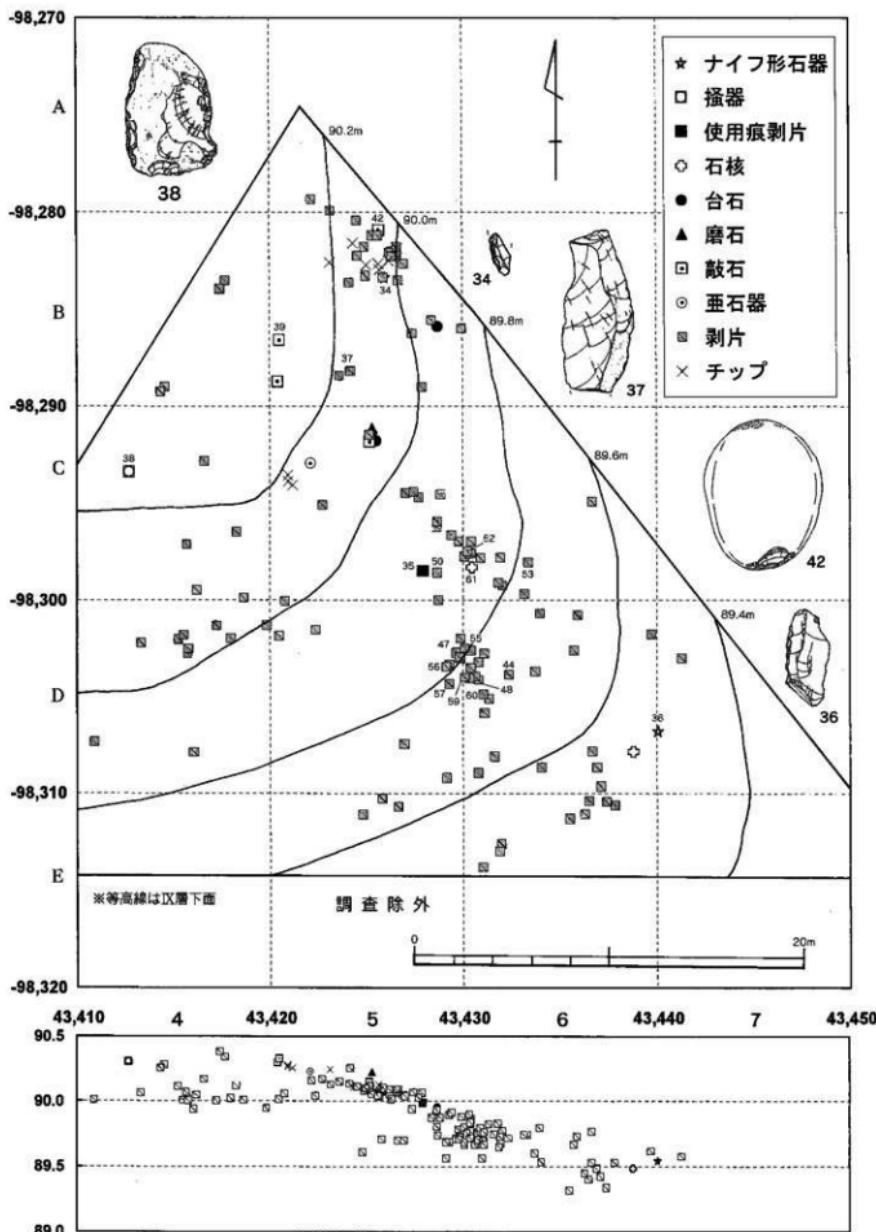
この付近では、礫にも同様の接合関係が確認され、S18出土礫及び近辺の散礫と、C6グリッド北側及び東側に出土した多くの礫が、石器同様、空白地を挟んで接合している。活発な人間活動が行われていた痕跡と考えられる。

### 【接合資料2：頁岩】（第19・20図）

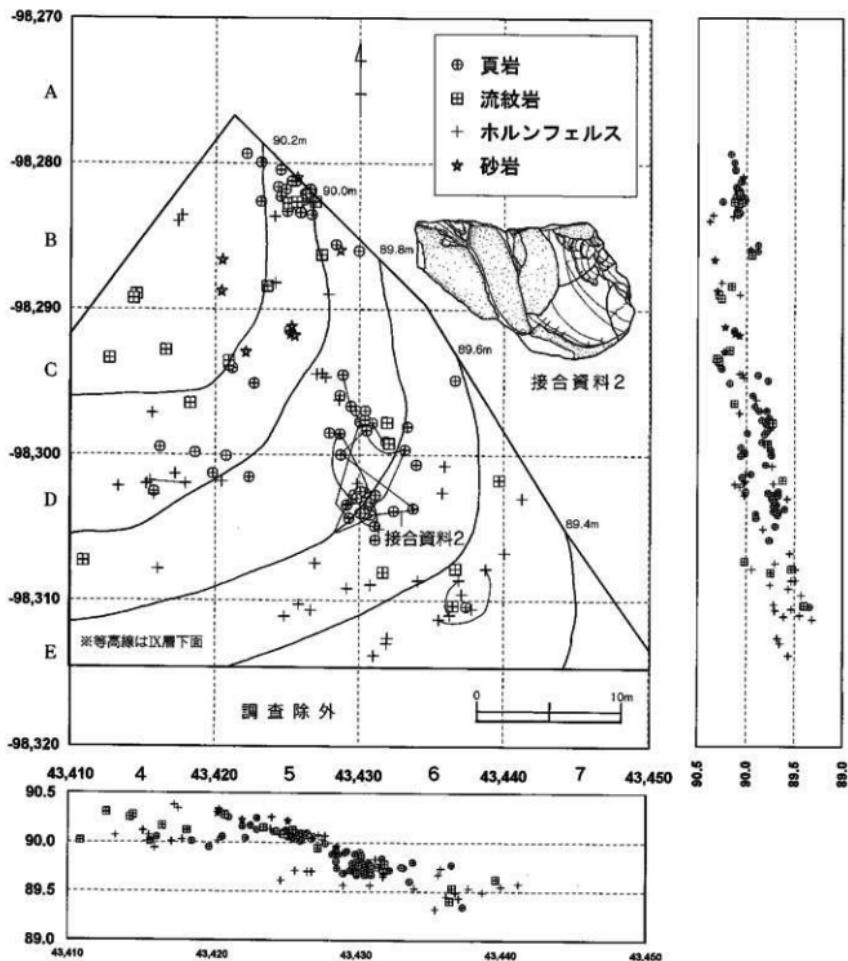
接合資料2は、石核2点、剥片18点が接合したものである。手のひらサイズの母岩を正面・裏面・上下・左右から剥ぎ、一部自然面は残しながら作業面を作り出している。特に正面上部は数回の剥離を繰り返し、平坦面を作り出している。その後、まず左側面上から43を剥ぎ、右に90度回転させ（44+45）→46→47と剥いで作業面を作る。剥離の際の衝撃で44は45から折れたと推察される。再び左に90度もどし、正面上から48→（49+50）を連続して剥ぐ。次に左に90度回して51を、180度回転して52→53を剥いでいる。その後再び正面に戻して54を取った。さらに左側面の整形のため、小剥片を55→56→57→58→59→60と剥いでいき、最後に残核61が残った。打面を転移させながら、不定形の剥片を連続して剥いでいる。

石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	砂岩	計
ナイフ形石器		1	1		2
石斧	1				1
使用痕剥片		1			1
石核		1	1		2
磨石				1	1
台石				3	3
蔽石				4	4
亜石器(蔽石)				1	1
剥片	12	64	34		110
チップ	3	7	1		11
計	16	74	37	9	136
総重量(g)	271.6	931.6	960.2	2583.5	
平均重量(g)	15.9	13.5	22.1	287	

第8表 後期旧石器時代Ⅱ期石器・石材組成表



第16図 後期旧石器時代Ⅲ期器種別遺物分布図 (S = 1/250)



第17図 後期旧石器時代Ⅱ期石材別遺物分布・接合状況図( $S = 3 / 1,000$ )

番号	NO	グリッド	層	器種	石器 ブロック	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	周土度 X Y Z	国上理 Y X Z	レベル (m)	備考
【貝岩】(第18回)													
34	5093	B 64	IX下	ナイフ形石器	1.8	0.6	0.6	0.4	-98283.356	63425.976	90.067	左側縁に腹底からの剥離を示している。上面は欠損している。	
35	6057	C 53	IX下	使用痕跡片	4.8	3.4	1.5	13.1	-98288.506	63427.913	90.065	右側縁に伴う微細な剥離を伴つ。下面に自然面を残す。	
【ホルンフェルス】(第18回)													
36	5542	D 71	IX下	ナイフ形石器	5.9	2.6	1.0	18.3	-98306.780	63440.053	89.545	縦長削りを素材に、左側縁の中央から上縁にかけて剥離を示す。下面に自然面を残す。	
37	5668	B 61	IX下	剥片	9.9	4.3	2.0	78.9	-98288.212	63424.199	90.257	右側縁上面に自然面を残す。やや大型の剥離痕がある。正面の刃部が大きい。下面は欠損している。右側縁に自然面を残す。	
【流紋岩】(第18回)													
38	6134	C 42	IX下	石斧	8.2	5.5	1.7	78.7	-98293.394	63412.708	90.305	背面下端及び左側縁に剥離を示す。右側縁には自然面を残す。刃部は人工的な刃部である。背面には自然面を残す。	
【砂岩】(第19回)													
39	5556	B 51	IX下	磨石	13.7	4.1	4.3	342.6	-98286.609	63420.513	90.328	縦長いV字形を示している。下側縁に平行打痕と斜打痕を行う事による自然面が形成される。	
40	6170	C 54	IX下	磨石	6.9	4.8	3.2	145.0	-98291.647	63425.203	90.149	中等のV字形の刃部削離を伴つ。下側縁に平行打痕を行つ。	
41	6181	B 51	IX下	磨石	9.3	5.8	3.2	199.6	-98288.721	63430.420	90.229	腹底に大きな剥離痕を伴つ。下側縁に平行打痕を行つ。	
42	6182	B 54	IX下	磨石	9.2	7.0	3.0	197.8	-98280.905	63425.895	90.036	やや横のV字形が示した痕跡の下側縁に平行打痕を留める。下縁には、側面に伴う剥離痕を伴せ持つ。	
【接合資料】													
【結合資料2: 貝岩】(第19回)													
43	6315	D 62	X	剥片	7.7	4.8	2.5	72.7	-98304.122	63420.799	89.673	腹底に大きく剥離を示す。右側縁には、背側面側面に自然面を残す。	
44	6312	D 62	IX下	剥片	2.6	1.9	0.7	2.7	-98302.506	63430.093	89.667	右側縁を伴する不安定剥離片。	
45	6289	D 62	IX下	剥片	2.4	1.8	0.9	3.4	-98303.860	63432.384	89.717	刃部が分立していたが、剥離の跡等で削れた。背面には下縁から腹底の剥離の跡を受けていた。	
46	6433	D 62	X	剥片	4.4	3.4	2.1	18.5	-98303.712	63433.733	89.601	45.5に接合していたが、下側縁には平行打痕を残す。	
47	6123	D 61	IX下	剥片	2.5	1.9	0.9	3.2	-98304.041	63430.543	89.899	46.5の剥離する間に刻まれた小形の剥片。上縁に平行打痕を残す。	
48	6310	D 54	IX下	剥片	5.2	4.9	2.0	34.1	-98302.729	63429.052	89.714	やや幅の狭いV字形が示した痕跡の下側縁に平行打痕を留める。	
49	6314	D 62	IX下	剥片	7.7	5.7	1.9	62.1	-98303.943	63430.633	89.096	右側縁に平行打痕を残す。側面を削除するため44.5に接して剥離した。	
50	6283	D 54	X	剥片	2.6	1.1	0.6	1.1	-98300.838	63428.720	89.737	正面右側に剥離を示す。45.5に接して側面を削除するため44.5に接して剥離した。上面に平行打痕と削痕がある。	
51	6302	C 53	IX下	剥片	5.5	3.6	1.6	23.8	-98298.574	63428.663	89.805	50.5の上面に削離した跡を隠す剥離された。50.5の上面を削除して、その後、何らかの剥離で削られたと思われる。	
52	6244	C 61	IX下	剥片	5.8	4.3	2.1	34.3	-98297.742	63430.065	89.798	背面などに剥離を残した不安定剥離片。背面が上部にて、おもに右側に削離した跡が残る。	
53	6241	C 61	IX下	剥片	7.2	3.2	1.6	54.3	-98297.823	63430.894	89.795	背面正面に削離を残した跡のV字形を示す。	
54	6247	C 61	IX下	剥片	4.8	4.2	2.0	31.5	-98299.876	63433.177	89.741	背面が下側縁にV字形を示す。背面を削除するため44.5に接して剥離した。	
55	5535	C 61	IX下	剥片	3.8	1.6	1.2	5.2	-98299.099	63431.817	89.829	背面安定期剥離するため削れたV字形剥離片。背面は下縁に剥離痕がある。	
56	6313	D 62	IX下	剥片	4.1	2.9	2.5	20.4	-98302.390	63430.407	89.769	55.5同じく剥離面を整めたため削れた不安定剥離片。背面に伴う剥離を示す。	
57	6318	D 54	IX下	剥片	2.0	1.5	0.6	1.7	-98303.412	63429.151	89.686	56.5が剥離する同時に削れた。55.5の剥離物が作業場内に飛ばされた。	
58	6126	D 53	IX下	剥片	3.5	1.6	1.2	3.6	-98304.348	63429.296	89.897	背面にV字形を示す。	
59	6286	D 62	IX下	剥片	3.2	2.6	1.2	8.8	-98303.234	63430.804	89.708	55.5-60.5に伴う上面に剥離を示す跡のV字形を示す。背面に削離されたV字形剥離片。	
60	6287	D 62	IX下	剥片	2.2	1.7	1.1	3.2	-98304.009	63430.109	89.895	59.5-61.5にV字形を示す剥離された不安定剥離片。	
61	6288	D 62	IX下	剥片	2.9	1.0	1.1	2.0	-98304.493	63431.055	89.699	59.5-62.5同じくV字形を示す剥離された不安定剥離片。	
62	6240	C 61	IX下	石核	9.0	6.3	6.3	163.1	-98298.334	63430.486	89.778	剥離を伴とするため、下方から剥離痕剥離が行われた後の核。	

第9表 後期旧石器時代Ⅱ期石材別器複察表

### (3) 小結

後期旧石器時代Ⅱ期では、礫群7基と散礫が出土した。礫群は、密集度・赤化率・付着物等の割合が高く、火処として使われた形跡が伺える。遺物はほとんど伴わない。前章「三次調査の記録」で報告したA-T下位礫群の多くが散漫な出土状況で、さらに多くが遺物を伴っていたのとは対象的である。

こうした中、Ⅱ期の礫群の中で最も南で検出されたS-I 23は、礫群内から遺物が出土し、周辺遺物と接合関係も複数確認できるなど、他の礫群と違った

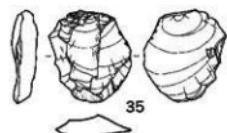
特徴をもつ。この礫群周辺で出土した接合資料2は、この時代の剥片剝離作業工程を復元する貴重な資料となった。

Ⅱ期の遺物は、総数136点で、石材は頁岩・流紋岩・ホルンフェルス・砂岩と住地産の素材を活用していることがわかる。製品の数は少ないが、頁岩製の一側縁加工の小型ナイフ形石器、ホルンフェルス製の中型ナイフ形石器、他の場所から単独持ち込みと思われる流紋岩製の石斧の出土を特徴としてあげておきたい。

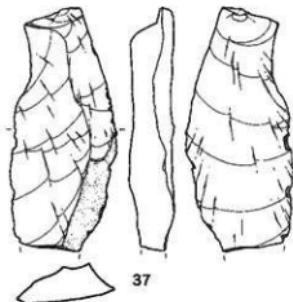
[頁岩]



△ 34

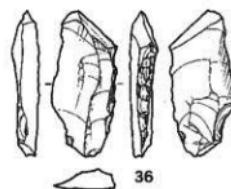


35



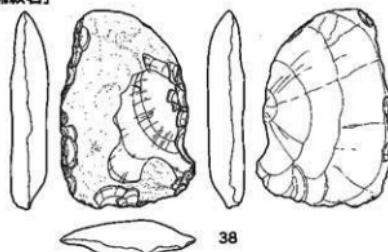
37

[ホルンフェルス]

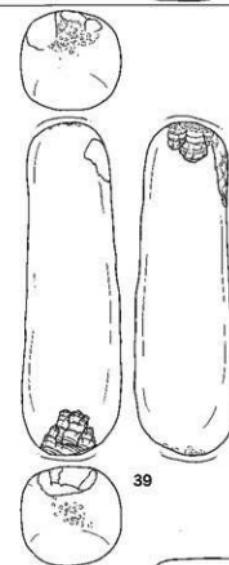


36

[流紋岩]

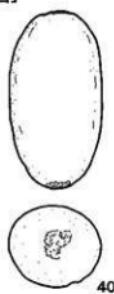


38

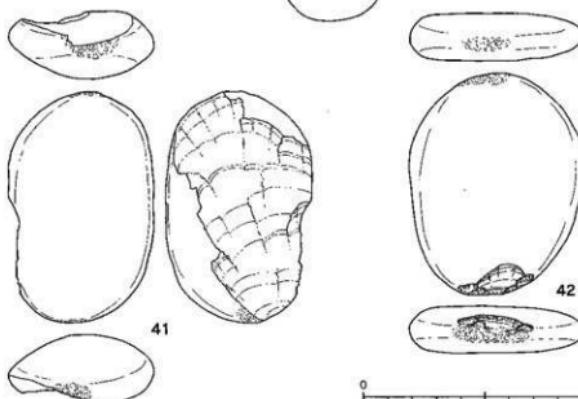


39

[砂岩]



40



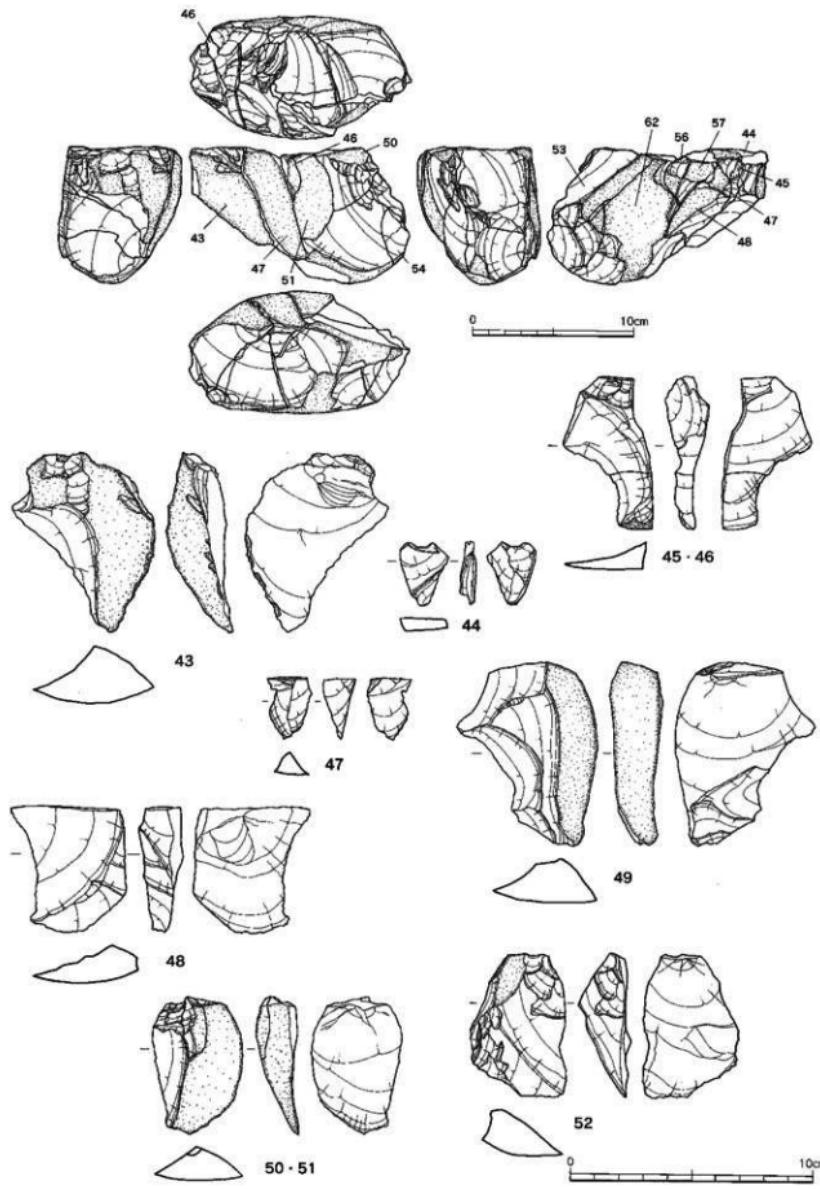
41

10cm

0

第18図 後期旧石器時代石材別石器実測図 (1) (S=1/2)

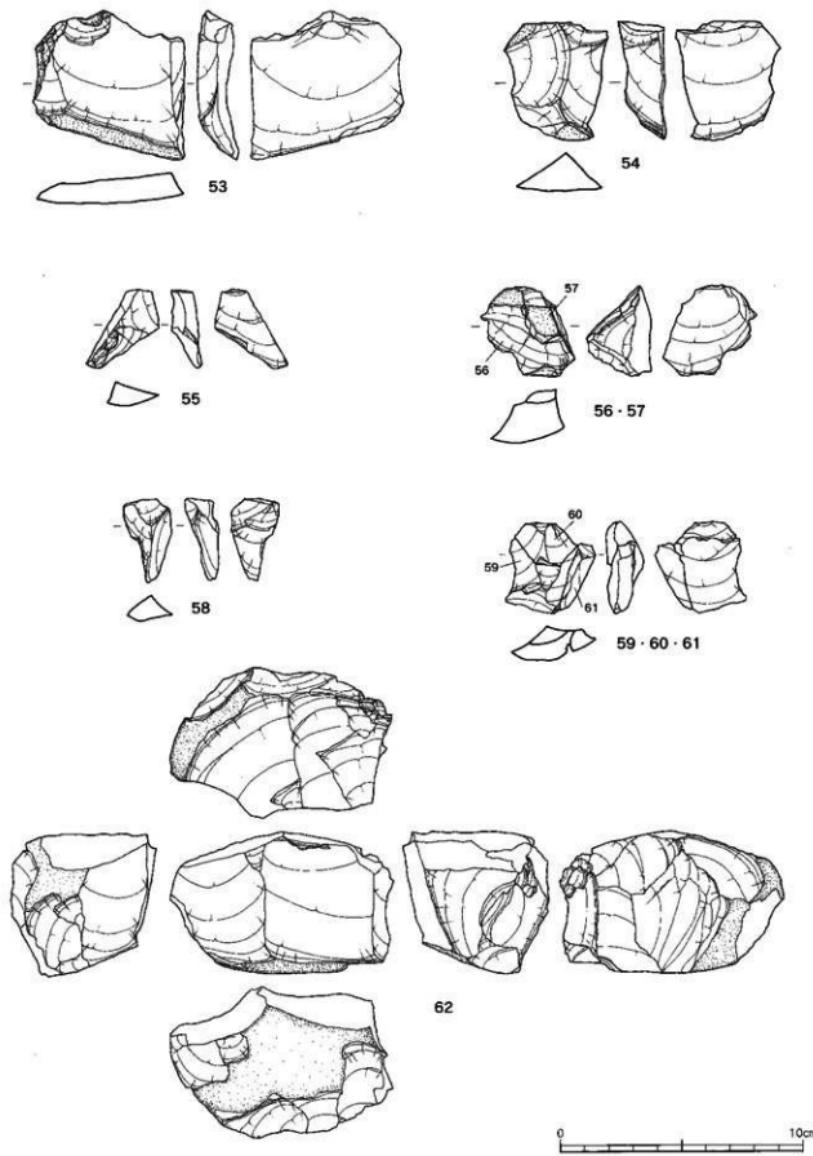
[接合資料2：頁岩]



第19図 後期旧石器時代Ⅱ期石材別石器実測図(2)

(接合図 S=1/3 43~52 S=1/2)

[接合資料2：頁岩]



第20図 後期旧石器時代Ⅲ期石材別石器実測図（3）(S = 1/2)

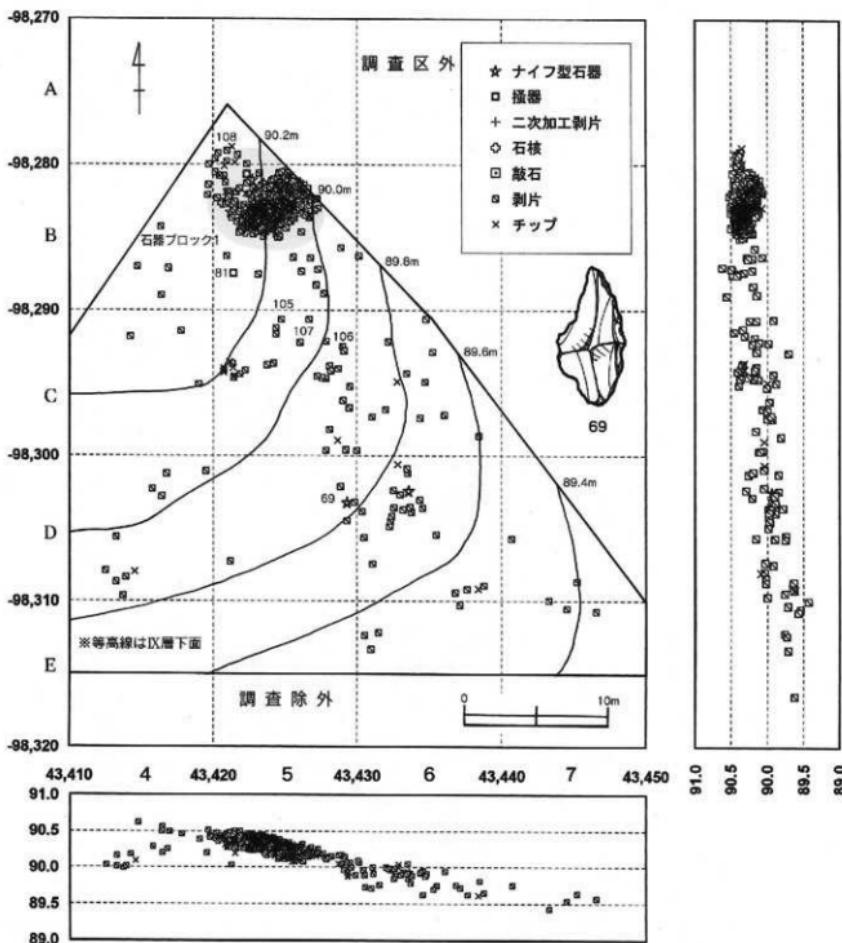
### 3 後期旧石器時代Ⅲ期

A T直下の暗褐色土上部(IX a層)を調査した結果、遺構は検出されなかったが、調査区北部から遺物757点が出土した。調査区北東壁際には石器ブロック1箇所も確認された。この時代を後期旧石器時代Ⅲ期とする。東九州自動車道関連の基本層序では、

MB2上部にあたる。調査面積は、調査区北部を中心約1,400m<sup>2</sup>になった。

#### (1)遺物

II期の遺物出土状況は、下の第21図のとおりである。各遺物の観察表は、第13表に示す。



第21図 後期旧石器時代Ⅲ期器種別遺物分布図 (S = 3 / 1000)

### ○石器器種

出土石器は757点である。内訳は、ナイフ形石器22点、搔器2点、石核4点、二次加工剥片22点、敲石2点、剥片555点、チップ168点である。

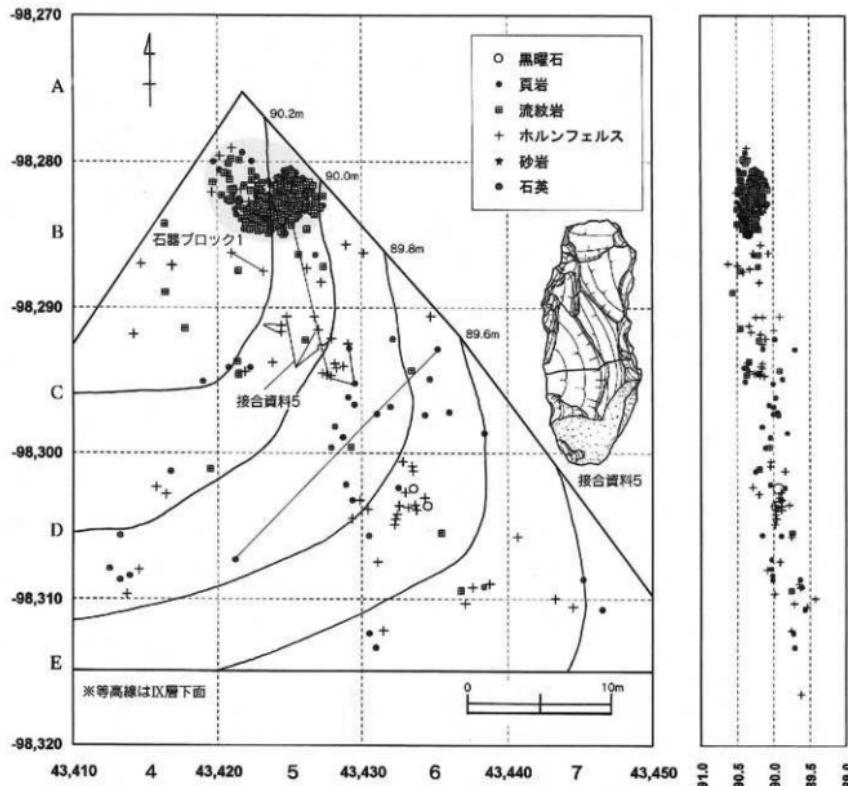
### ○遺物分布

石器は調査した北部全域から出土した。特に北東部の壁際には、頁岩・流紋岩製剥片やチップを主体とする遺物が集中する箇所が認められた。これを石

器ブロック1とする。

### ○石材

石器石材の内訳は、頁岩377点、流紋岩256点、ホルンフェルス63点、黒曜石2点、砂岩2点、石英2点、不明53点である。石材別の遺物分布及び接合状況を第22図に、石器・石材組成を第10表に示す。



第22図 後期旧石器時代Ⅲ期石材別遺物分布 ( $S = 3 / 1,000$ )

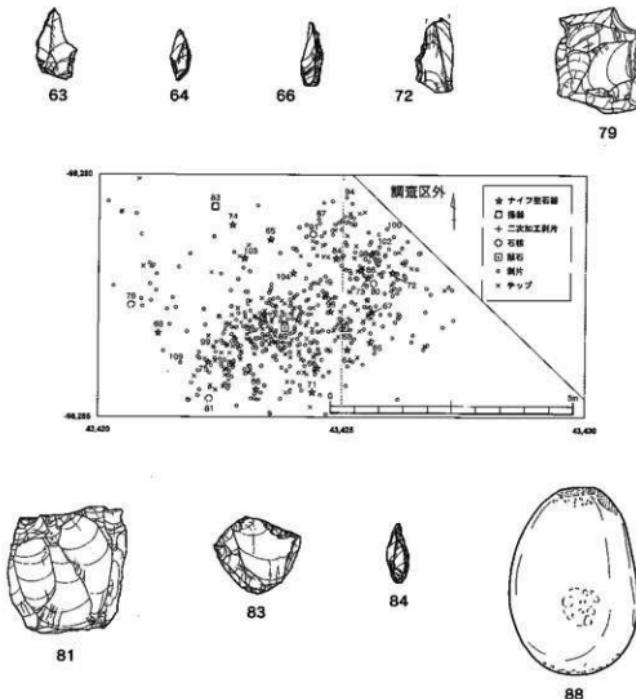
### 【石器ブロック 1】

石器ブロック 1 は、調査区北東部の B 5 グリッド壁付近に、総遺物数 628 点を数える。長径は 8 m、短径 6 m を測る。この範囲にⅢ期の出土遺物の約 83 % が集中する。石器製品は頁岩・流紋岩製ナイフ形石器 22 点、搔器 1 点があり、石核が 4 点、敲石も 2 点出土している。石器ブロックの大部分を構成しているのは、頁岩・流紋岩製の剥片やチップで、約 60 0 点を数える。石器ブロック 1 出土遺物の器種・石材別組成は第 12 表に示した。

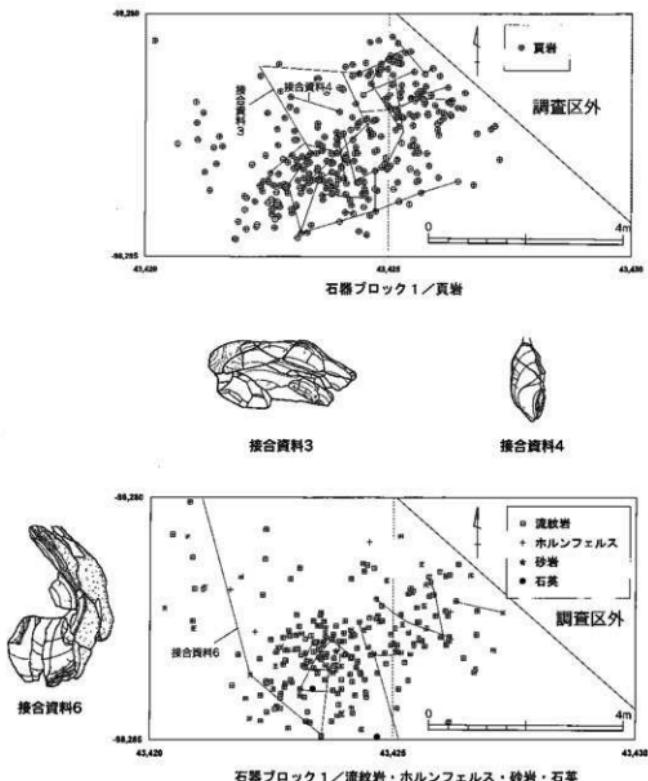
第 23 図は、石器ブロック内の器種別遺物の出土状況である。石材別分布とその接合状況を頁岩、それ以外の石材に分けて第 24 図に示した。

石材 器種	流紋岩	頁岩	頁岩+流紋岩	砂岩	石英	不明	計
ナイフ形石器	3	19					22
搔器	1						1
二次加工剥片							
石核	1	3					4
敲石				2			2
剥片	150	274	6		2	11	443
チップ	83	43				39	166
計	238	339	6	2	2	41	628

第 11 表 石器ブロック 1 石器・石材組成表



第 23 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器ブロック 1 器種別遺物分布 (S=1/100)



第24図 後期旧石器時代Ⅲ期石器ブロック1石材別遺物分布・接合状況図 ( $S = 1/100$ )

石器ブロック1から出土した石器は、小型薄手の継長剥片を量産しナイフ形石器製作をする（藤本2005）という、これまで宮崎平野で多く見られてきたAT直下出土石器の様相に合致している。また、出土例は少ないが、厚手の不定形剥片を使いスクレイバー類が製作されている点も特徴としてあげてお

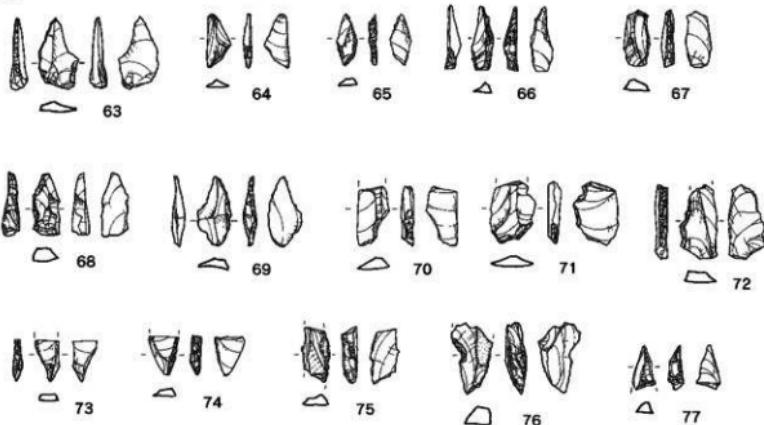
きたい。

接合関係を見ると、頁岩は、13組の接合が確認されたが、いずれも石器ブロック内の接合である。流紋岩は接合例は8組と少なくなるが、2組が石器ブロック外の石器と接合するもので、最大10mを越える接合例が確認された（第22図参照）。

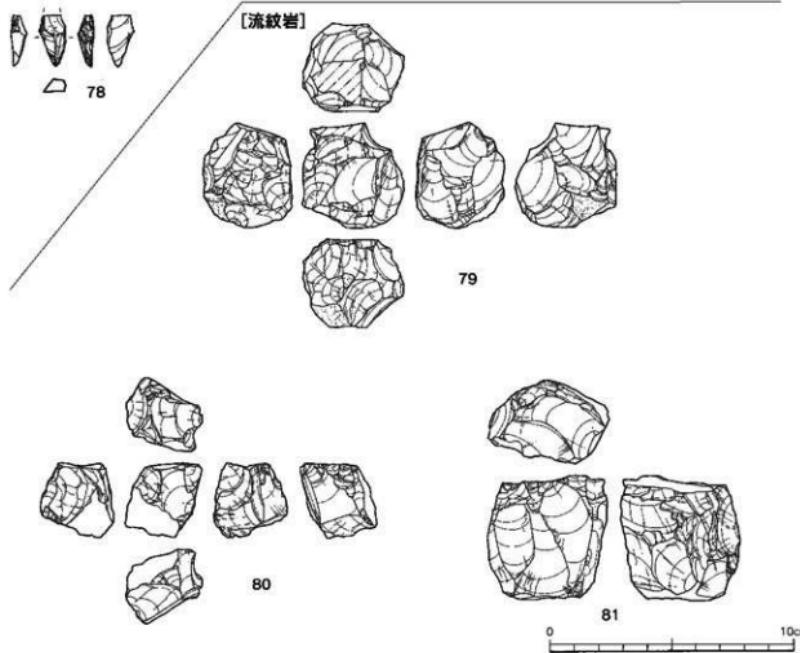
番号	地點番号	タグド	層	小形 ブロック	基種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	国土資源 X座標	国土資源 Y座標	レベル (m)	備考
【資料】(第25回)													
63	5368	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	2.9	1.6	0.6	2.1	-98281.342	43423.517	90.337	左側縫と右側縫下部に腹面からの調整が入る二側縫加工である。基部に一括加工した形跡がある。
64	5476	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	2.2	0.9	0.4	0.5	-98283.613	43425.112	90.298	基部に腹面からの調整痕を持つ。背面上面にも小さな調整痕がある。
65	5479	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	2.1	0.8	0.3	0.5	-98283.461	43425.586	90.29	右側縫及び左側縫下部に腹面からの調整が入る二側縫加工である。
66	5860	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	2.5	0.9	0.5	1.0	-98283.991	43424.496	90.281	右側縫には背腹両面からの対向調整が入る。左側縫下部にも、腹面からの調整が入る二側縫加工である。
67	5863	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	2.3	0.9	0.5	1.2	-98282.829	43425.610	90.166	右側縫から上部右侧にかけて、腹面からの細かな調整痕がある。
68	5832	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	2.5	1.1	0.7	1.9	-98283.287	43421.324	90.415	左側縫には背腹両面からの対向調整が入る。基部加工を施した形跡がある。
69	6122	D 54	IX上		ナイフ形石器	2.9	1.3	0.5	1.3	-98303.221	43429.328	89.889	右側縫に腹面からの調整が入る。左側縫中央付近にも腹面からの調整痕がわずかに確認できる。刃部に使用に伴う摩擦が確認される。
70	5397	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	2.5	1.2	0.5	1.4	-98282.822	43424.790	90.338	右側縫下部から腹面にかけて、腹面からの調整痕が入る。上部は欠損している。
71	5459	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	2.6	1.7	0.5	1.4	-98284.485	43424.394	90.348	右側縫下部から基部にかけて、腹面からの加工が施される。上部は欠損している。
72	5491	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	3.0	1.5	0.5	2.4	-98282.027	43426.040	90.257	左側縫に腹面からの調整を入れ、刃差し加工を施す。上部は欠損している。
73	5581	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	1.7	0.9	0.5	0.6	-98282.132	43425.521	90.260	左側縫には、背腹両面からの対向調整が入り、刃差し加工を施す。上部は欠損している。
74	5616	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	1.5	1.2	0.5	0.8	-98281.036	43422.736	90.321	右側縫には、背腹両面からの対向調整が入り、刃差し加工を施す。上部は欠損している。
75	5723	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	2.2	1.1	0.6	1.5	-98283.871	43422.353	90.398	背面下部には肋溝面があり、左側縫には腹面からのやや低い調整が入る。上下端部も欠損している。
76	5943	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	2.8	1.6	0.7	2.5	-98281.647	43425.596	90.178	背面右上部に自然溝面があり。右側縫に腹面と背面から対向調整を行なう。刃部から剥離が見られる。上面は折れ曲がっている。
77	5974	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	1.7	0.9	0.6	0.7	-98282.147	43425.303	90.197	右側縫上部には背腹両面から腹面が、左側縫上部には、腹面からの調整痕が入る。下部は欠損している。
78	6009	H 62	IX上	1	ナイフ形石器	2.1	1.0	0.6	1.3	-98282.992	43424.091	90.212	右側縫には背腹両面から腹面が、左側縫上部には、腹面からの調整痕が入る。上部は欠損している。
【流紋岩】(第25-26回)													
79	5631	B 62	IX上	1	石核	4.9	4.3	4.3	75.7	-98282.683	43420.667	90.375	サイコロ状に形を整えた原石を、上・下・左右と打点を施しながら、磨耗して剥片を削り出している。一部に熱因・鉛錆因跡がある。
80	5490	B 54	IX上	1	石核	3.2	3.2	2.5	27.0	-98282.246	43425.643	90.257	約3mm角のサイコロ状に形を整えた、面を変化させながら成長の削除を繰り返して削り出している。
81	5922	B 52	IX上	1	石核	3.2	4.7	3.3	100.1	-98284.622	43422.382	90.258	約5cm角のサイコロ状に形を整え、背面・上部に鋸歯の削除を繰り返して削り出している。
82	6510	B 51	IX上		細胞	4.0	3.9	1.2	17.5	-98287.459	43421.423	90.460	円筒削り下部から左側縫にかけて、腹面からの打痕により、万能刀を作り出している。
83	6043	B 52	IX上	1	細胞	3.3	2.9	1.1	10.3	-98280.659	43422.373	90.29	左側縫から下部、右側縫上部にかけて、腹面からの打痕により万能刀を作り出されている。
84	5607	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	1.9	0.7	0.7	1.1	-98281.727	43424.872	90.222	右側縫に腹面と背面からの対向調整が入る。基部加工が施されている。
85	5725	B 52	IX上	1	ナイフ形石器	2.5	1.3	0.8	1.7	-98284.429	43423.228	90.306	左側縫には、腹面からの調整が入る。下部は欠損している。
86	5847	B 54	IX上	1	ナイフ形石器	2.9	1.1	0.7	1.9	-98281.971	43425.383	90.141	左側縫には、腹面からの調整が入る。上部は欠損している。
【ホルンフェルス】(第26回)													
87	5377	B 52	IX上	1	剥片	9.3	3.8	1.5	40.3	-98280.921	43424.503	90.284	人型の擬長刃片で、背面・下面に自然曲面、裏面に擦痕面を持つ。上端には細かな剝離の跡がある。
【砂岩】(第26回)													
88	6184	B 52	IX上	1	細石	7.7	5.1	3.5	182.3	-98283.164	43425.060	90.135	上下両端に麻痺痕を持つ。背面や右下に擦打による凹みを伴う。
89	6185	B 52	IX上	1	細石	6.3	4.8	4.7	179.4	-98283.176	43423.827	90.230	下面に擦打痕が認められる。
【黒曜石】(第26回)													
90	6060	D 62	IX上	1	ナイフ形石器	1.3	1.0	0.4	0.5	-98302.454	43433.566	89.934	左右两侧縫に腹面からの調整が入る。上部は折れて欠損している。背・腹両面に平坦な剝離面を施した跡がある。

第12表 後期旧石器時代Ⅲ期石材別石器観察表(1)

[頁岩]

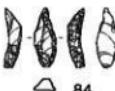
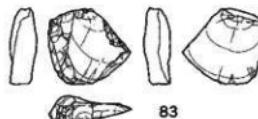
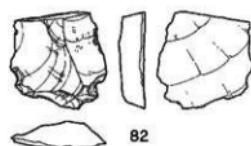


[流紋岩]

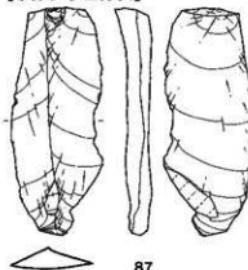


第25図 後期旧石器時代Ⅲ期石材別石器実測図（1）(S = 1/2)

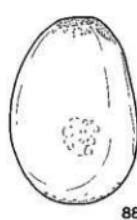
【流紋岩】



【ホルンフェルス】



【砂岩】



【黒曜石】



第26図 後期旧石器時代Ⅲ期石材別石器実測図(2) (S=1/2)

○接合資料

石器の接合は、28組97点が接合した。このうち20組78点が石器ブロック1内の接合である。その中の3組を実測、第27~29図に掲載した。

【接合資料3:頁岩】(第27~28図)

頁岩製石核1点と剥片11点が接合した。接合資料3は、礫面を大きく残す上面と数回の剥離をうけた下面では、外観は多く異なる。はじめに正面左の92を剥いでいる。92は左側縁にさらに加工を加えられている。次に、作業面を礫面の残る上面に移し、93→(94+95+96)→97と剥いでいる。さらに作業面を下面に変え、98を剥離する。統いて99→100→101→102と打点を変えながら剥片を剥離していく、最後に残核91を残し、作業が終了した。

【接合資料4:頁岩】(第28図)

接合資料4は、2点の頁岩製ナイフ形石器103と104が折れ面で接合したものである。

【接合資料5:ホルンフェルス】(第28図)

接合資料5は、ホルンフェルス製剥片3点が接合したものである。縦長の大型剥片の両側縁を加工する際、剥離の衝撃で107が剥がれ、中央付近から105、106に分離したと考えられる。

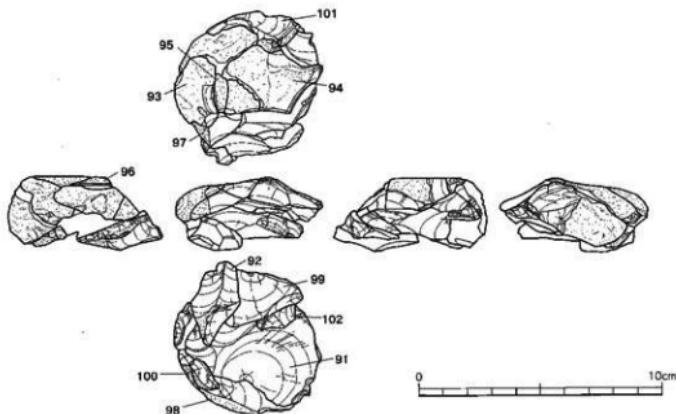
【接合資料6:流紋岩】(第29図)

礫面を大きく残す母岩の表皮を剥離し、打面を形成する。そこから106→107→108→109の順に剥離している。取り出された剥片の中には、さらに細かな調整痕が施されたものもあり、製品を作るため薄手の縦長剥片を連続して取ろうとした意図が伺える。

番号	記述 標名	ワード 類	石器 ブロック	形種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	国土標準 X座標	国土地理 Y座標	レベル (m)	備考	
【接合資料3:頁岩】(第27図 91~102)													
91	5371	B S2	IX上	1	石片	5.4	3.9	2.1	-98281.234	43424.389	90.314	背面・腹面の上下・左右から数箇所の剥離を複数個している。右側面には背面から二次加工を加えた痕跡がある。	
92	5896	B S2	IX上	1	一次加工石片	3.4	2.0	0.9	-98282.885	43423.397	90.321	左側面に背面両面からの加工の跡がある。正面に擦痕を残す。	
93	5495	B S4	IX上	1	剥片	2.9	2.0	0.9	4.1	98281.976	43423.119	90.319	背面全体に自然面を大きくすくすくした剥離中央に腹面から、腹面上部に背面からの剥離を残す。
94	5818	B S1	IX上	1	剥片	4.1	3.0	1.1	10.5	-98280.472	43425.069	90.247	94+95+98は、同じ作業場にて刻離された。その後さらに削離された。いずれも背面に自然面を大きくすくすく。95は右側面に背面からの剥離を残す。
95	5827	B S2	IX上	1	剥片	1.6	0.6	0.6	0.5	-98283.599	43423.726	90.296	94+95+98は、同じ作業場にて刻離された。その後さらに削離された。いずれも背面に自然面を大きくすくすく。95は右側面に背面からの剥離を残す。
96	6638	B S2	IX上	1	剥片	1.7	1.2	0.9	1.2	-98282.469	43424.033	90.238	背面全体に自然面を残す。剥離の跡、不自然な跡が残る。
97	5651	B S2	IX上	1	剥片	2.7	1.9	0.9	3.1	-98282.875	43423.939	90.382	背面上面に自然面を残す。右・左上・上から刃形により大きな剥離を残している。
98	5498	B S4	IX上	1	剥片	1.5	0.6	0.6	0.5	-98281.796	43425.644	90.256	背面左方に自然面を残す小面の不定形剥片。
99	5915	B S2	IX上	1	剥片	4.0	2.0	1.6	8.9	-98283.289	43422.572	90.301	不定形剥片。
100	5858	B S4	IX上	1	剥片	3.6	2.1	1.2	5.6	-98281.126	43425.915	90.196	背面右方に自然面を残す。剥離の跡、不自然な跡が残る。
101	5608	B S2	IX上	1	剥片	4.3	2.7	1.5	13.4	-98281.028	43421.841	90.233	背面右上に及ぶひびき状の剥離を残す。背面には上・むちら・かしわ形の剥離を分けた感がある。
102	5867	B S4	IX上	1	剥片	2.0	1.4	0.6	1.6	-98281.242	43423.764	90.204	背面に上下・左右から剥離を受けている。やや下端よりの腹面に自然面を残す。
【接合資料4:頁岩】(第28図 103~104)													
103	5826	B S2	IX上	1	ナイフ形石器	1.8	0.8	0.7	0.7	-98281.720	43422.983	90.389	右側面に背面両面からの対角剥離を残す。何かちの痕跡で二つに分れたと考えられる。103上部には比較的新しい剥離の跡がある。
104	5834	B S2	IX上	1	ナイフ形石器	2.7	1.2	0.8	2.0	-98282.027	43423.990	90.302	背面に自然面を残す。
【接合資料5:ホルンフェルス】(第28図 105~106)													
105	5841	C S2	IX上		剥片	5.2	3.7	1.8	25.9	-98290.636	43424.760	90.147	正面左側に約10cmほどの大型剥片の跡にあたる。背面から自然面を残すが、そこに長いものかじようじした剥離がある。
106	6844	C S4	IX上		剥片	6.2	3.8	1.8	49.1	-98292.129	43427.890	90.107	背面の左方・両側面に背面両面からの対角剥離が施されている。左側面には比較的な加工度が見える。
107	6397	C S4	X		剥片	4.5	2.0	0.5	3.7	-98291.525	43428.958	89.992	右側面を裏面から刃形を用いて削離してた跡に、剥離で削離したと考えられる不定形剥片。
【接合資料6:泥灰岩】(第29図 108~111)													
108	5781	B S2	IX上	1	剥片	4.2	2.0	1.2	6.8	-98283.542	43423.683	90.324	背面右方に自然面を残す。上面に無筋な剥離痕が見える。
109	5722	B S2	IX上	1	剥片	3.9	2.1	0.8	3.3	-98283.671	43422.067	90.415	109に施してある墨跡の刃形で剥離剝離の跡と重複する剥離された剥片。上端及び右側端にさすりに剥離痕がある。
110	5353	A S1	IX上		剥片	3.3	1.6	0.7	2.4	-98279.504	43420.983	90.423	108+109に施してある墨跡の刃形で剥離を重ねて施される。下端に無筋な剥離痕がある。
111	5890	B S2	IX上	1	剥片	3.8	2.8	0.9	5.9	-98283.511	43423.293	90.387	108+109+110に施してある墨跡の刃形で剥離を重ねて施される。上端右に無筋な剥離痕がある。

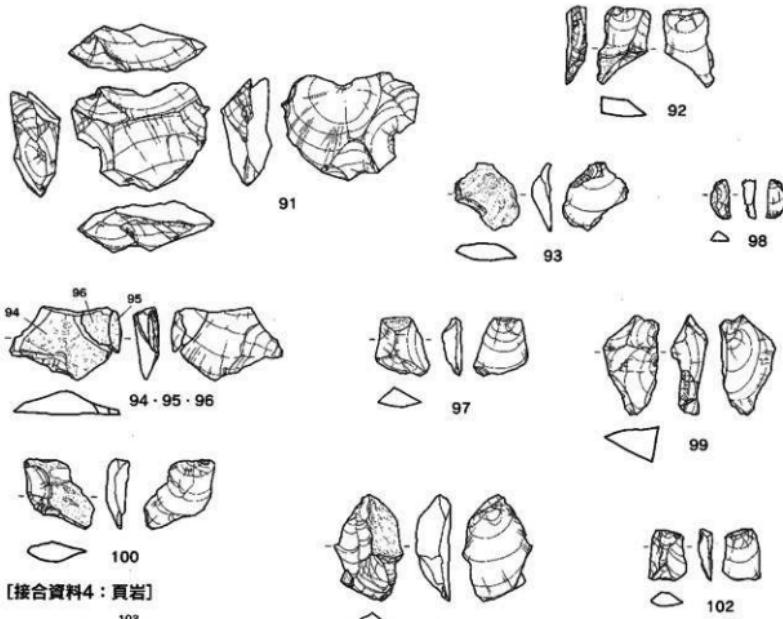
第13表 Ⅲ期石材別石器観察表(2)

【接合資料3:頁岩】

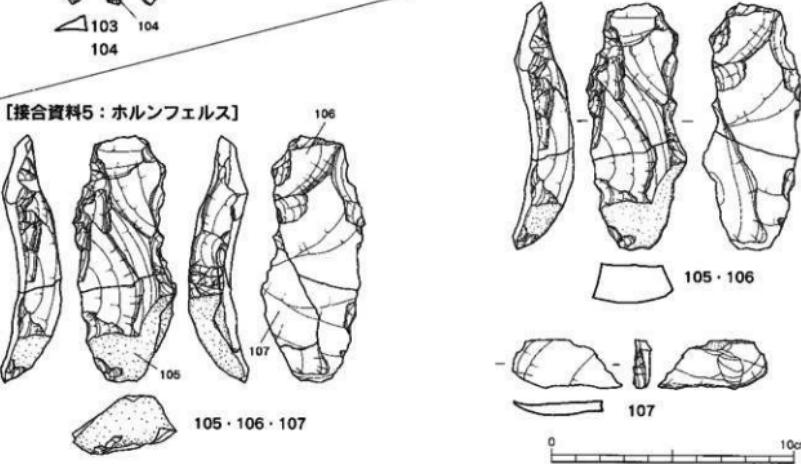


第27図 後期旧石器時代Ⅲ期石材別石器実測図(3) (S=1/2)

[接合資料3：頁岩]

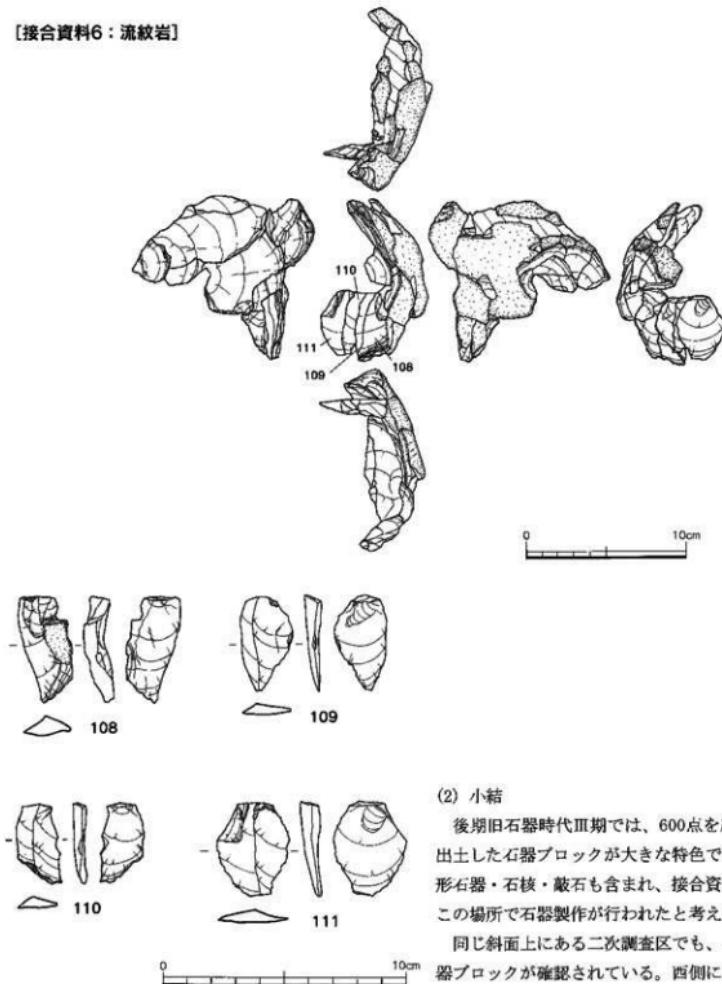


[接合資料4：頁岩]



第28図 後期旧石器時代Ⅲ期石材別石器実測図(4) (S = 1/2)

【接合資料6：流紋岩】



第29図 後期旧石器時代Ⅲ期 石材別石器実測図（5）

接合資料6 (S=1/3)

108~111 (S=1/2)

(2) 小結

後期旧石器時代Ⅲ期では、600点を超える石器が出土した石器ブロックが大きな特色である。ナイフ形石器・石核・敲石も含まれ、接合資料などからもこの場所で石器製作が行われたと考えられる。

同じ斜面上にある二次調査区でも、AT直下で石器ブロックが確認されている。西側に直線距離で約80mほど下った場所で、剥片・チップをはじめナイフ形石器やスクレイパーなど、約10m四方に遺物約1,000点が出土した。石材は頁岩を中心にホルンフェルス・黒曜石・砂岩などで本調査区と共通点も多い。層位をはじめ器種や石材の状況から、同時期の石器ブロックと考えてよいであろう。

#### 4 後期旧石器時代IV期

AT上層の暗褐色土（VI層：MB1）を後期旧石器時代IV期とした。25%調査の結果の結果、遺構・遺物が確認できなかった調査区南西部の一部を除く、約2,500m<sup>2</sup>を調査対象面積とした。

##### (1) 遺構

遺構は、礫群14基を検出した。また、調査区全面にわたって礫が出土し、出土状況から散礫と認定した。さらに調査区北西部、C33～D31・D32グリッド付近で右器ブロック2をD33・D34グリッドで右器ブロック3を確認した。

礫群及び散礫の出土状況、及び接合関係は、第30図に示した。

礫の出土状況は、密なものから散漫なものまであり、大きさも大小様々である。掘り込みや炭化物はどの礫群でも確認できなかった。しかし、構成礫の88%に赤化が確認され、黒色の付着物を伴う礫も8%含まれる。

石材はホルンフェルスと砂岩を中心で、構成礫の約80%をこの二つで占める。礫群の中には尾鈴山酸性岩類を含むものもある。構成礫数では、全体の10%に満たないが、大型の礫が多い。

完形礫は少なく、97%は破碎された礫である。一方で、複数の礫が礫群内・外の礫と接合することも確認された。

右器ブロックと出土範囲が重なる礫群からは、剥片・チップが多数出土し、ナイフ形石器・台形石器などの製品が含まれることもあった。

各礫群の詳細な属性は、第16表に示す。

##### S I 9 (第31図)

S I 9は、調査区北東部のB53グリッドに、長径2.5m、短径1.7mの範囲に礫21点で構成される。標高は約90.5mで、東に緩やかに下る地点である。

石材は、ホルンフェルス15点、砂岩5点、尾鈴山酸性岩類1点である。総重量は6,635g（平均重量は316g）であるが、60%をホルンフェルスが占める。全ての礫が弱以上の赤化をしており、6点に付着物が確認できた。完形礫はない。遺構内で4組8点、散礫と2組5点の接合が見られた。遺物は、剥

片3点が出土した。

##### S I 10 (第31図)

S I 10は、調査区北西部のC44グリッドに、長径約1.8m、短径1.3mの範囲に礫20点で構成される。標高は約91.0mで、台地の頂上に近い。

石材は、砂岩が10点と半数を占め、ホルンフェルス8点・頁岩1点・尾鈴山酸性岩類1点と続く。総重量は8,135g（平均重量は407g）であるが、1点の尾鈴山酸性岩類が総重量38%を占める大型礫である。全ての礫が赤化しているが、付着物は確認できなかった。完形礫は3点と少ない。遺構内で2組8点が接合した。遺物は、剥片4点が出土した。

##### S I 11 (第31図)

S I 11は、調査区北西部のC34～C42・B51グリッドにかけて、長径6.1m、短径4.9mという広い範囲にわたって検出された。標高は約91.2mで、調査区で最も高い位置にある。また、後期旧石器時代IV期文化層で最も遺物が出土した右器ブロック2と検出範囲が重なり、多くの遺物が出土した。内訳は、ナイフ形石器4点・角錐状石器1点・台形石器1点・敲石4点・剥片150点・チップ29点となっている。

構成礫は128点で、ホルンフェルス66点、尾鈴山酸性岩類32点、砂岩22点、頁岩3点、その他5点である。他の礫群と比べて、尾鈴山酸性岩類の構成割合が高いことがわかる。総重量は67,495gであるが、平均重量は527gになる。総重量の約半数（49%）を尾鈴山酸性岩類が占めており、大型の礫であることがわかる。88%の礫が赤化しており、8点に付着物が認められた。完形礫は3点と少ない。遺構内で13組30点、散礫との間に14組70点が接合した。

##### S I 12 (第32図)

S I 12はS I 11の南東に位置し、長径3.6m、短径2.8mの範囲に礫93点で構成される。標高は約90.9mで、南東に向かって傾斜する地点にある。

石材は、砂岩37点、ホルンフェルス33点、頁岩4点、その他の礫4点で尾鈴山酸性岩類は1点もない。総重量は18,975g（平均重量は223g）であるが、そのうちホルンフェルスが約70%を占める。82%の礫が弱以上の赤化をしており、8点に付着物が確認できた。完形礫は1点のみ、大部分が破碎礫である。遺構内

で17組52点の接合が見られたが、他の礫群や散礫とは1組も接合していない。遺物は、台形石器1点・石核1点・剥片20点が出土した。

#### S I 13 (第32図)

S I 13は、S I 12の西隣に位置し、長径3.1m、短径2.4mの範囲に礫51点で構成される。詳細に見れば3つの礫群に細分できるようにも見える。標高は約90.9mで、南西に緩やかに下っている。

石材は、砂岩が37点で全体の73%を占める。次いでホルンフェルス18点、頁岩1点、その他4点となる。総重量は8,266 g、平均重量は162 gとやや小型になる。非赤化礫は4点で全体の8%にすぎない。12点の礫に付着物が確認できた。完形礫はなく、全てが破碎礫である。造構内で8組20点、散礫と3組9点の接合が確認できた。ナイフ形石器1点・二次加工剥片1点・剥片9点が出土した。

#### S I 14 (第32図)

S I 14は、調査区南東部のD61～D63グリッドに、長径3.2m、短径2.2mの範囲に礫97点で構成される。標高は約90.5mで、東に緩やかに下る地点である。IV期のほとんどの礫群は周囲に散礫を伴うが、S I 14の周辺には、ほとんど散礫は見られない。また、礫のレベル差が46cmと大きく、礫の平均重量は74 gと小さい。IV期礫群の中では、特徴的な礫群である。

石材は、砂岩55点、ホルンフェルス39点、尾鈴山酸性岩類1点、その他2点である。全体の89%が赤化しており、9点に付着物が確認できた。完形礫は1点のみ。造構内で18組43点、散礫と1組2点が接合したが、造構内の接合が目立つ。遺物は出土していない。

#### S I 15 (第32図)

S I 15は、調査区で最も東側のD71～E71グリッドで検出した。長径3.0m、短径2.5mの範囲に礫43点で構成される。標高は約90.2mで東に緩やかに下っている。

石材は、砂岩26点、ホルンフェルス15点、頁岩1点、その他1点と続く。総重量は26,770 gで平均重量は623 gとIV期礫群の中では最も重く、大型礫の構成割合が高い。非赤化礫は9点(21%)でIV期礫群の中では高い方である。付着物は確認できなかつ

た。完形礫は3点である。造構内で5組10点が接合した。

#### S I 16 (第32図)

S I 16は、D53～E54グリッドにかけて検出。長径2.1m、短径1.9mの範囲に礫28点で構成される。標高は約90.5mで、S I 14同様周囲に散礫が見られない。

石材は、砂岩が14点、ホルンフェルス12点、尾鈴山酸性岩類1点、その他1点である。総重量は9,955 gであるが、1点の尾鈴山酸性岩類がその80%を占める大型礫である以外は、中・小型の礫がほとんどである。非赤化礫は2点(5%)と少なく、付着物は1点のみ確認できた。完形礫は1点もなく、全てが破碎礫である。礫群内で5組13点が、散礫との間に1組5点が接合した。遺物は出土していない。

#### S I 17 (第33図)

S I 17はF52グリッドに長径2.1m、短径1.9mの範囲に礫24点が出土した。標高は約91.0mで、南に緩やかに下る。

石材は、ホルンフェルス14点、砂岩10点で、総重量は11,055 g(平均重量は461 g)である。非赤化礫は6点(25%)と構成比率では、やや高い。付着物は1点も確認できなかった。完形礫は2点と少なく、中～小型の破碎礫が中心である。造構内で2組4点、散礫との間で1組3点が接合した。

#### S I 18 (第33図)

S I 18は、S I 17の西方、F44グリッドに長径2.2m、短径1.8mの範囲に礫50点で構成される。標高は約90.2mである。

石材は、砂岩22点、ホルンフェルス18点、尾鈴山酸性岩類10点で、尾鈴山酸性岩類の割合が高い。総重量は10,720 gで平均重量は214 gになる。非赤化礫は5点(10%)で、付着物は2点確認できた。完形礫は4点である。造構内で9組22点と礫群内で多くの礫が接合した。遺物は出土していない。

#### S I 19 (第33図)

S I 19は、調査区の東端のE71グリッドに、長径1.4m、短径1.2mの範囲に礫15点で構成される。標高は約90.0mである。

石材は、ホルンフェルス8点、砂岩4点、尾鈴山

酸性岩類2点、その他1点である。総重量は6,075gで平均重量は405gとやや重い。非赤化礫は6点(40%)で、IV期の礫群の中では最も割合が高い。付着物は確認できなかった。完形礫は2点である。遺構内で2組4点が、散礫と1点4組が接合した。遺物は出土していない。

#### S I 20 (第33図)

S I 20は、調査区の南東のF 54グリッドに、長径2.1m、短径1.4mの範囲に礫40点で構成される。標高は約90.0mである。

石材は、砂岩23点、ホルンフェルス8点、尾鈴山酸性岩類8点、その他1点である。総重量は11,778g(平均重量は293g)である。非赤化礫は1点のみでほとんどが赤化しており、付着物は3点に確認できた。完形礫は2点である。遺構内で8組29点が接合した。遺物は出土していない。

#### S I 21 (第33図)

S I 21は、調査区の中央付近のE 33グリッドに、長径1.4m、短径1.0mの比較的狭い範囲に礫20点で構成される。標高は約90.4mである。

石材は、ホルンフェルス14点と尾鈴山酸性岩類6点のみである。総重量は1,125g、平均重量は69gでIV期の礫群中最も軽い。全ての礫に赤化が認められる。付着物は確認できず、完形礫は1点と少ない。遺構内で5組17点が接合した。接合状況から5~8点の母岩を分割して形成された礫群と考えられる。遺物は出土していない。

#### S I 22 (第33図)

S I 22は、調査区西側の他の礫群から離れたF 13~G 12グリッドにかけて検出された。長径3.2m、短径1.7mの範囲に、やや散漫に礫25点が出土した。標高は約90.0mで、南西に緩やかに下る地点である。

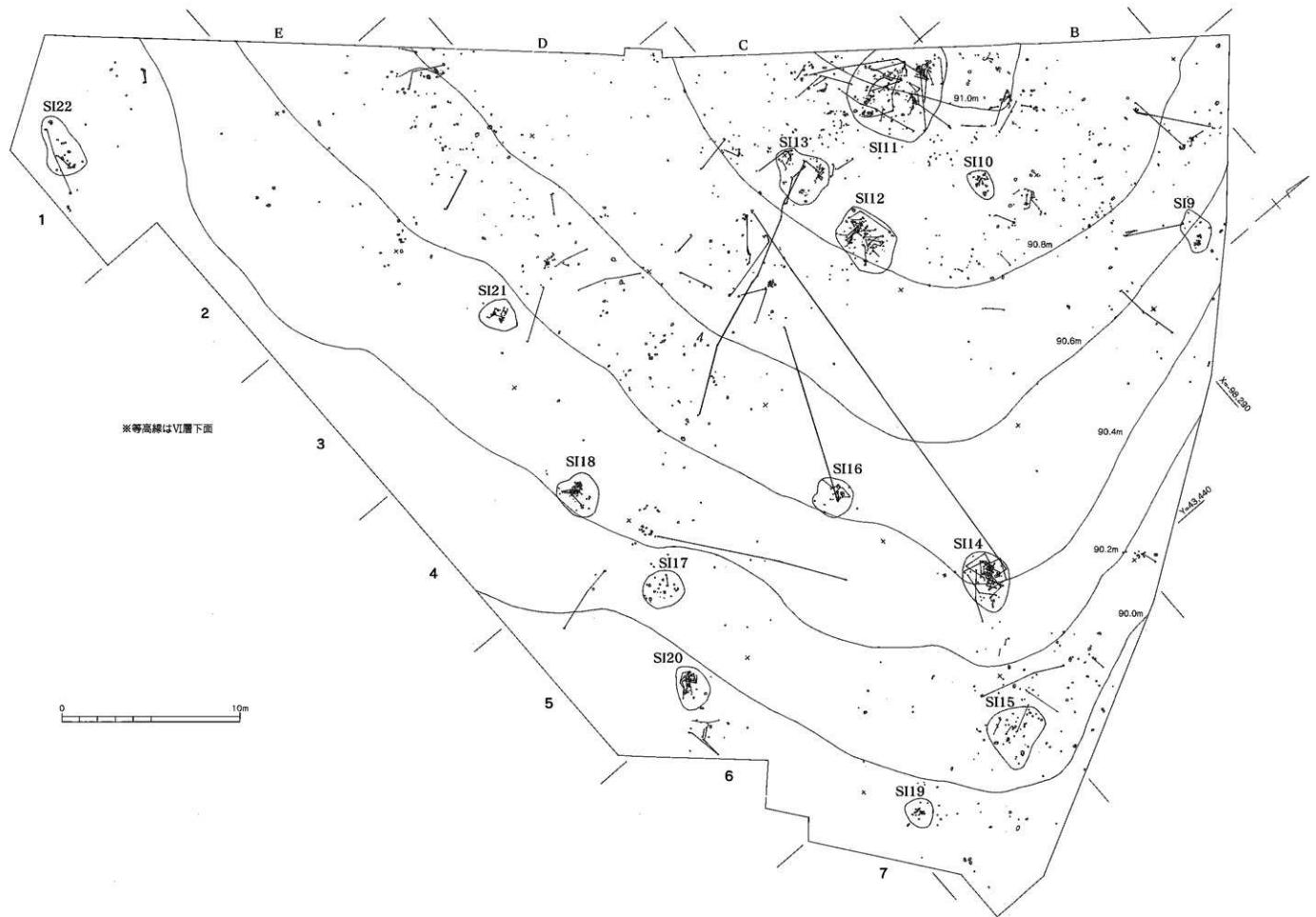
石材は、ホルンフェルス16点、砂岩8点、頁岩1点である。総重量は9,960g(平均重量は398g)で、ホルンフェルスに中~大型の礫が多い。非赤化礫は2点(8%)で、付着物は2点に確認できた。完形礫はなく、全て破碎礫である。遺構内で4組10点が、散礫と1組2点が接合した。遺物は、ナイフ形石器1点、二次加工剥片1点、剥片9点が出土した。

#### 散礫 (第30図)

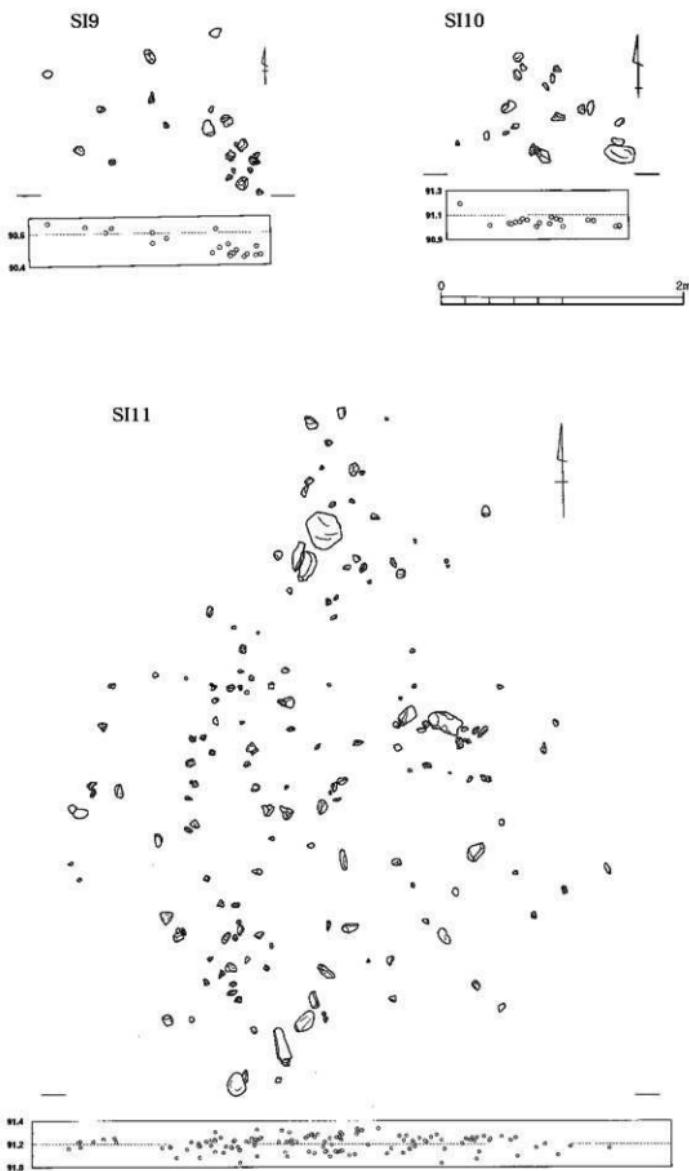
散礫は、調査対象区全域に広がっており、総数は1,089点である。構成礫は、ホルンフェルス502点、砂岩441点、尾鈴山酸性岩類64点、頁岩42点、その他40点で、礫群を構成する様の割合とほぼ同様の構成比を示す。平均重量は402gで、礫群の296gに比べるとやや大型になる。赤化率は89%で礫群の礫とほぼ同割合、完形礫の割合は全体の10%で、礫群よりもやや高い。接合は124組312点確認された。散礫の属性を第14表に示す。

		VII層散礫
石材 の 分 類 と そ の 割 合	尾鈴山酸性岩類数(%)	64(6)
	重量(g)(%)	61308(14)
	砂岩礫数(%)	441(41)
	重量(g)(%)	97,966(22)
	頁岩礫数(%)	42(4)
	重量(g)(%)	16260(4)
	ホルンフェルス礫数(%)	502(46)
	重量(g)(%)	3,970(60)
	その他礫数(%)	40(4)
	重量(g)(%)	0
総合計数	1,089	
総重量(g)	437,928	
平均長(cm)	8.6	
平均幅(cm)	5.7	
平均厚(cm)	3.7	
平均重量(g)	402	
赤化度		
非赤化 級数(%)	115(11)	
弱 級数(%)	212(19)	
中 級数(%)	383(36)	
強 級数(%)	379(35)	
付着物		
有 級数	55	
無 k 級数(%)	109(10)	
1 級数(%)	133(12)	
2 級数(%)	115(11)	
3 級数(%)	732(67)	
接合状況		
接合箇所数	124	
接合個体数	312	

第14表 後期旧石器時代IV期散礫属性一覧表

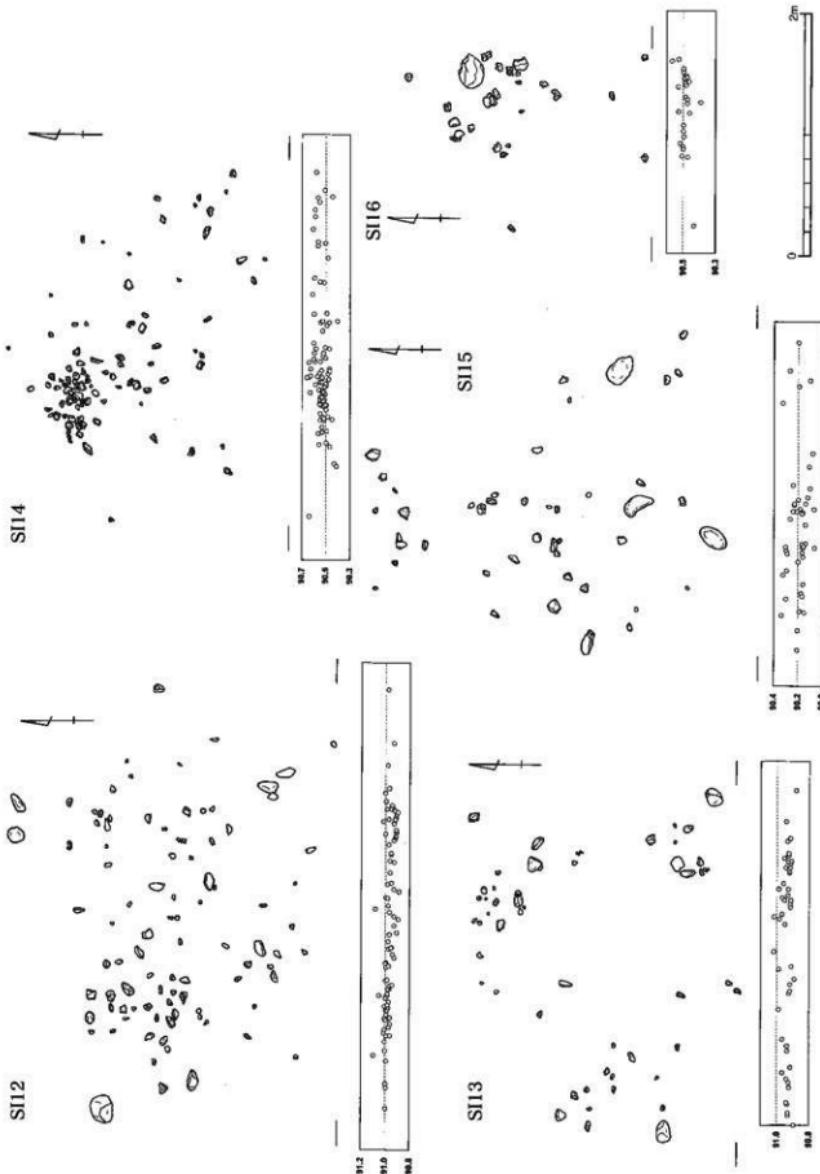


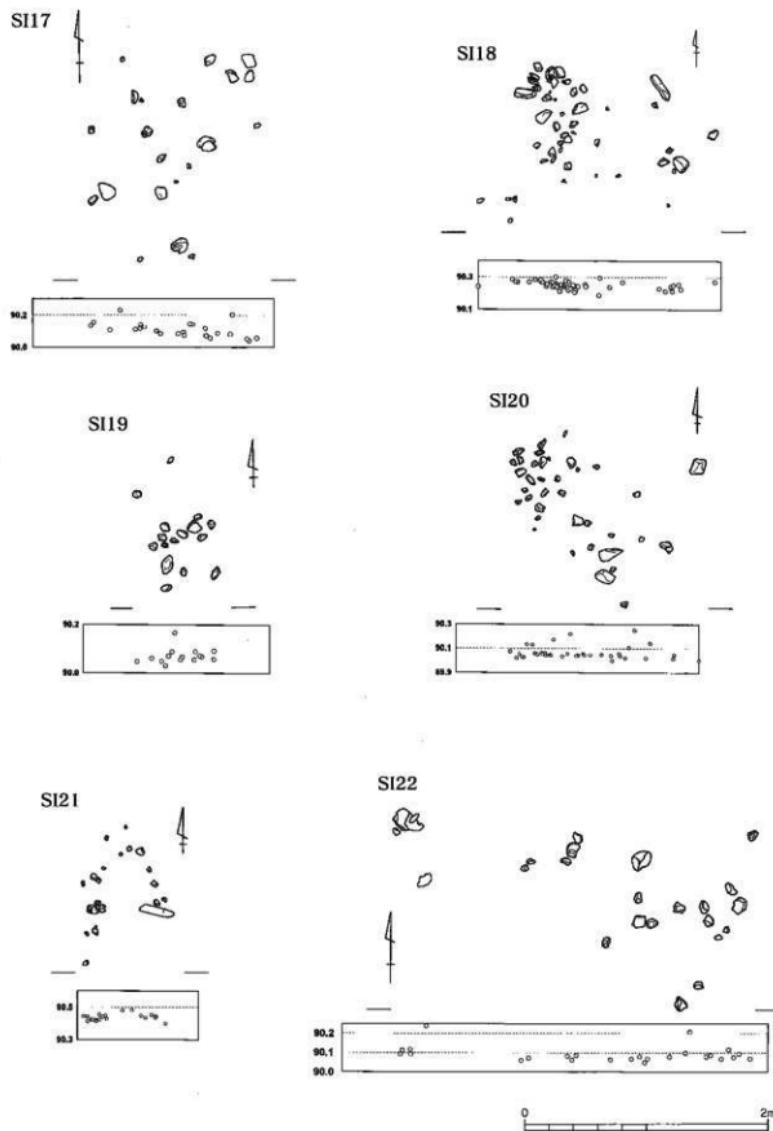
第30図 後期石器時代IV期砾群・散発出土・接合状況図 (S = 1/200)



第31図 後期旧石器時代IV期砾群実測図（1）(S = 1/40)

第32図 後期旧石器時代IV期標群実測図(2) (S=1/40)





第33図 後期旧石器時代IV期砾群実測図（3）（S = 1/40）

第15表 後期旧石器時代IV期礫群属性一覽

(2) 遺物

○石器器種

後期旧石器時代IV期の遺物は計1,508点出土した。内訳は、ナイフ形石器55点、角錐状石器16点、搔器8点、削器5点、台形石器11点、石核21点、細石刃1点、細石刃核1点、二次加工剥片5点、使用痕剥片8点、台石2点、敲石27点、亜石器8点である。このほか剝片1,243点、チップ88点が出土した。

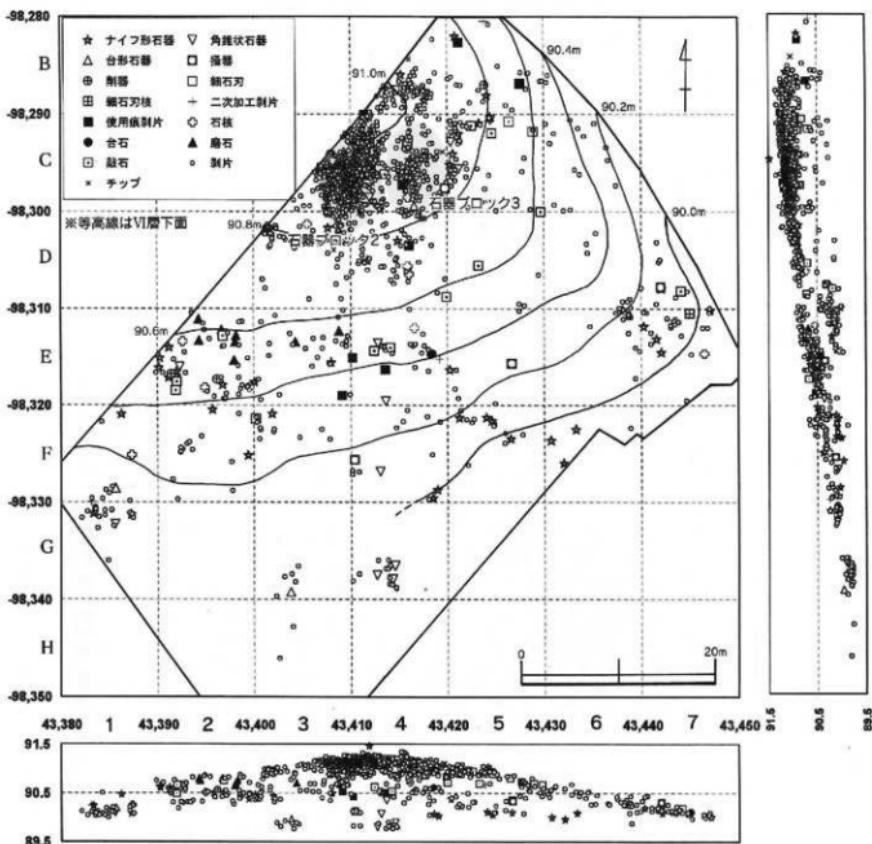
○遺物分布

遺物は、調査区全域から大量に出土した。中でも

北西部には、石器ブロック2箇所が確認できた。西側のC33～C42グリッドにかけて出土したものを石器ブロック2、その東側のC43・44グリッドに出土したものと石器ブロック3とする。遺物の出土状況を第34図に示す。

○石材

IV期出土石器石材の内訳は、黒曜石603点、頁岩428点、ホルンフェルス260点、流紋岩129点、チャート23点、砂岩44点、尾鈴山酸性岩類5点、サスカイト1点、不明6点である(第16表)。



第34図 後期旧石器時代IV期器種別遺物分布図 (S = 1/500)

石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	チャート	砂岩	サヌカイト	尾鈴山 酸性岩類	不明	計
ナイフ形石器	12	23	11	1		8				55
角錐状石器	5	2	7	2						16
擂器	1	4	3							8
削器		4	1							5
台形石器	1	5		3	2					11
石核	6	5	5	5			5			21
磨石							4			9
細石刃				1						1
細石刃核				1						1
使用痕剥片	1	5	2							8
二次加工剥片		2	2	1						5
台石						2				2
敲石		1	1			24		1		27
垂直石器(敲石)						8				8
剥片	103	379	229	504	21		1		6	1243
チップ		3		85						88
計	129	433	261	603	23	47	1	5	6	1508

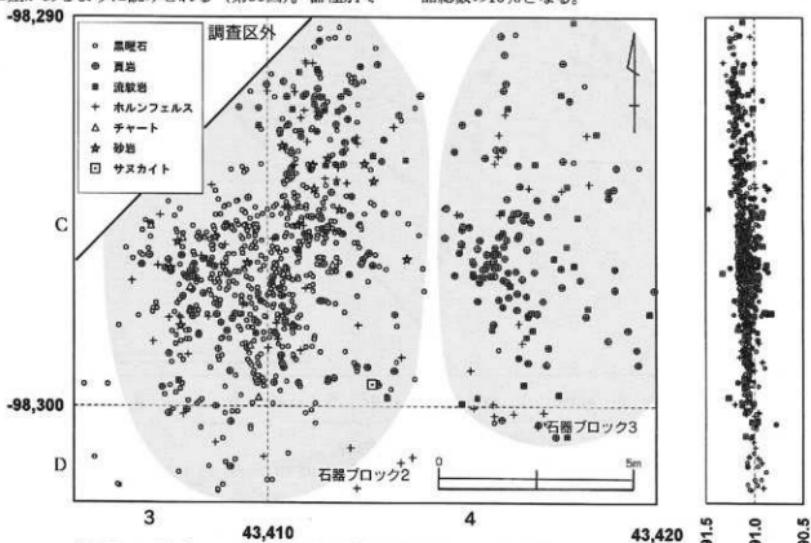
第16表 後期旧石器時代IV期石器・石材組成表

## 「石器ブロック2」

長径14m・短径8mの範囲に遺物総数769点を数える。石材は黒曜石が中心で、出土遺物の約68%を占める（石器ブロック2、石材・器種別組成は第19表）。黒曜石は、原産地別に見ると日東産が最も多く（404点）、桑ノ木津留産（70点）、西小国産（37点）、三船産（11点）、腰岳産（1点）となる（第18表）。原産地ごとの分布状況からは目立った特徴は見いだせないが、垂直分布を見ると日東産が上位、西小国産が中位、桑ノ木津留産が下位と出土レベルに差があるように読みとれる（第36図）。器種別で

は剥片が429点、チップ81点で、製品はナイフ形石器1点、角錐状石器2点、台形石器3点・細石刃1点・石核4点で、日東産製品が最も多い。IV期出土の黒曜石製品12点中11点がここに集中する。敲石も石器ブロック内から8点出土しており、この場所で石器を製作したと考えられる。

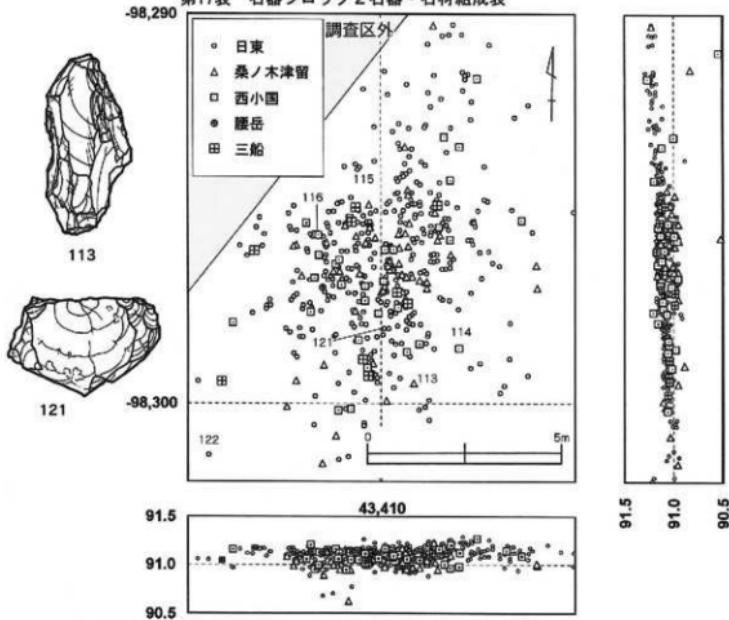
この他の石材は、頁岩147点・ホルンフェルス54点・流紋岩20点・砂岩14点・チャート8点・サヌカイト1点と続く。製品の出土数は29点でIV期出土製品総数の16%となる。



第35図 石器ブロック2・3石材別遺物分布図 (S = 1/125)

石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	チャート	砂岩	サヌカイト	計
ナイフ形石器	1	1	3	1		2		8
角錐状石器	1	1		2				4
削器		1						1
台形石器	3			3	1			7
石核		2		4				6
細石刃				1				1
二次加工剥片			1	1				2
礫石						8		8
亜石器(礫石)						4		4
剥片	18	137	50	429	7		1	645
チップ		2		81				83
計	20	147	54	522	8	14	1	769

第17表 石器ブロック2石器・石材組成表



第36図 石器ブロック2黒曜石原産地別分布図 (S = 1/125)

石材 器種	日東	桑ノ木津留	西小国	三船	腰岳	不明	計
ナイフ形石器	1	1					2
角錐状石器		1					1
台形石器	3						3
石核	4		1				5
細石刃						1	1
細石刃核							1
二次加工剥片	1						1
剥片	349	68	35	11	1	40	504
チップ	46	2				37	85
計	403	72	37	11	2	78	603
総重量(g)	300.2	45.6	73.8	39.5	31.1	20.7	

第18表 後期旧石器時代IV期黒曜石原産地別石器組成表

### 「石器ブロック3」

石器ブロック2のすぐ東に石器ブロック3がある。石材構成の中心は頁岩(90点)で、次いで流紋岩・ホルンフェルス・黒曜石の順で総数149点である。黒曜石は6点の出土で、全体の4%である。石器ブロック2と3は、隣接しながら石材構成は大きく異

なる。製品は頁岩がナイフ形石器4点・使用痕剥片1点・石核1点、ホルンフェルスが搔器2点・削器1点、流紋岩が台形石器1点・搔器1点で黒曜石製品は1点もない。石器ブロック3の石材・器種別組成を第19表に、器種別の出土状況を第37図に示す。



230  
231



211

石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	計
ナイフ形石器		4			4
搔器	1		2		3
削器			1		1
台形石器	1				1
石核		1		1	2
使用痕剥片		1			1
剥片	25	90	16	4	135
チップ				1	1
計	27	96	19	6	148

第19表 石器ブロック3の石器・石材組成表

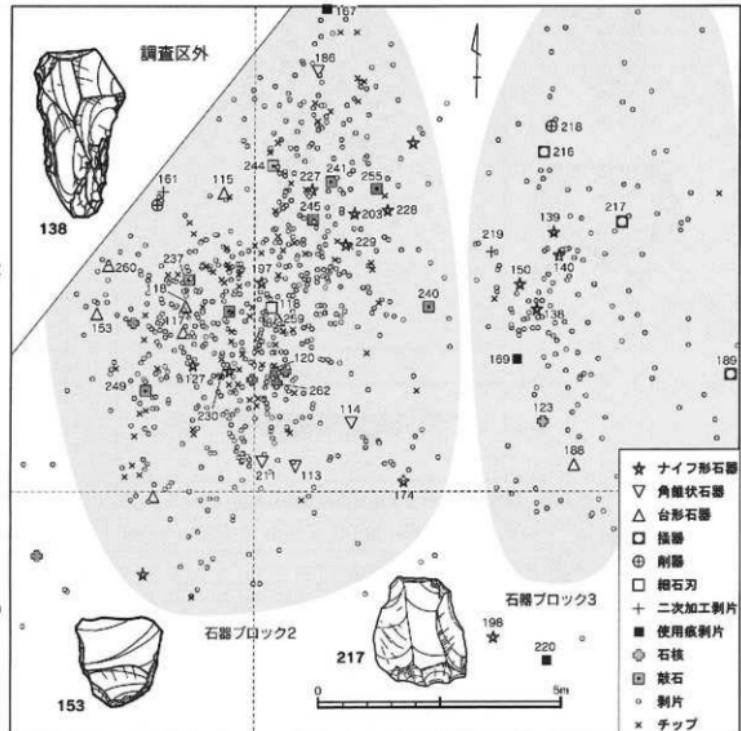
-98,290

-98,300

C

D

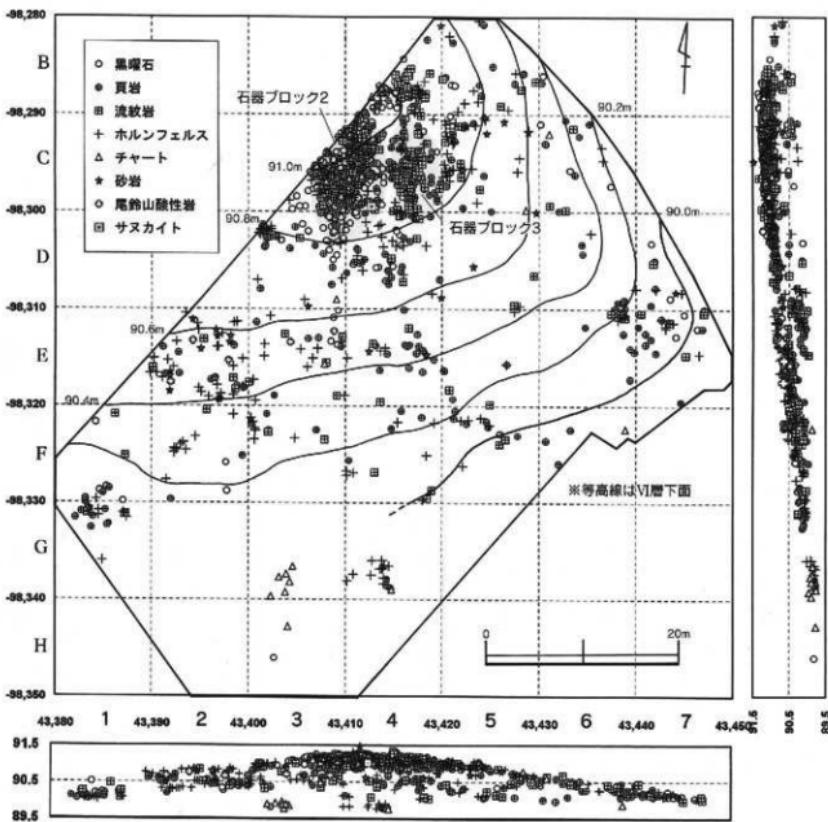
3 43,410 4 43,420



第37図 石器ブロック2・3器種別遺物分布図 (S = 1/100)

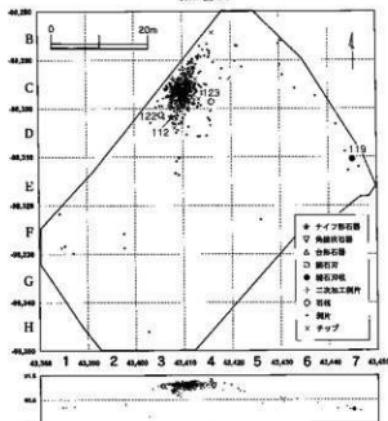
IV期出土遺物の石材別分布状況は、下の第38図の通りである。二つの石器ブロックからの遺物の出土が顕著であるが、それ以外の場所からも多様な石器が出土している。

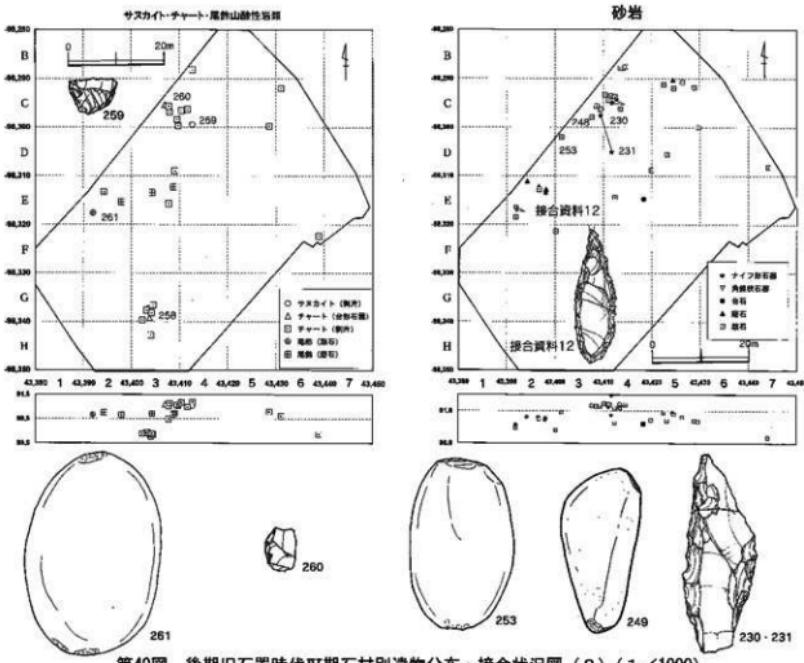
各石材ごとの分布と接合状況を第39・40図に、各石器の観察データを第20～26表に示した。また、石器ブロック2・3以外から出土した石器の特徴を石材ごとに述べる。



第38図 後期旧石器時代IV期石材別遺物分布図(S=1/500)

黒曜石





第40図 後期旧石器時代IV期石材別遺物分布・接合状況図(2)(1/1000)

### 黒曜石

遺物は、石器ブロック2に集中し、それ以外は約40点の出土にとどまる。ほとんどが剥片で、小片が多く、接合はほとんど確認できなかった。

### 頁岩

調査区全面からナイフ形石器・角錐状石器・台形石器・搔器・削器・二次加工剥片・使用痕剥片など、多様な製品が出土した。特にナイフ形石器は出土数も多く、一側縁加工・二側縁加工・基部加工など加工の仕方も多種にわたる。石器ブロック内とブロック外の遺物が複数接合している。

### 流紋岩

調査区北端と中央部から西部にかけてナイフ形石器・角錐状石器・石核などが出土した。出土石器の中で製品の占める割合が高い。石器ブロック内とブロック外の遺物が接合した。

### ホルンフェルス

石器ブロック3の東側と調査区中央部から南西部にかけて、ナイフ形石器・角錐状石器・搔器・石核が出土した。特に、角錐状石器の出土数が目立っている。約30m離れた遺物同士が接合している。

### 砂岩

石器の出土数は多くないが、北東部に敲石、南西部に角錐状石器・敲石・磨石が出土した。敲石は、長さ20cmを超える大型から中型・小型と分かれ、形状も棒状・円形・楕円形と多様である。近距離の接合がほとんどである。

### 尾鈴山酸性岩類・チャート・サスカイト

尾鈴山酸性岩類を石材として磨石・敲石が計5点出土した。チャート製石器では、台形石器がある。1点は調査区南側、1点は石器ブロック2に近い場所である。サスカイトは剥片1点だけ出土した。いずれも接合関係は見られない。

番号	出所	器種	基準	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土座標 X座標	出土座標 Y座標	レベル (m)	備考	
【黒曜石】(第44回)												
112	5265	C 34	VI	ナイフ形石器	2	2.5	1.0	0.6	1.1	-98301.705	43407.710	90.874
113	5210	C 41	VI	角錐状石器	2	3.6	1.7	2.0	9.8	-98299.488	43410.843	90.956
114	5207	C 41	VI	角錐状石器	2	2.1	1.3	1.5	3.8	-98298.588	43411.994	90.974
115	4224	C 34	VI	台形石器	2	1.5	1.2	0.4	0.7	98293.848	43409.358	91.159
116	4299	C 33	VI	台形石器	2	1.5	1.5	0.5	1.1	-98296.190	43408.579	91.168
117	4327	C 33	VI	台形石器	2	1.7	1.3	0.5	1.0	-98296.724	43408.534	91.103
118	4088	C 41	VI	神刀刃	2	0.9	0.5	0.2	0.1	-98296.217	43410.350	91.144
119	4802	E 74	VI	神刀刃	2.3	1.8	1.1	5.2	-98310.496	43444.993	90.096	
120	4144	C 41	VI	石核	2	4.0	3.0	4.8	30.8	-98297.349	43410.436	91.100
121	4403	C 33	VI	石核	2	3.2	2.3	1.9	10.9	-98297.698	43409.946	91.083
122	4490	C 34	VI	石核	2	2.4	2.3	1.5	4.8	-98301.324	43405.538	91.050
123	4664	C 43	VI	石核	2	2.4	1.6	1.6	7.4	-98298.556	43415.942	91.102
124	4228	C 34	VI	二次加工片	2	1.3	1.0	0.3	0.3	-98293.828	43408.120	91.184
125	4055	C 41	VI	剥片	2	3.7	2.8	1.3	8.1	-98296.634	43411.736	91.167
126	4233	C 34	VI	剥片	2	4.7	3.8	1.1	17.1	-98294.965	43409.348	91.118
【貝岩】(第42回～44回)												
127	4395	C 33	VI	ナイフ形石器	2	5.7	2.4	1.0	15.2	-98297.400	43408.727	91.046
128	4831	E 42	VI	ナイフ形石器		5.8	2.3	1.0	12.3	-98313.791	43413.160	90.512
129	4806	E 72	VI	ナイフ形石器		4.7	2.1	1.1	8.5	-98311.799	43440.241	90.187
130	4881	E 22	VI	ナイフ形石器		6.7	2.7	1.3	19.1	-98313.989	43391.202	90.613
131	5040	E 72	VI	ナイフ形石器		6.2	2.1	1.9	16.2	-98314.524	43442.058	90.085
132	4808	E 72	VI	ナイフ形石器		6.0	2.8	1.0	13.2	-98313.119	43441.553	90.194
133	4906	E 51	VI	ナイフ形石器		3.5	1.4	0.7	3.4	-98316.371	43420.274	90.378
134	5030	F 52	VI	ナイフ形石器		4.9	1.6	0.7	4.6	-98321.600	43424.598	90.062
135	5038	F 62	VI	ナイフ形石器		4.3	1.8	0.8	5.0	-98322.465	43433.267	90.087
136	5343	F 61	VI	ナイフ形石器		5.7	1.8	1.3	10.6	-98325.961	43432.016	89.962
137	5344	F 62	VI	ナイフ形石器		5.0	2.1	0.9	5.6	-98323.596	43430.703	90.001
138	5119	C 43	VI	ナイフ形石器	3	3.4	1.7	1.2	5.8	-98296.247	43415.813	91.030
139	4620	C 44	VI	ナイフ形石器	3	1.8	1.0	0.7	0.9	-98294.662	43416.164	91.024
140	4626	C 43	VI	ナイフ形石器	3	2.2	1.6	0.5	2.7	-98295.145	43416.273	91.030
141	5024	F 42	VI	ナイフ形石器	2.8	1.5	0.4	1.1	-98321.278	43421.268	90.239	
142	4848	E 34	VI	ナイフ形石器	4.2	1.7	1.0	7.8	-98313.116	43406.166	90.678	
143	5014	F 32	VI	ナイフ形石器	4.0	1.5	1.1	5.3	-98320.837	43401.923	90.429	

第20表 後期旧石器時代IV期石材別石器観察表(1)

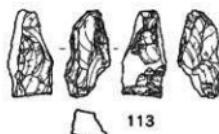
番号	生産者名	グリッド	層	器種	全縦ブロック	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	国土地理院X座標	国土地理院Y座標	レベル(m)	備考
144	5337	F 23	VI	ナイフ形石器		4.2	1.4	1.1	4.7	-98325.169	43399.402	90.378	縫合剥片材。右側面に左・右両方向の刃山跡が、基部には刃部調整跡が施される。刃部充填には、斜面状に見えめる。
145	4563	B 43	VI	ナイフ形石器		3.0	2.2	1.9	7.5	-98288.561	43417.711	91.045	145と145(?)は縫合剥片材で、右側面に左・右両方向の刃山跡が、斜面状に刃山が作られる。右側面には刃山と打撃の衝突痕が削り出され、左側面にも底面からの加工の跡がある。
146	4554	B 43	Vb	ナイフ形石器		3.1	1.9	2.0	5.4	-98288.937	43416.309	91.125	
147	120	C 52	III	ナイフ形石器		3.6	1.6	1.2	3.6	-98291.109	43422.392	91.550	
148	4700	C 52	VI	ナイフ形石器		2.5	1.6	1.0	2.9	-98290.914	43423.280	90.903	
149	4707	C 52	VI	ナイフ形石器		3.7	1.2	0.9	3.8	-98291.993	43421.183	90.974	右側面には、底面状の縫合剥片材で、右側面に刃山調節による刃山削りと加工を施す。刃部には底面から左側面への刃山が削り出される。
150	5258	C 43	VI	ナイフ形石器	3	2.5	1.7	0.9	1.9	-98295.726	43415.464	91.003	右側面には、左側面の底面から、上部に刃・底面から右側面への刃山調節が施される。
151	3041	G 41	VI	角錐状石器		6.1	2.1	2.3	28.0	-98337.960	43414.316	89.797	右側面には、底面下部に刃山を削す。左側面に底面から右側面への刃山調節を施す。
152	4903	C 14	VI	角錐状石器		2.7	1.4	1.1	3.6	-98332.238	43385.585	90.085	右側面には、左側面の底面から、上部に刃・底面から右側面への刃山調節が施される。
153	4312	C 33	VI	円形石器	2	1.8	1.6	0.6	1.4	-98296.345	43406.761	91.153	左側面には、底面下部に刃山を削す。右側面に底面から右側面への刃山調節を施す。
154	4496	C 34	VI	台形石器	2	2.4	1.9	0.5	1.5	-98300.100	43407.918	91.074	左側面には、底面下部に刃山を削す。右側面に底面から右側面への刃山調節を施す。
155	4927	F 13	VI	台形石器		1.8	1.5	0.5	1.1	-98328.530	43386.666	90.188	左側面には、底面下部に刃山を削す。右側面に底面から右側面への刃山調節を施す。
156	4796	D 71	VI	種器		5.2	3.7	2.0	30.5	-98307.818	43442.003	90.303	右側面から下部にかけて、底面からの刃山調節を左刃部に作用させて削り出している。上面には底面からの刃山調節も見える。
157	5071	E 51	VI	種器		5.8	5.2	2.0	55.7	-98315.701	43426.685	90.334	背面には、右側面を削す刃部を材料とする。下面に底面からの刃山の形を削る。刃部が削り出されている。
158	5318	F 41	VI	種器		5.3	2.5	1.7	20.3	-98325.657	43410.379	90.118	縫合剥片材を削りて下面に底面からの刃山調節を施す。上面にも底面からの刃山調節がある。
159	4590	H 51	VI	剣器		4.3	4.0	0.9	15.5	-98286.995	43423.897	90.890	両側面には、底面から刃部を削り出する。背面には底面からの刃山調節がある。
160	975	B 51	Va	剣器		3.0	4.0	0.9	9.6	-98288.053	43424.123	91.039	左側面には、底面から刃部を削り出する。背面には底面からの刃山調節がある。
161	4960	C 34	VI	剣器	2	9.5	5.2	3.5	131.9	-98294.104	43407.996	91.195	厚みのある縫合剥片材の左側面から下部にかけて、底面から刃山を削り出している。右側面に大きな底面調節を施している。下部では削り出している。
162	4888	E 21	VI	剣器		3.8	3.2	1.4	14.7	-98316.806	43391.106	90.501	右側面には、底面からの刃部を削り出する。刃部を削り出している。下部では削り出している。
163	4867	F 23	VI	剣器		5.0	3.6	1.1	17.4	-98317.361	43396.128	90.557	左側面には、底面からの刃部を削り出する。背面には底面からの刃山調節を施している。
164	4764	E 44	VI	一次加工剥片		6.5	2.6	1.4	15.9	-98315.204	43419.220	90.521	縫合剥片材を削り、上面及び左側面に底面からの刃山調節がある。下部は欠損している。
165	4921	F 11	VI	二次加工剥片		5.5	3.1	2.0	33.4	-98329.952	43383.126	90.237	前面には、底面から刃部を削り出する。正面右側面に底面からの刃山調節がある。
166	3065	E 41	VI	使用痕剥片		4.7	3.6	1.2	12.5	-98316.338	43413.600	90.497	背面には、底面から刃部を削り出する。右側面に底面からの刃山調節がある。
167	5899	B 41	VI	使用痕剥片		4.8	3.6	1.1	7.6	-98290.056	43411.468	91.256	右側面には、底面から刃部を削り出する。背面には底面からの刃山調節がある。
168	4581	B 52	VI	使用痕剥片		8.6	4.1	1.7	53.0	-98282.642	43421.196	90.896	縫合剥片材を削る。下部に使用に伴う刃山調節がある。
169	5126	C 43	VI	使用痕剥片	3	3.0	2.5	1.0	5.0	-98297.284	43415.402	91.199	小形の不定形剥片材を削る。左側面及び下部に底面からの刃山調節を伴う。
170	3963	C 42	VI	剣片	2	2.8	1.4	0.7	2.4	-98293.913	43410.612	91.173	厚平な剣片剥片材。上面に底面からの刃山調節がある。
171	4729	C 51	VI	剣片		2.5	2.0	1.0	2.7	-98299.932	43425.090	90.875	左側面には、底面からの刃山調節がある。
172	5069	E 64	VI	剣片		6.2	2.6	1.5	23.4	-98310.108	43438.123	90.266	縫合剥片材を削る。背面下部から左側面にかけて自然刃・底面調節を持つ。

第21表 後期旧石器時代IV期石材別石器観察表(2)

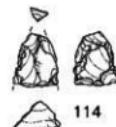
[黒曜石]



112



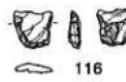
113



114



115



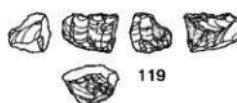
116



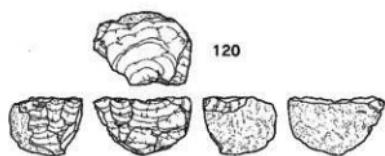
117



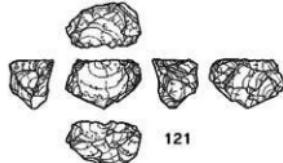
118



119



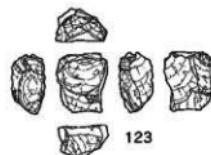
120



121



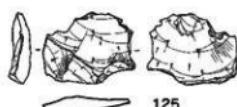
122



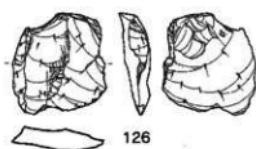
123



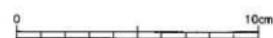
124



125

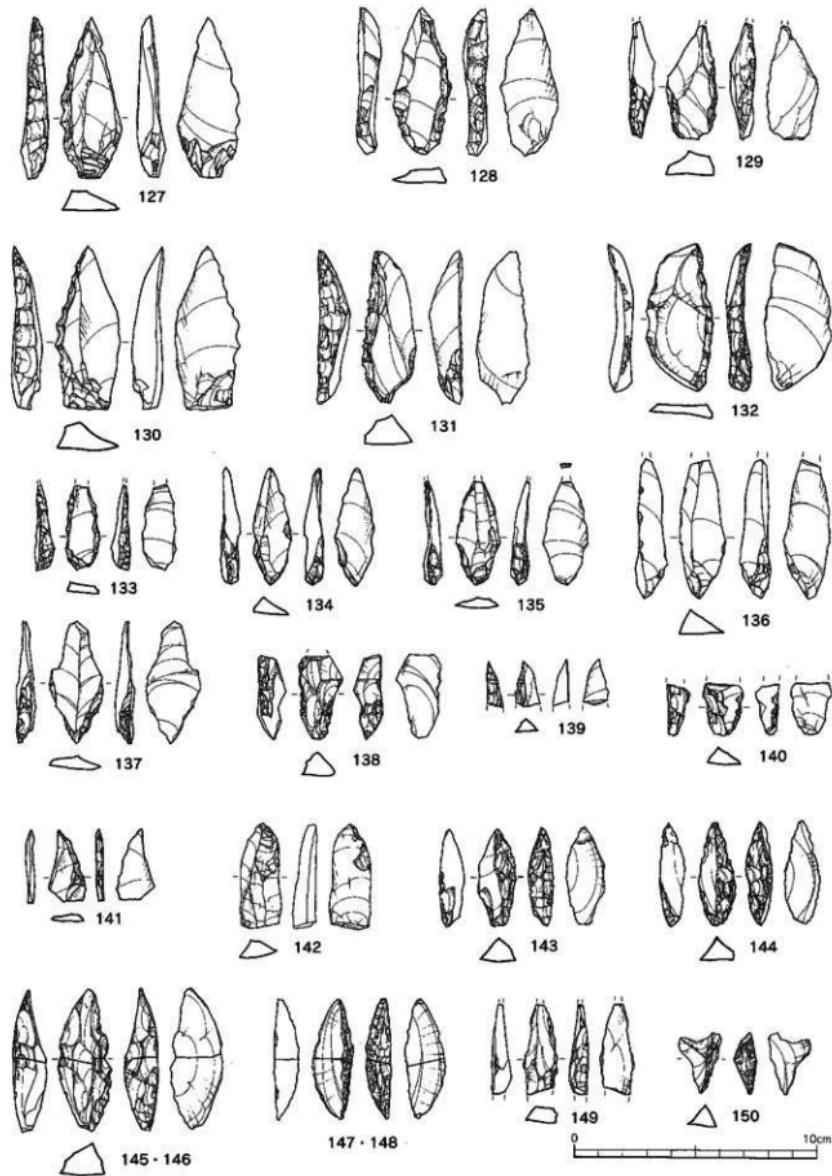


126



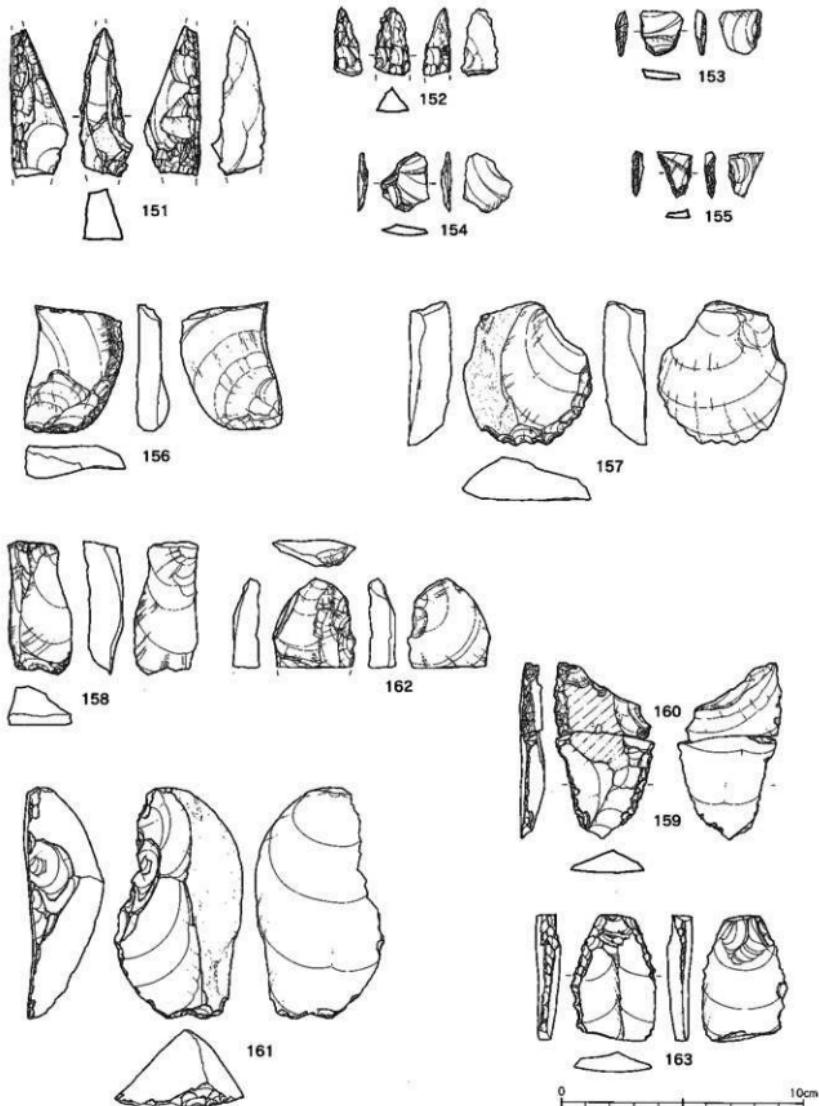
第41図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(1) (S = 1/2)

[真岩]



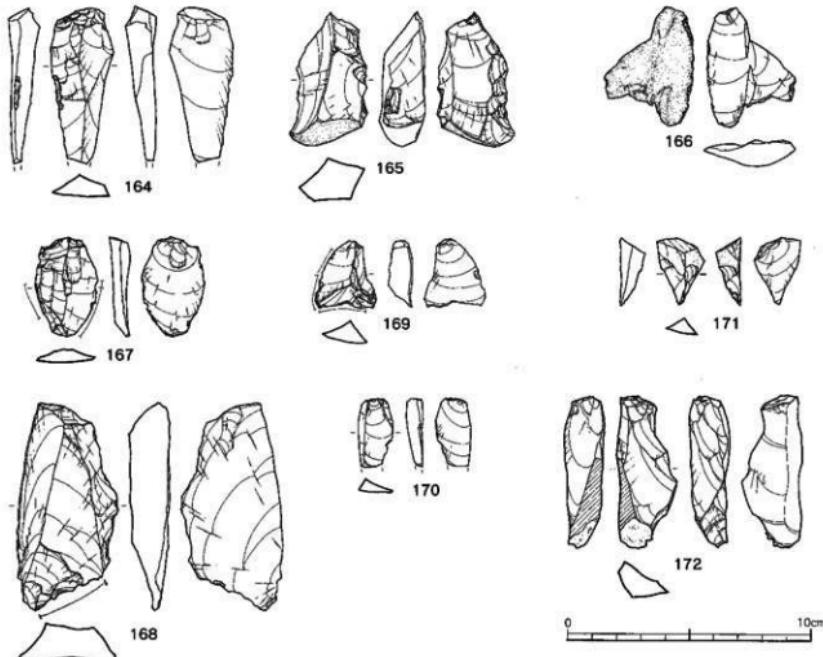
第42図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(2)(S=1/2)

[頁岩]



第43図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(3) (S = 1/2)

## 【真岩】



第44図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(4) (S = 1/2)

番号	日記番号	グリッド	層	器種	大きさ ブロック	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	レベル (m)	備考
〔流紋岩〕(第45~47回)													
173	4884	E 21	VI	ナイフ形石器		8.6	2.7	1.5	29.8	-98316.100	43390.166	90.628	複数片を素材とし、基部調整を行つ。左側縁上部には対向削面を有す。
174	4194	C 41	VI	ナイフ形石器	2	4.8	1.7	1.3	6.8	-98299.789	43413.075	91.049	左側縁上部には断面から、下部に背かかれた刃先のT字形。右側縁の一端に舟状面を残す。
175	4800	E 74	VI	ナイフ形石器		3.5	2.5	0.9	6.7	-98310.130	43447.095	90.008	右側縁及び左側縁中間に複数から3つの調節面を持ち、裏面には片面加工が認められる。上部は欠損している。
176	4913	G 12	VI	ナイフ形石器		2.0	1.4	0.8	2.1	-98331.078	43383.340	90.240	左側縁に対向削面、裏面下部に舟状かべの調節面を持つ。下部は欠損している。
177	5053	F 54	VI	ナイフ形石器		4.6	1.6	0.7	3.4	-98323.460	43426.585	90.096	複数片を素材とし、左側縁上部には複数から、品端には消済面が“逆”が入る。
178	5090	B 43	VI	ナイフ形石器		4.3	2.0	1.3	7.0	-98286.932	43415.236	91.147	背面に右から左の順調度を残す。右側縁及び左側縁の一端に舟状面が認められる。小尖端と思われる。
179	5341	F 43	VI	ナイフ形石器		3.9	1.7	1.0	5.1	-98329.572	43418.515	90.071	複数片を素材とする。右側縁上部に複数から舟状面が入る。右側縁下部には複数から舟状面がある。
180	5342	F 43	VI	ナイフ形石器		3.9	1.5	0.6	2.1	-98328.720	43418.964	90.030	背面に舟状面がある。
181	4835	E 33	VI	ナイフ形石器		4.3	1.2	0.9	3.4	-98315.527	43408.013	90.493	複数片を素材とし、左側縁を残す。左側縁に複数から舟状面がある。先端部は欠損している。

第22表 後期旧石器時代IV期石材別石器観察表(3)

番号	佐記 番号	グリッド	層	器種	材質 マテリアル	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土地理 X座標	国土地理 Y座標	レベル (m)	備考
182	4930	F 13	VI	ナイフ形石器		4.8	1.7	1.6	9.6	-98320.882	43386.229	90.465	横長削刃片を素材に、右側面に対向調整を施す。下部は欠損している。
183	5001	G 23	VI	ナイフ形石器		4.0	1.5	1.1	6.2	-98331.234	43387.241	90.077	横長削刃片素材、右側面に対向調整を施める。下部は欠損している。
184	4710	C 52	VI	角錐状石器		5.0	2.9	1.8	16.5	-98292.858	43420.376	90.991	右側面に背面から、刃側面に上下方向から削りを付ける。先端部は折れており、製作途中で作業を中断したと製品として推測される。
185	4832	F 42	VI	角錐状石器		6.9	2.1	1.4	16.2	-98313.589	43412.845	90.518	右側面側面に背面から対向調整を施している。
186	5137	C 42	VI	角錐状石器	2	5.0	2.8	1.7	19.7	-98291.352	43411.287	91.200	右側面側面に背面から加工が施される。背面に半円状の凹部がある三面加工である。下部は折れている。
187	5317	E 41	VI	角錐状石器		6.1	1.8	1.3	9.8	-98319.580	43413.644	90.353	右側面側面に背面から対向調整が施される。正面加工である。基準調整も認められる。
188	4665	C 43	VI	台形石器	3	1.6	1.1	0.5	0.7	-98299.452	43416.584	91.031	左側面に背面から削りが施される。右側面に側面から削りが見れる。
189	5289	C 43	VI	石器	3	5.7	4.1	2.1	40.5	-98297.614	43419.819	90.827	背面に削りを施す。右側面が背面からの加工を施す。刃部分に削りを施している。
190	4834	E 33	VI	使用痕跡片		5.7	2.0	0.7	7.7	-98318.975	43409.099	90.527	横長削刃片材。背面右方に削りを施す。右側面に底面から後傾的に削り跡を残す。
191	4719	C 51	VI	石核		4.1	3.2	2.9	36.4	-98296.840	43420.796	90.927	打面を削り出し。移動させ、不正確な片を削離している。一部削離。背面に削り跡。
192	5062	E 72	VI	石核		11.2	7.6	5.8	524.4	-98311.353	43443.489	90.099	はるかに背面を削り、背面上面を削離している。裏面に入木焼を残す。
193	5002	F 13	VI	石核		5.4	5.5	4.0	121.8	-98325.146	43387.318	90.251	剥片石片の嵌合部分を削り出し。打面を軽度させながら、一部削離。剥片を削離している。
194	4765	E 51	VI	剥片		1.6	1.2	0.5	0.6	-98318.351	43420.777	90.422	横長削刃片を素材とする。上部・下部ともに欠損している。
195	4870	E 23	VI	剥片		3.1	1.1	0.5	1.4	-98317.142	43398.444	90.382	横長削刃片を素材。背面在側面には底面から、裏面在側面には背面から削離の跡が見える。
196	5021	F 41	VI	剥片		6.7	3.0	1.7	34.1	-98326.846	43413.065	90.071	横長削刃片を素材。背面側面に削離の跡が見えていて、下部は折れている。

(ホルンフェルス) (第47~49回)

197	4083	C 41	VI	ナイフ形石器	2	5.8	2.3	1.2	13.6	-98295.705	43410.138	91.128	表面の黒化が著しい。右側面側面からの刃削り加工。右側面の刃削り調整が見られる。左側面下部は、無理な削離。
198	4530	D 42	VI	ナイフ形石器		6.9	2.6	0.8	15.0	-98302.996	43414.917	90.889	黒化が著しく、脱皮込みを伴う。左側面に裏面から刃削りを施す。
199	4580	B 52	VI	ナイフ形石器		7.0	1.4	1.6	12.1	-98281.992	43420.838	90.905	脱皮込みを施すが、黒化が著しい。右側面に刃削りを施す。左側面に裏面から刃削りを施す。
200	4887	E 21	VI	ナイフ形石器		7.5	2.5	1.5	22.1	-98317.162	43391.151	90.570	横長削刃片を削ぎ、左側面に削離の跡を有する。右側面に刃削りを施す。左側面に裏面から刃削りを施す。
201	4711	C 52	VI	ナイフ形石器		6.7	3.2	1.8	29.0	-98294.051	43420.617	90.984	右側面に刃削りが施され、基準加工が施される。上部は欠損している。
202	4866	F 23	VI	ナイフ形石器		8.0	3.7	1.8	58.2	-98317.889	43396.734	90.499	人間頭骨片を削ぎ、二側面削り。裏面削りが施される。下部は欠損している。
203	3969	C 42	VI	ナイフ形石器	2	3.5	2.3	1.3	8.8	-98294.267	43412.051	91.127	脱皮込みを施すとし、左側面に裏面からの削離を認める。
204	4010	C 42	VI	ナイフ形石器	2	4.5	2.3	1.0	8.3	-98292.824	43413.248	91.198	黒化が著しく、脱皮込みを伴う。左側面に刃削りを施す。
205	4714	C 51	VI	ナイフ形石器		4.2	2.1	1.4	11.4	-98295.131	43420.305	90.959	黒化が著しく、剥離面の黒化が著しい。左側面に裏面からの刃削りを施す。
206	4882	E 21	VI	ナイフ形石器		5.6	3.0	1.6	15.6	-98315.077	43390.226	90.610	右側面には刃削り対向調整を施す。下部は欠損している。
207	5029	F 52	VI	ナイフ形石器		4.8	2.0	1.0	6.7	-98321.247	43424.051	90.107	横長削刃片素材。基準に裏面からの削離が施す。左側面上面に削離の跡を有する。
208	3032	G 41	VI	角錐状石器		5.5	2.3	2.2	21.1	-98337.523	43412.677	89.804	黒化が著しい。左右側面に裏面からの削離が入る。“U”型加工である。基準不規則面に刃削りを施す。
209	4715	C 51	VI	角錐状石器		7.6	2.6	1.8	31.6	-98295.930	43420.403	90.947	背面、左側面側面に削離の跡を有する。右側面と左側面との間に裏面からの調整があり、裏面削離が施されている。
210	4718	C 51	VI	角錐状石器		7.0	2.5	1.7	24.6	-98296.332	43420.544	90.969	背面、左側面側面に削離の跡を有する。右側面削離が施されている。

第23表 後期旧石器時代IV期石材別石器観察表(4)

番号	生年 紀年	器種	部品 形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国土標 Y座標	国土標 Y座標	レベル (m)	備考		
											北緯	南緯	
211	5208	C 41	VI 角錐状石器	2	10.5	2.7	1.8	41.1	-98299.387	43410.160	91.013	扇形剣刃前端、左側面に對向削痕を有し、馬頭彫も認められる。先端は研磨されている。	
212	4889	E 21	VI 角錐状石器		8.3	3.1	2.1	38.9	-98316.068	43392.292	90.508	小圓錐形の刃前削痕、左側面に削痕を残す。馬頭彫も認められる。表面に研磨を受ける。	
213	4703	C 62	VI 角錐状石器		2.8	1.8	1.1	5.6	-98290.526	43424.493	90.931	丸み西側縁に圓錐形の削痕が施される。一部加工である。	
214	3039	G 41	VI 角錐状石器		3.5	1.7	1.5	8.6	-98336.574	43414.553	89.894	刃面及び裏面に對向削痕、左側面に底面から剥離が施された三面加工である。上部は欠損している。	
215	3068	E 51	VI 手斧		6.5	6.3	2.7	108.5	-98315.695	43426.658	90.348	背面下部に鋸齒状を残す。下面に底面から剥離が施され、刃部が研磨される。左側面に背面からの剥離がある。	
216	4613	C 44	VI 楔器	3	5.3	5.2	2.0	52.0	-98293.020	43415.956	91.077	平行に削痕を残す。黒化では丸みを帯びる。右側面に底面からの加工を留め、刃部を作成する。	
217	5276	C 44	VI 楔器	3	4.3	3.8	2.0	32.2	-98294.456	43417.575	90.860	丸みが施された丸みを帯びる。下面に底面から加工が加えられ、刃部が形成されている。	
218	4612	C 44	VI 楔器	3	5.3	4.8	2.2	43.1	-98292.494	43416.107	91.030	丸みが施された底面から打痕を加え刃部を作り出している。	
219	4027	C 41	VI 二次加工削片	2	3.4	2.7	1.7	15.6	-98295.068	43414.869	91.122	左側面に済み跡を残す。右側面に底面からの剥離。尾端下部に底面から剥離が見当つ。	
220	4745	D 44	VI 使用痕削片		6.4	4.6	1.9	42.0	-98303.480	43416.025	90.973	トナリ-形の削片を残す。不規則な打痕を有する。側面と底面の一部に底面から剥離が見当つ。	
221	4749	D 43	VI 石核		7.7	6.1	3.9	200.8	-98306.470	43416.049	90.720	トナリ-形の打痕を有する。刃部が削離されながら削片削離を繰り返す。裏面に底面から剥離がある。	
222	4993	E 21	VI 石核		4.9	3.9	3.2	55.2	-98318.217	43394.878	90.512	上面に刃面を成し、削片削離が連続して剥離する。裏面に底面から剥離がある。	
223	4999	E 24	VI 右核		6.8	6.0	2.3	91.9	-98313.380	43392.612	90.657	ハート-ム-トナリ-形の打痕を有する片削離を行つ。裏面に底面から剥離がある。	
224	5348	E 74	VI 石核		6.4	4.5	3.4	109.2	-98311.628	43416.486	90.017	上面に刃面を成す。左側面に底面から剥離がある。	
225	4830	E 42	VI 岩石		6.1	3.9	2.5	86.2	-98314.026	43414.162	90.530	小型円錐形の底面。刃面上に敲打痕を持つ。	
226	5065	D 71	VI 斧片		2.2	1.2	0.8	1.5	-98307.893	43442.058	90.215	背面右側に底面を残す。裏面に背面からの剥離と底面から剥離を持つ。	

[砂岩](第49~52回)

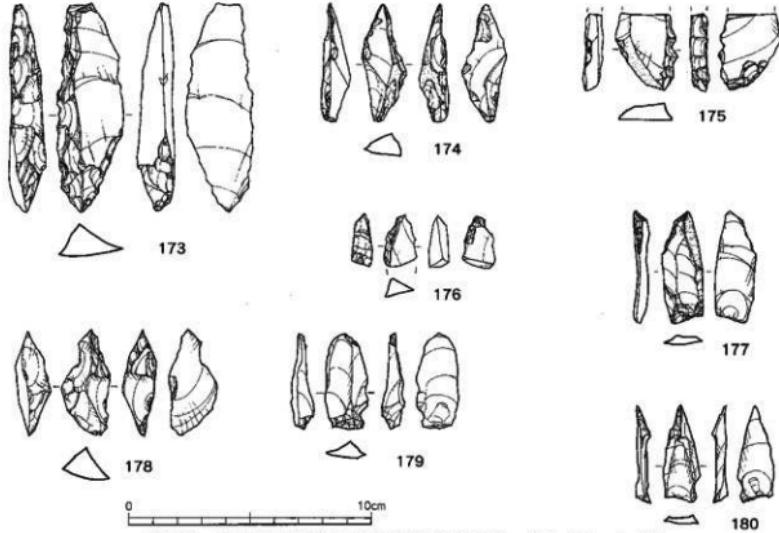
227	3995	C 42	VI ナイフ形石器	2	7.9	3.1	1.5	23.3	-98293.784	43411.178	91.121	左側面に對向削痕、左側面下部と右側面に底面から剥離がある。二次加工が施される。背面下部に底面から剥離がある。	
228	4016	C 42	VI ナイフ形石器	2	5.7	3.0	1.5	26.2	-98294.205	43412.732	91.089	底面削痕を有する。左側面に背・脇面削痕がある。右側面に底面から剥離がある。底面削痕も底面から剥離がある。	
229	1573	C 41	Va ナイフ形石器	2	3.9	2.3	1.2	8.9	-98294.919	43411.868	91.467	底面削痕を有する。左側面に底面から剥離がある。裏面に底面から剥離がある。	
230	2667	C 33	Vb ナイフ形石器	2	8.8	2.9	1.5	27.2	-98297.516	43409.484	91.129	底面削痕を有する。裏面に底面から剥離がある。	
231	4989	D 41	VI ナイフ形石器		2.5	1.9	1.2	4.5	-98305.040	43411.766	90.865	左側面に刃面を成す。左側面に底面から剥離がある。	
232	4857	E 31	VI ナイフ形石器		5.0	1.7	1.2	8.2	-98317.615	43400.027	90.455	裏面削痕を有する。裏面に底面から剥離がある。	
233	4895	F 24	VI ナイフ形石器		3.5	1.9	1.2	7.5	-98320.452	43395.724	90.498	裏面削痕を有する。左側面に底面から剥離がある。	
234	6563	B 41	VI 岩石		23.2	6.9	5.1	1110.0	-98287.819	43414.120	91.197	長い底面削痕がある。左側面に底面から剥離がある。	
235	6567	C 54	VI 岩石		19.7	4.9	4.5	715.3	-98291.791	43428.878	90.690	長い底面削痕がある。左側面に底面から剥離がある。	
236	6510	E 21	VI 岩石		21.9	8.3	5.3	1359.5	-98318.478	43391.923	90.478	長い底面削痕がある。裏面に底面から剥離がある。	
237	6565	C 33	VI 岩石	2	7.8	6.6	4.0	283.0	-98295.642	43408.655	91.137	左側面に底面から剥離がある。裏面に底面から剥離がある。	
238	6511	D 43	VI 岩石		6.1	5.3	4.6	194.2	-98308.820	43419.952	90.709	底面削痕の下端に敲打痕が認められる。上部は欠損している。	
239	3895	B 41	VI 岩石		19.2	2.6	4.0	267.4	-98287.527	43411.716	91.176	長い約19cmの長い嵌合石である。上下両面にその嵌合部に底面から剥離を持つ。	
240	4038	C 41	VI 岩石	2	13.8	4.5	4.6	420.5	-98296.203	43413.583	91.069	棒状の底面削痕がある。下側面に底面から剥離がある。	
241	3996	C 42	VI 岩石	2	14.0	4.2	4.0	329.7	-98293.619	43411.567	91.186	長い約10cmの底面削痕を使用。上下両面に底面から剥離を持つ。背面左方に背から側面削痕を持つ。	
242	4774	C 54	VI 岩石		16.3	5.3	4.9	497.2	-98290.758	43426.438	90.798	長い約15cmの底面削痕を持つ。上下両面に底面から剥離を持つ。	
243	3894	B 41	VI 岩石		11.5	4.8	3.6	318.2	-98287.781	43413.554	91.201	棒状の上面に底面削痕を持つ。左側面に底面から剥離を持つ。	

第24表 後期旧石器時代IV期石材別石器観察表(5)

番 号	社 会 登 記 番 号	グラン ジ	層	器種	全 長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	国土府標 X座標	国土府標 Y座標	レバベル (m)	備 考	
244	3954	C 42	VI	敲石	2	13.1	4.8	3.6	270.0	-98293.295	43410.374	91.219	上部にふくらみを持つ棒状の器使用。上面に斜打痕、下面に斜打痕と側面張を持つ。
245	4950	C 42	VI	敲石	2	10.1	4.0	2.0	123.6	-98294.359	43411.204	91.197	小形で扁平な棒状器。上下両面に斜面張を持つ。
246	4288	C 33	VI	敲石	2	8.1	4.5	4.4	185.4	-98296.294	43409.472	91.136	斜面張と側面張を持つ。
247	1701	C 52	VI	敲石		8.2	3.9	2.8	139.8	-98291.942	43421.636	90.893	小形で扁平な棒状器。上下両面に斜面張を持つ。
248	4699	C 52	VI	敲石		6.8	2.7	1.6	45.9	-98291.214	43422.529	90.936	小型の棒状器。
249	1380	C 33	VI	敲石	2	6.7	3.2	2.1	59.0	-98297.916	43407.758	91.155	棒状器の上面に側面張及び斜面張を持つ。
250	1473	D 32	VI	敲石		7.6	4.0	2.7	106.7	-98302.059	43401.384	90.946	小型の棒状器。
251	4770	D 51	VI	敲石		6.7	3.2	2.0	62.3	-98306.582	43423.226	90.687	小形の棒状器。
252	4798	D 71	VI	敲石		5.6	4.3	4.2	135.9	-98306.220	43444.111	90.178	円錐形の器の上下両面に斜面張を持つ。
253	4827	E 42	VI	敲石		7.0	4.2	3.2	120.3	-98314.387	43412.448	90.623	棒円形器の上・下両面に斜面張を持つ。上面から背面に向って、斜面に斜面張が並んでいる。
254	5076	F 32	VI	敲石		7.7	4.3	2.9	129.5	-98321.378	43400.198	90.394	小型の棒状器。
255	6602	C 42	VI	敲石	2	6.7	5.6	5.0	248.4	-98293.763	43412.496	91.055	円錐形の下面に斜面張が現れる。
256	6509	E 24	VI	敲石		8.9	6.7	5.2	411.1	-98312.846	43396.793	90.745	棒円形器の背面中央、上下左右の側面に斜面張がある。
257	6535	D 54	VI	敲石		11.4	8.6	5.0	690.3	-98300.048	43429.721	90.664	棒円形器の背面中央、上下左右の側面に斜面張がある。
[チャート] [第52図]													
258	3025	G 31	VI	台形石器		2.2	1.2	0.7	1.6	-98339.269	43403.802	89.958	右側面に背・腹内面からの刃溝と肉盛筋が入る。上面には、背筋と腹筋の側面張が現れる。
259	4126	C 41	VI	台形石器	2	2.0	1.4	0.5	1.2	-98296.470	43410.486	91.152	左右両側面に斜面張が施される。刃溝には、使用の経跡が認められる。
260	4257	C 33	VI	台形石器	2	1.8	1.3	0.5	1.1	-98295.348	43407.004	91.102	左側面に前面からの側面張を持つ。
[尾鈴山遺物岩相] (第53図)													
261	4894	E 21	VI	敲石		8.4	6.5	4.0	250.9	-98317.620	43391.993	90.656	左側面にふくらみを持つ細平な物を素材とする。上下両面に斜面張、側面張がある。

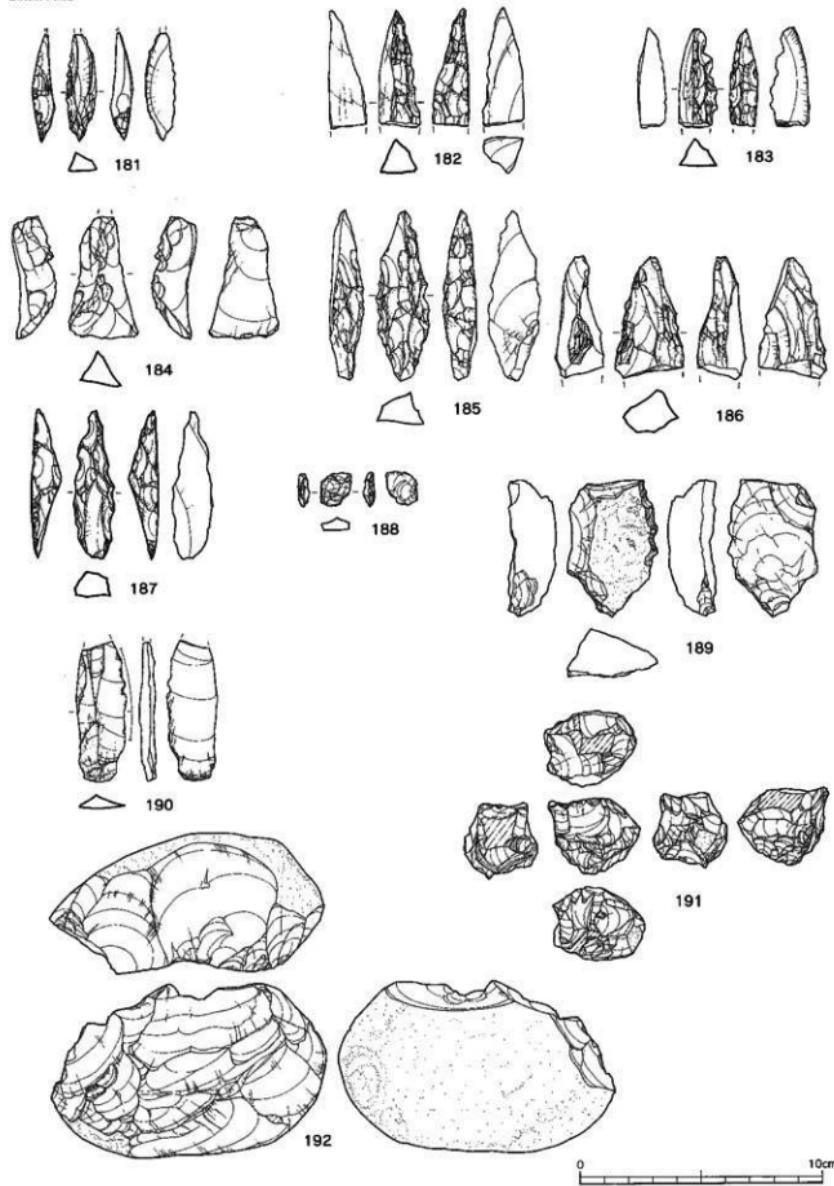
第25表 後期旧石器時代IV期石材別石器観察表(6)

[流紋岩]



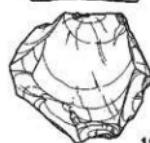
第45図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図 (5) (S = 1/2)

〔流紋岩〕

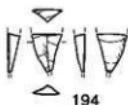


第46図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図（6）（S = 1/2）

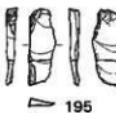
[流紋岩]



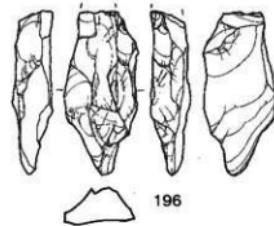
193



194

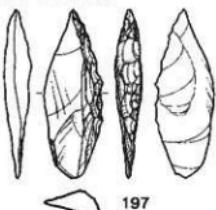


195

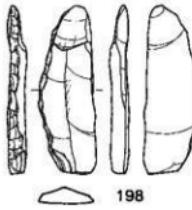


196

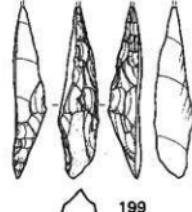
[ホルンフェルス]



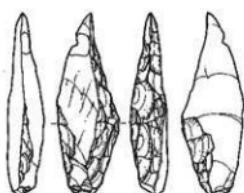
197



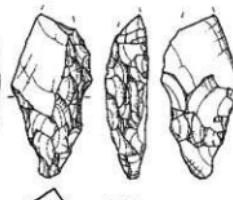
198



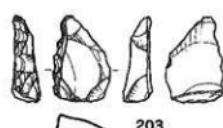
199



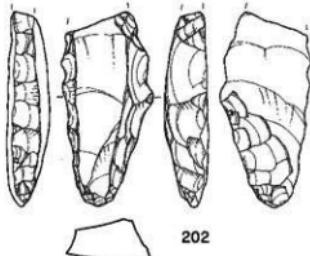
200



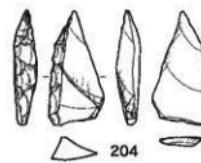
201



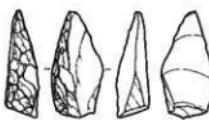
203



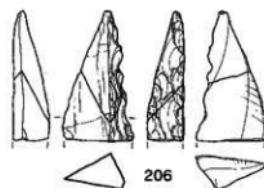
202



204



205



206

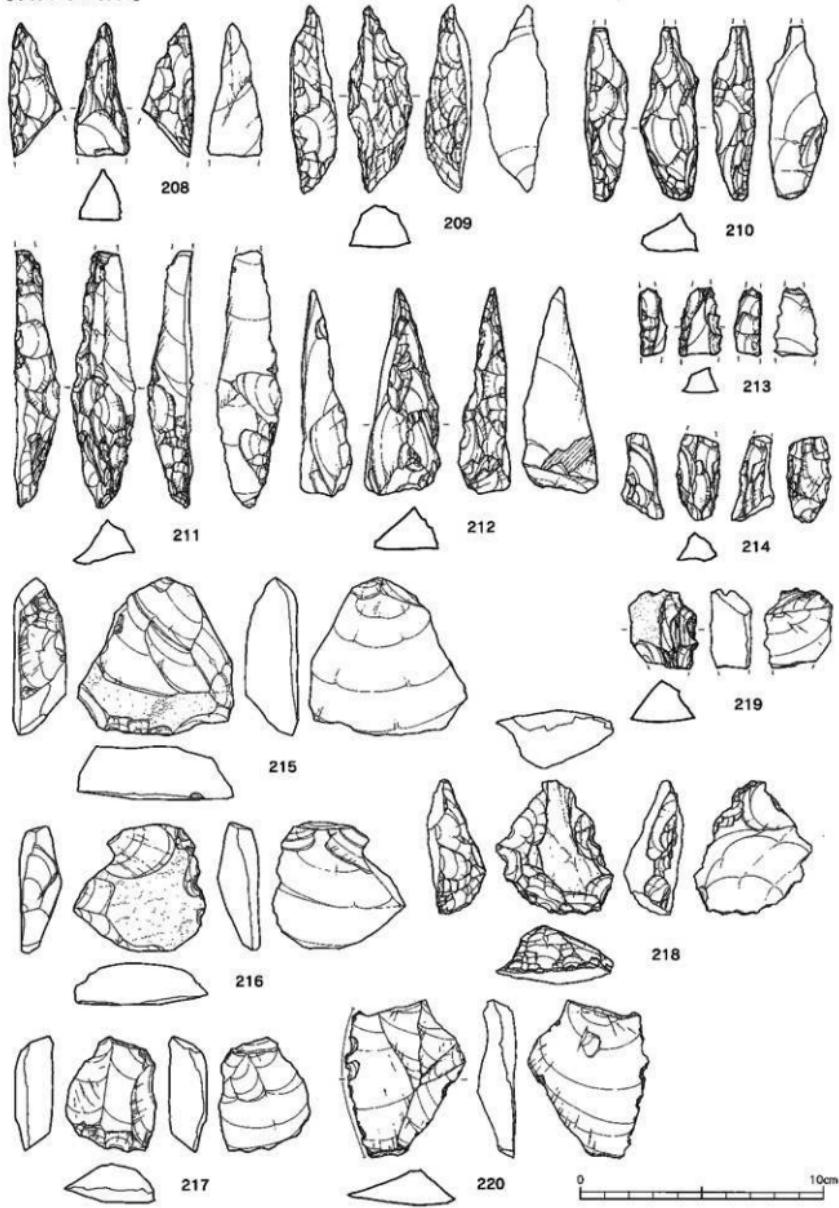


207



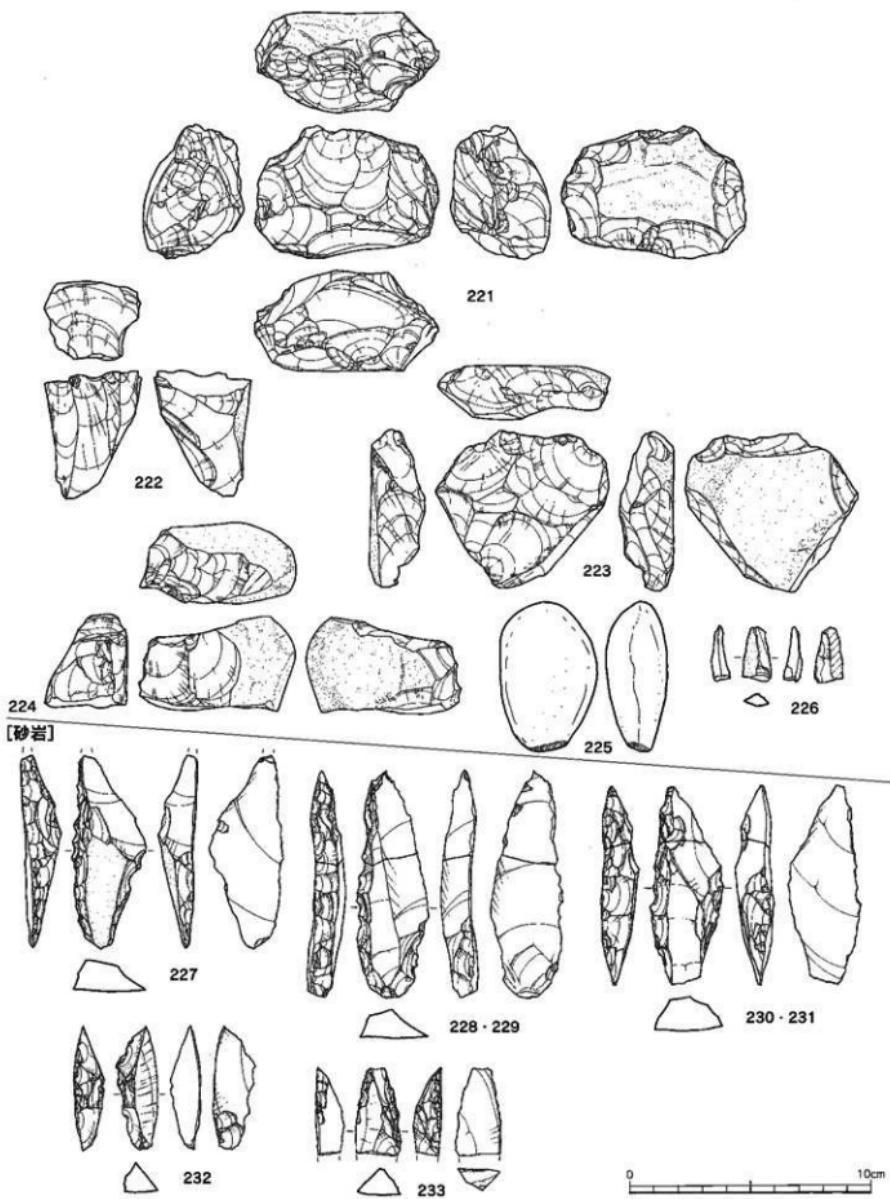
第47図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(7) (S = 1/2)

[ホルンフェルス]

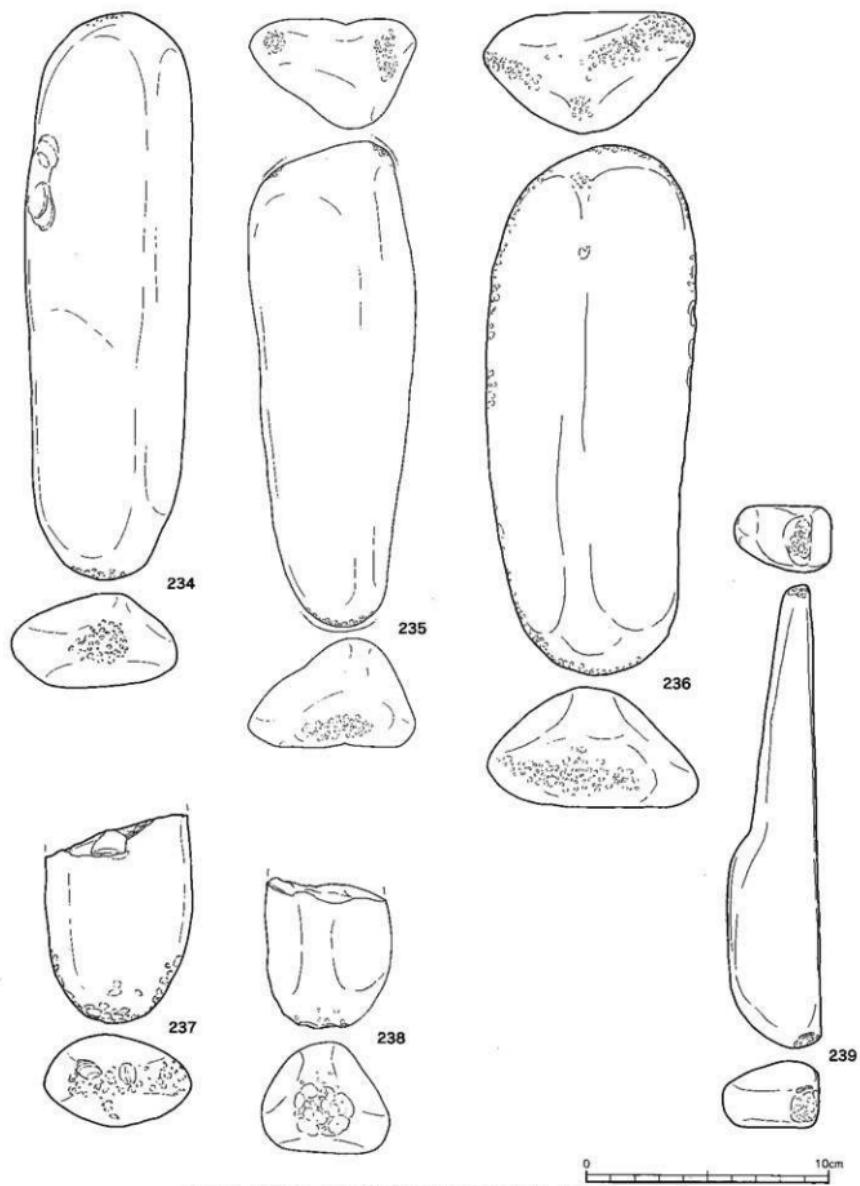


第48図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(8) (S = 1/2)

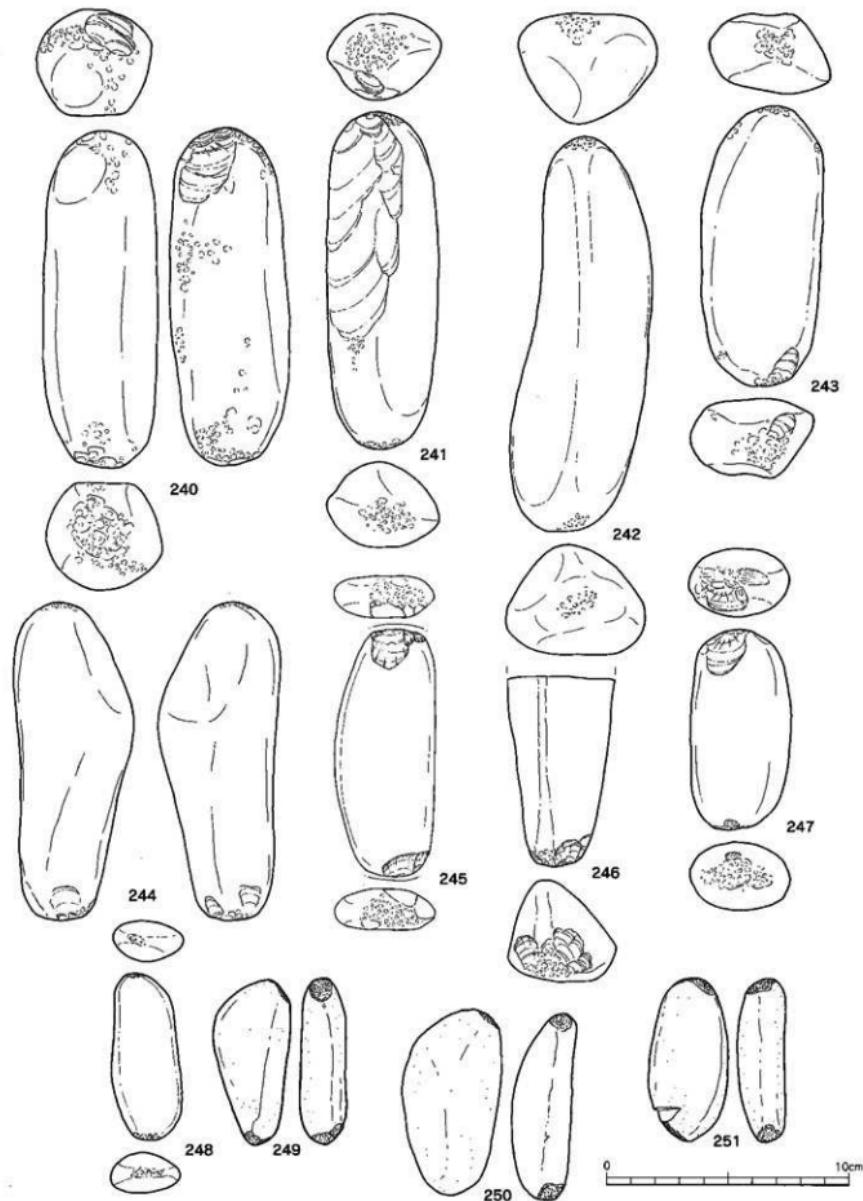
【ホルンフェルス】



第49図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(9)(S=1/2)

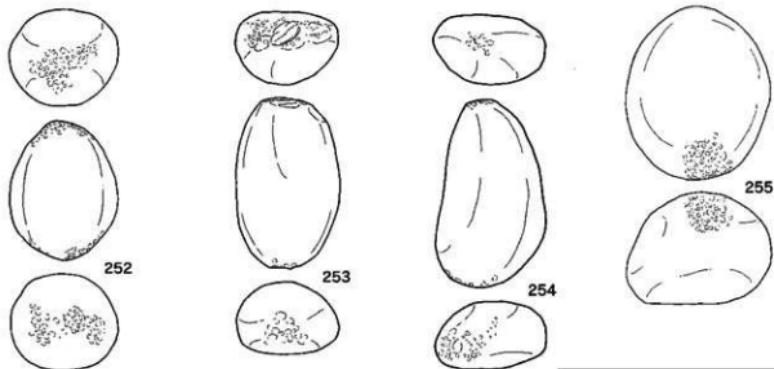


第50図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(10) (S = 1/2)

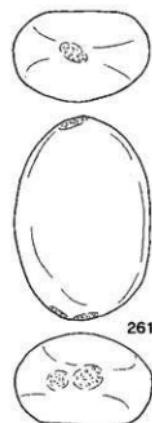


第51図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(11)(S=1/2)

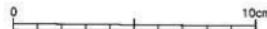
[砂岩]



[尾鈴山酸性岩類]



[チャート]



第52図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図 (12) (S = 1/2)

## ○接合資料

後期旧石器時代IV期では、40組135点が接合した。そのうち6組・16点を図化し、掲載した。

### 【接合資料7：頁岩】（第53図）

接合資料7は、石核と剥片1点の接合である。打面を変えながら剥離が繰り返された石核(262)の背面に、右からの打撃を加え、一部礫面を残したままの剥片(263)が剥離された。

### 【接合資料8：頁岩】（第53図）

接合資料8は、石核と2点の剥片が接合したものである。石核(264)の礫面を除去する作業の一環として265を除去した後、不定形剥片266を剥離している。

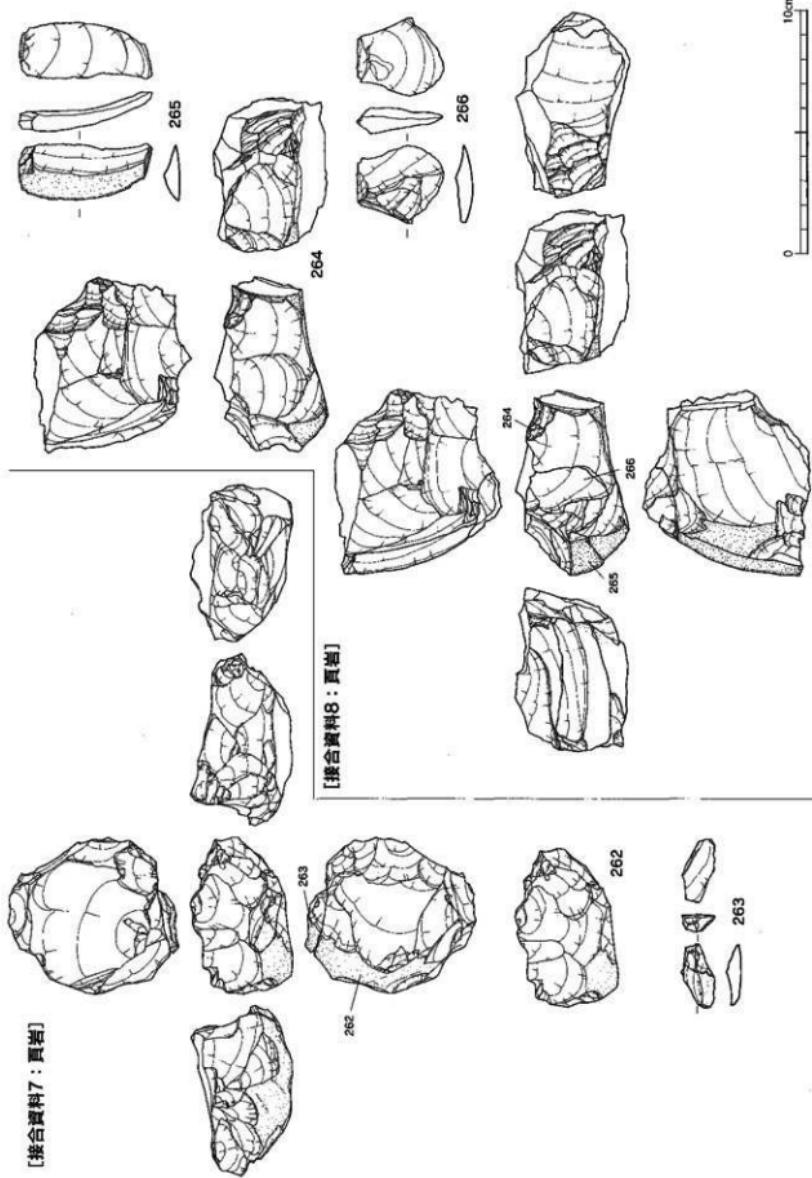
### 【接合資料9：流紋岩】（第54図）

部 分	品 名	部 分	器種	規 格	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	田 中 標 記	田 中 標 記	レ ル ン (m)	備 考
【接合資料7：頁岩】（第53図）												
262 4147 C 41 VI 石核												
262	4147	C 41	VI	石核	2	6.5	6.3	4.6	189.2	-98297.775	43410.452	91.075
263	1854	C 41	Va	剥片	2	2.6	1.1	0.8	1.9	-98296.194	43410.062	91.762
【接合資料8：頁岩】（第53図）												
264	4748	D 43	VI	石核		8.0	6.0	4.2	229.9	-98305.631	43415.916	90.782
265	5324	D 43	VI	剥片		5.5	2.3	1.0	9.7	-98306.212	43415.810	90.830
266	557	F 42	Va	剥片		3.5	3.1	1.0	8.8	-98322.339	43414.775	90.642
【接合資料9：流紋岩】（第54図）												
267	4599	B 53	VI	剥片		7.7	5.1	3.4	152.4	-98287.433	43428.181	90.668
268	4600	B 53	VI	剥片		8.3	5.9	3.6	163.4	-98287.447	43428.270	90.658
【接合資料10：流紋岩】（第54図）												
269	4541	B 43	VI	石核		4.2	3.0	2.3	34.9	-98287.204	43416.427	91.141
270	4558	B 43	VI	剥片		2.8	2.5	1.8	9.1	-98289.571	43416.919	91.095
271	4564	B 43	VI	剥片		3.7	2.7	1.0	5.6	-98288.282	43418.326	91.111
272	4691	C 44	VI	剥片	3	3.5	2.5	1.3	9.8	-98290.138	43417.894	91.116
273	5109	C 44	Vb	剥片	3	3.4	2.1	1.8	7.3	-98288.303	43415.851	91.118
【接合資料11：ホルンフェルス】（第55図）												
274	4803	E 72	VI	剥片		4.2	2.1	1.9	19.7	-98311.047	43442.653	90.253
275	5065	E 72	VI	剥片		7.3	6.1	2.7	96.5	-98311.743	43443.027	90.133
【接合資料12：砂岩】（第55図）												
276	4890	E 21	VI	角錐状石器		5.4	3.4	1.1	22.2	-98316.546	43391.967	90.549
277	4891	E 21	VI	角錐状石器		6.2	3.5	1.5	24.3	-98316.961	43391.971	90.570

## 〔参考資料-砂岩〕

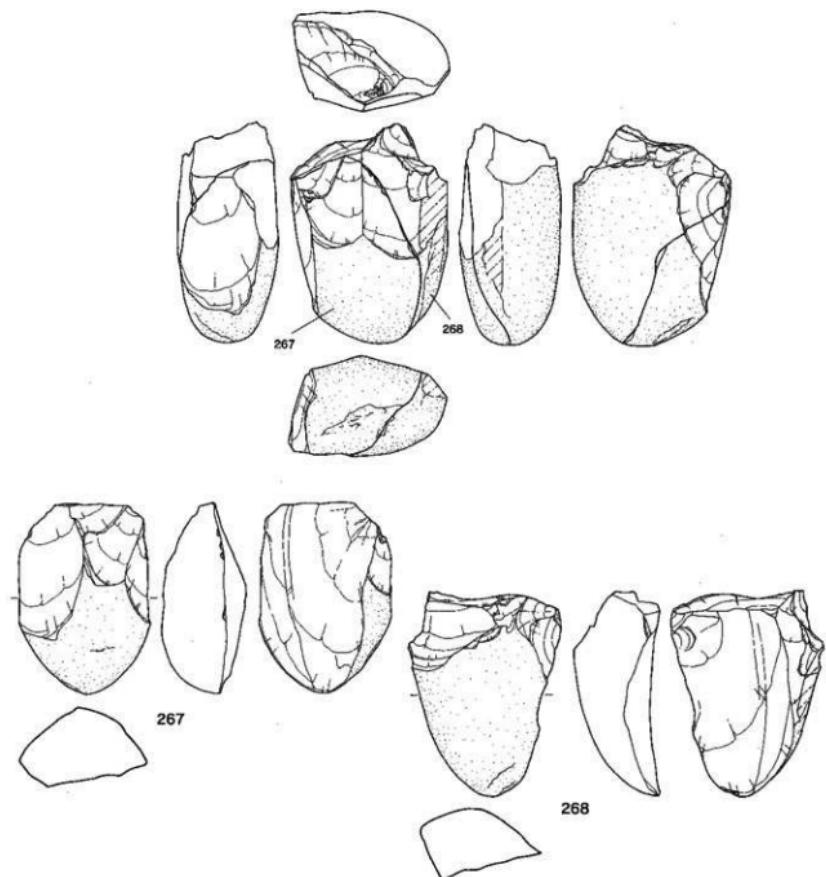
4531	B 44	VI	重石核(重石)		9.8	2.8	2.2	89.3	-98280.885	43419.958	90.906
4315	C 33	VI	重石削(重石)	2	16.3	5.2	4.5	617.1	-98296.441	43407.494	91.157
6504	C 33	VI	重石削(重石)	2	15.8	5.4	4.5	675.4	-98295.759	43407.685	91.126
4158	C 41	VI	重石削(重石)	2	11.8	3.9	3.0	220.1	-98297.925	43410.633	91.066
6506	C 41	VI	重石削(重石)	2	12.0	4.0	4.5	300.3	-98295.334	43410.775	91.122
4724	C 51	VI	重石削(重石)						-98205.681	43422.197	90.952
8508	D 33	VI	重石削(重石)		6.2	5.3	4.3	176.5	-98309.755	43406.115	90.679
4879	E 22	VI	重石削(重石)		7.6	3.8	3.3	139.0	-98314.158	43395.122	90.765

第26表 後期旧石器時代IV期石材別石器観察表(7)

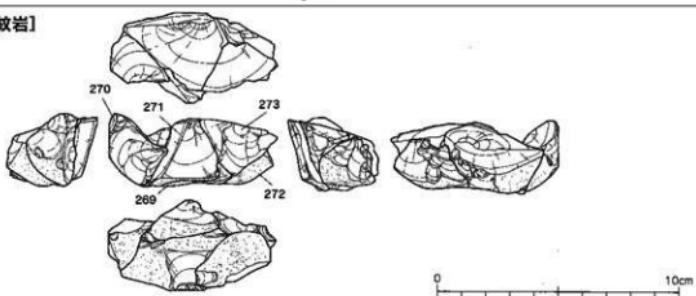


第53図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(13) (S = 1/2)

[接合資料9：流紋岩]

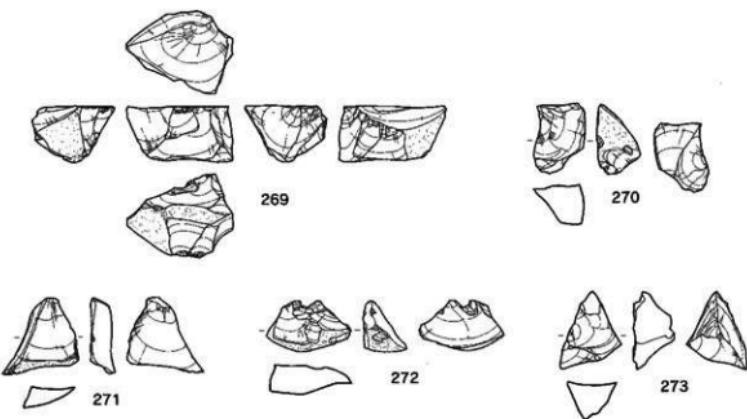


[接合資料10：流紋岩]

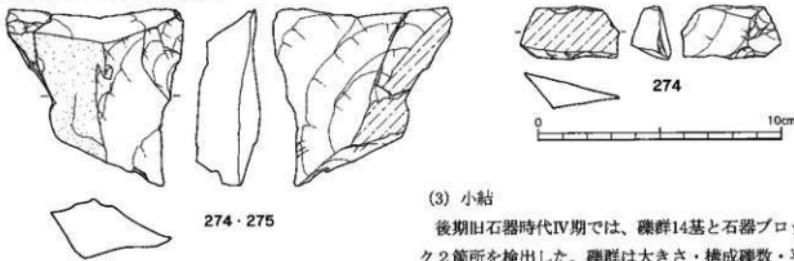


第54図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(14) (S=1/2)

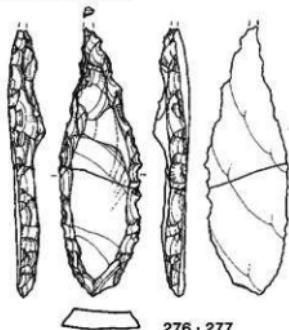
[接合資料10：流紋岩]



[接合資料11：ホルンフェルス]



[接合資料12：砂岩]



第55図 後期旧石器時代IV期石材別石器実測図(15)  
(S = 1/2)

(3) 小結

後期旧石器時代IV期では、礫群14基と石器ブロック2箇所を検出した。礫群は大きさ・構成種数・平均重量のほか、石材構成比・赤化度・付着物の割合などは様々である。石材構成比や赤化度などは、散礫との間に大きな違いは認められない。

2箇所の石器ブロックは、検出場所は近いが、構成石材・石器器種などに明らかな違いがある。特に石器ブロック2では、原産地の違う数種類の黒曜石が集中し、石核・敲石の出土、チップの多さなどから石器製作の場と考えられる。また、遠隔地との石器石材交易を示す貴重な資料といえる。

石器は、これまでみられなかった角錐状石器が登場し、器種が豊富になる。ナイフ形石器や敲石に見られる大きさや形状・加工技術の多様化なども特徴として指摘できるであろう。

## 5 後期旧石器時代V期

小林輕石(Kr-Kb)を含む暗褐色土層下部のVb層では、石器ブロック1箇所、遺物約1,600点が出土し、後期旧石器時代V期とした。調査対象面積は、調査区全面約3,000m<sup>2</sup>である。

### (1) 遺構

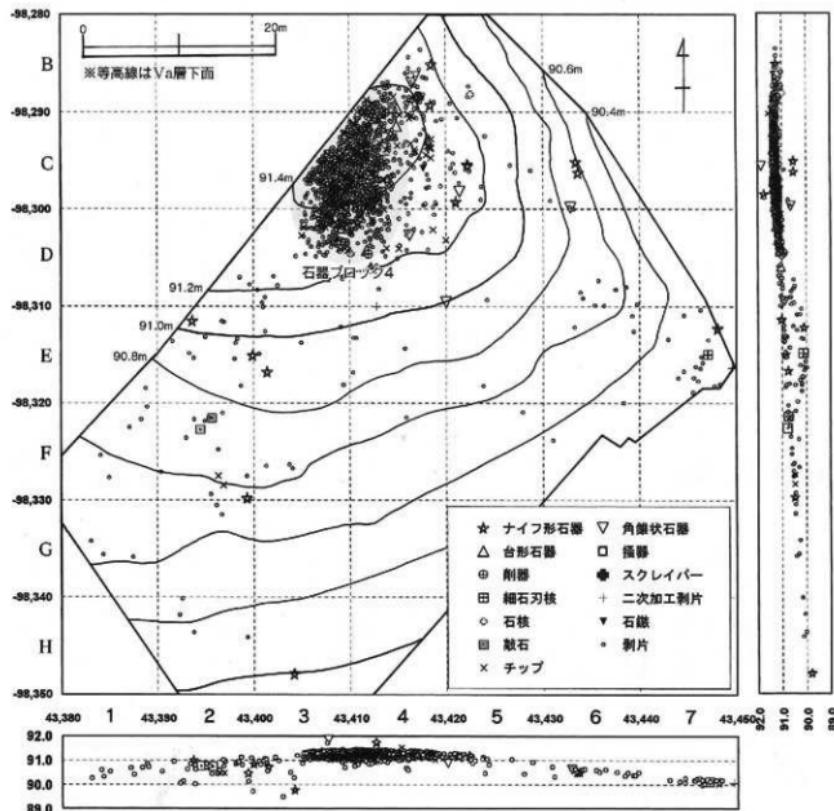
遺構は、調査区北西部のB41～D34・D42グリッド付近で石器ブロック4を確認した。IV期で検出した石器ブロック2の上部にあたる。礫は70点出土したが、礫群に認定できるようなまとまりはみられな

かった。

### (2) 遺物

#### ○石器器種

後期旧石器時代V期の遺物は計1,616点出土した。内訳は、ナイフ形石器17点・角錐状石器12点・台形石器16点・搔器1点・削器1点・スクレイバー1点・細石刃核1点・石核5点・二次加工剥片6点・敲石2点である(第27表)。剥片・チップが多く、遺物総数はIV期を上回るが、製品の数は少なくなっている。石器の器種別出土状況を第56図に示す。



第56図 後期旧石器時代V期器種別遺物分布図 (S = 1/500)

石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	チャート	砂岩	サヌカイト	石英	不明	計
石鎌							1			1
ナイフ形石器	8	7	1		1					17
角錐状石器	2	2	7	1						12
台形石器	3	1		11	1					16
削器		1								1
搔器				1						1
スクレイバー	1									1
細石刃核				1						1
石核		1	2	2						5
二次加工剥片		1		5						6
敲石						2				2
曲石器(敲石)						2				2
剥片	54	342	184	746	32		14	1	6	1379
チップ	1	7	2	121	1		39		1	172
計	66	364	197	888	35	4	54	1	7	1616

第27表 後期旧石器時代第V期石器・石材組成表

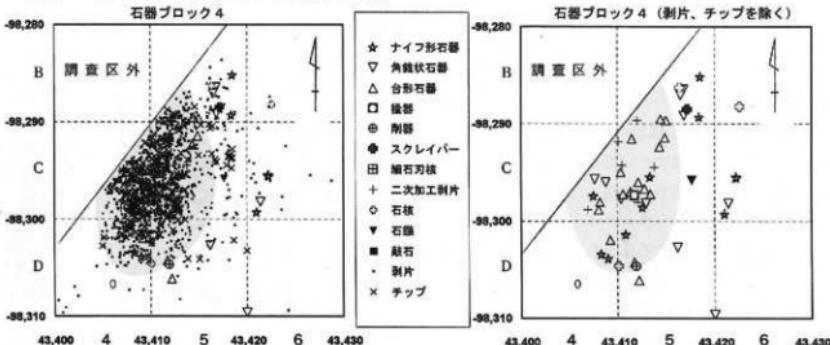
## ○遺物分布

遺物は調査区北西部の石器ブロック4及びその周辺に集中する。石器ブロック内から約1,200点の遺物が出土したが、これはV期出土遺物の75%に相当する。

## 【石器ブロック4】

石器ブロック4は、長径約15m・短径約10mを計

る。調査区の関係で全体を把握できなかったが、遺物の出土は、調査区外の北西方向にさらに広がる様相を呈していた。遺物は小型の剥片・チップが多いが、ナイフ形石器・角錐状石器・台形石器・搔器・削器等の製品も出土している。特に台形石器の出土が顕著である。



第57図 石器ブロック4器種別遺物分布図 (S = 1/500)

石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	チャート	サヌカイト	計
ナイフ形石器	1	1					2
角錐状石器			2	1			3
台形石器	2	1	11				14
削器		1					1
搔器				1			1
石核				1			1
二次加工剥片				5			5
剥片	28	249	84	626	20	10	1017
チップ	1	6	2	114	1	26	150
計	30	259	89	759	21	36	1194

第28表 石器ブロック4石器・石材組成表

石器ブロックのすぐ東側にも、ナイフ形石器・角錐状石器・石核など製品が多数出土しており、興味深い（第57図）。

#### ○石材及び接合

石材ごとの器種・出土位置と接合関係を概観する。各石器の詳細は、第30表にまとめた。

#### 黒曜石（第58図）

遺物は888点出土し、大部分が石器ブロック4に集中する。内訳は剥片746点・チップ121点で、製品は台形石器11点・ナイフ形石器1点・角錐状石器1点・搔器1点・二次加工剥片5点・石核2点など21点が出土した。製品は石器ブロック内からほとんどが出土し、石器ブロック外では調査区東端で細石刃核1点が出土したのみである。接合関係も石器ブロック内だけに数点確認されただけである。石器ブロック4の構成石器は、石材別にみると黒曜石が最も多く63%を占めている。原産地別に見ると、南九州系の日東産が最も多く467点（約62%）、三船産29点（約4%）、桑ノ木津留産12点（2%）、上牛鼻産9点（約1%）となる。原産地別の石材組成表を第29表に示す。

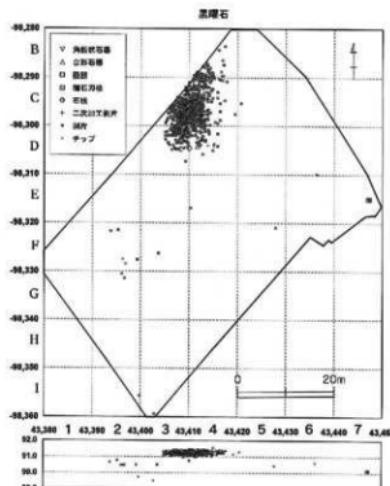
#### 頁岩（第60図）

V期遺物では、黒曜石の次に多い365点が出土した。器種はナイフ形石器7点・台形石器3点・角錐状石器2点・二次加工剥片2点などで、石器ブロック4とその東側からの出土が中心である。また、少數ではあるが、調査区北西壁沿いにナイフ形石器や剥片の出土がみられる。

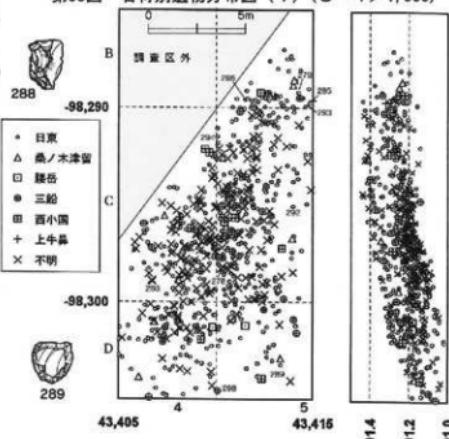
接合関係をみると石器ブロック内で最も多くの接合が確認できた。また、ブロック外の遺物との接合もあり、最大約30m離れた遺物同士の接合が確認できた。

#### ホルンフェルス（第60図）

出土総数は197点である。器種は角錐状石器7点のほか、石核・ナイフ形石器・台形石器・使用痕剥片などが出土している。石器は、出土位置を見ると石器ブロック付近に最



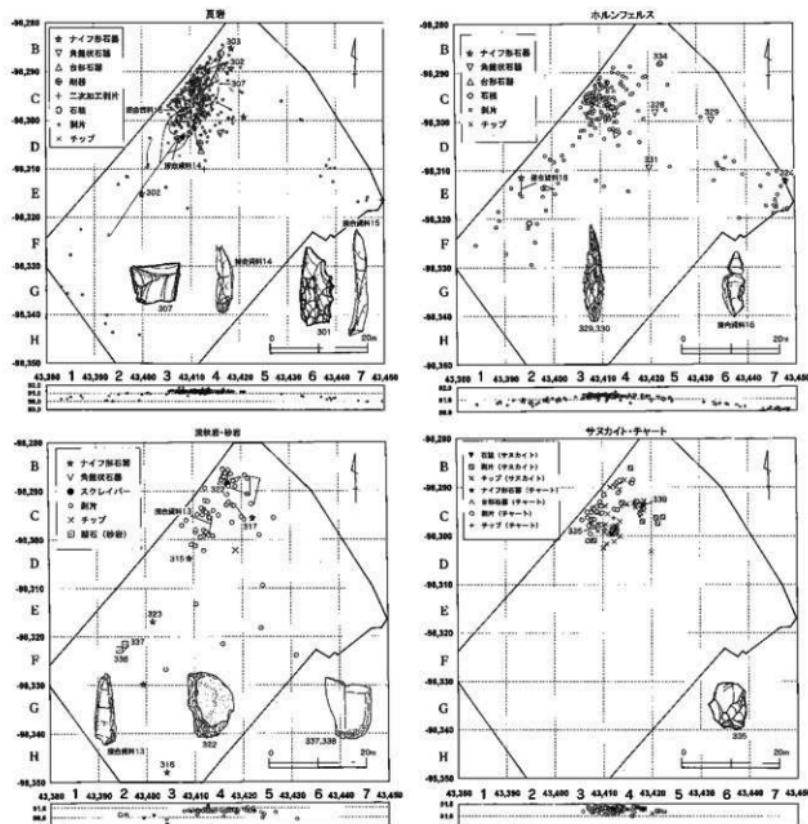
第58図 石材別遺物分布図(1) ( $S = 1/1,000$ )



第59図 石器ブロック4  
黒曜石原産地別分布図 ( $S = 1/250$ )

石材	日東	鹿児島	三船	上牛鼻	西小国	桑ノ木津留	不明	計
角錐状石器			1					1
台形石器	5			3		1		9
櫛器							1	1
石核	1		1					2
二次加工剥片	4		1					5
剥片	441	5	26	5	21	11	117	626
チップ	16			1			97	114
計	467	5	29	9	21	12	215	758

第29表 石器ブロック4黒曜石原産地別石器組成表



第60図 後期旧石器時代V期石材別遺物分布図（2）（S=1/1,000）

も多いが、石器ブロック外でも東西方向に下る斜面に沿って、ナイフ形石器・角錐状石器・石核・剥片などが出土している。

接合関係を見ると、近距離の遺物同士が接合したものがほとんどである。

### 流紋岩（第60図）

遺物は66点出土し、製品はナイフ形石器8点・角錐状石器・スクレイパーである。他の石材と違い製品は石器ブロック内からは、ナイフ形石器1点が出土したのみ。ほとんどが石器ブロック外からの出土である。調査区北端に遺物のまとまりがあるほか、南西部にも数点のナイフ形石器・剥片が出土する。

### 砂岩（第60図）

遺物は敲石2点が出土し、接合した。位置は、石器ブロック4から南西方向に、約20mほど離れた場所である。

## サヌカイト(第60図)

遺物はナイフ形石器 1 点と剥片・チップ合わせて 54 点である。出土位置は、石器ブロック 4 内かその周辺部に限られる。接合関係は確認できなかった。

### チャート (第60図)

遺物はナイフ形石器・台形石器各1点を含む35点である。出土位置は、全て石器ブロック4内である。接合関係は確認できなかった。

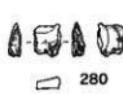
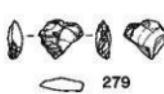
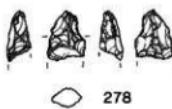
番号	記記 番号	グリッド	層	器種	石質 テクノロジー	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土地點 又は標	出土性質 Y座標	レベル (m)	備考
<b>[黒塚石[第61-62回]]</b>													
278	2903	C 41	Vb	角形状石器	4	2.0	1.5	0.9	2.1	-98297.758	53410.376	91.223	-不規則磨擦面。下部が欠損し、断面がひし形を呈する。刃部や粗面感があり、先端部も脱利さを欠く。
279	2267	B 41	Vb	台形石器	4	1.6	1.3	0.6	1.3	-98289.535	53411.471	91.205	上表面無傷面。左肩と刃部に複数の刃突痕が入る。刃部に使用の跡がある。
280	2488	C 41	Vb	台形石器	4	1.3	1.0	0.6	0.7	98295.999	53412.135	91.271	目立たず黒磨面。不定形な斜片を素材とし、右側面に背面と斜面からの剥離が施される。
281	2563	C 41	Vb	台形石器	4	2.0	0.9	0.6	1.0	98296.984	53411.336	91.322	目立たず黒磨面。不定形な斜片を素材とし、左側面に剥離を施す。
282	2612	C 41	Vb	台形石器	4	1.6	1.5	0.6	0.9	-98297.243	53410.619	91.340	目立たず黒磨面。不定形な斜片を素材とし、打削部分を基部として利用している。
283	3373	C 41	Vb	台形石器	4	1.3	1.7	0.4	0.3	-98296.695	53412.811	91.149	目立たず黒磨面。右側面に腹面からの剥離が施される。刃部は脱利ではないが、無理の切削面ばかり。
284	3403	C 41	Vb	台形石器	4	1.6	0.8	0.6	0.6	-98294.986	53410.328	91.213	全体的に加工が粗雑である。左側面下部に鋭かな剥離が施されている。
285	2256	B 41	Vb	台形石器	4	1.4	1.5	0.6	1.1	-98289.656	53414.970	91.320	上表面無傷面。左肩と刃部に腹面から剥離痕が見える。下面にむき出しの粗面がある。
286	2494	C 41	Vb	台形石器	4	1.5	1.2	0.4	0.7	-98297.229	53415.400	91.282	上表面無傷面。右側面に刃向凹溝が残され、左側面には剥離は無く、刃部は折れていた。
287	2785	D 34	Vb	台形石器	4	2.0	1.6	0.8	1.8	-98301.948	53409.249	91.123	上表面無傷面。右肩部に腹面からの剥離痕が施される。刃部は刃部に形成され、使用の跡がある。
288	3637	C 32	Vb	台形石器	4	2.0	1.5	0.7	1.1	-98288.873	53408.065	91.189	丸く木棒状工具。右側面に背面及び腹面からの剥離が施される。
289	3834	D 42	Vb	台形石器	4	1.7	1.6	0.5	1.0	-98304.239	53411.733	91.106	面小木棒状工具。左側面全体下部、さらに刃側面下部にかけて背腹面から剥離が施される。
290	2459	C 41	Vb	横铲	4	2.0	0.8	0.6	1.3	-98297.330	53411.735	91.314	丸く木棒状工具。表面下部に適切的な刃削加工が施される。
291	5053	E 74	Vb	研磨刃核	4	1.8	1.6	0.9	2.5	-98313.013	53417.065	90.126	丸い木棒状工具。正面に研磨石を接続して剥離した痕跡が残る。裏面と上面に粗面を残す。
292	2343	C 42	Vb	二次加工剝片	4	1.7	1.5	0.8	1.9	-98294.471	53412.803	91.339	上表面無傷面。不定形な斜片の両面の3/4に腹面開口部の剥離を施す。
293	2260	C 42	Vb	二次加工剝片	4	1.6	1.4	0.7	1.4	-98289.658	53414.597	91.270	上表面無傷面。右側面に背面及び腹面からの二次加工が施される。
294	2343	C 42	Vb	二次加工剝片	4	1.4	1.3	0.7	1.2	-98291.825	53416.130	91.311	上表面無傷面。右側面に背面及び腹面からの二次加工が施される。
295	2626	C 41	Vb	二次加工剝片	4	2.1	1.3	0.7	1.9	-98298.076	53412.147	91.322	上表面無傷面。背面下部側に二次加工が施されている。
296	3201	B 41	Vb	二次加工剝片	4	0.6	0.4	0.4	0.1	-98289.629	53412.064	91.222	上表面無傷面。背面上面に「次加工」が施されている。
297	3308	C 42	Vb	二次加工剝片	4	1.5	1.3	0.7	1.2	-98294.268	53410.517	91.198	二輪刀型刀身。右側面に背面及び腹面からの剥離が施される。
298	2831	D 34	Vb	右核	4	2.4	1.4	0.9	2.7	98304.584	53410.117	91.098	三輪刀型刀身。右側面斜片で、斜片剥離作業は11面のみにみられる。剥離剥離が重い。背面は平滑、半削離にな。
<b>[真宮[第62回]]</b>													
299	2793	D 42	Vb	ナイフ形石器	4	4.7	2.3	1.8	16.0	98301.418	53410.847	91.123	右側面に腹面開口方向からの対角剥離を施す。剥離は欠けている。
300	2892	C 51	Vb	ナイフ形石器	3.4	2.2	1.6	10.5	-98299.254	53412.002	91.188	右側面上部に腹面からの剥離を施した跡が伺える。	
301	2207	B 43	Vb	ナイフ形石器	3.2	1.3	1.1	4.5	-98289.313	53418.376	91.243	横長剝片刀。背面に刃形のための両面からの対角剥離が行われる。	
302	2931	E 23	Vb	ナイフ形石器	3.6	1.7	1.0	4.1	-98315.121	53399.904	90.868	丁寧に腹面から剥離を入れた底延加工された。背面に背面と腹面と側面の複数の粗面がある。	
303	2192	B 43	Vb	ナイフ形石器	2.1	1.5	1.3	3.9	-98295.171	53418.477	91.237	横長剝片刀。左側面加工工事。刃部に使用感と思われる剥離跡がある。	
304	3849	B 43	Vb	角形状石器	3.4	1.5	1.2	5.6	-98289.132	53416.850	91.214	横長剝片を素材とする。やや小型の石器であら。左側面に腹面から剥離を入れた底延加工である。	
305	2878	D 41	Vb	角形状石器	5.3	1.9	1.2	10.8	-98302.689	53416.186	91.174	左側面削除。腹面から底延加工をしていて。背面右下には腹面が残り、未削離と思われる。	
306	2916	D 41	Vb	台形石器	2.3	1.2	0.6	1.3	-98306.094	53412.219	91.041	右側面削除。右側面から剥離を施す。刃部は斜めに形成され、使用感と思われる剥離跡が確認できる。	
307	3241	C 42	Vb	内形石器	4	2.1	1.5	0.5	1.3	-98291.470	53414.895	91.272	平面に上よりも低い部分を削っている。左右側面に腹面から剥離を施す。刃部には使用感が残る。
308	3259	C 42	Vb	台形石器	4	1.9	1.7	0.6	1.0	-98291.574	53411.515	91.238	左右側面削除。削いている。左右側面に腹面から剥離加工を施している。
309	3838	D 42	Vb	削片	4	7.0	5.2	2.0	36.3	98304.646	53411.954	90.945	不規則削片を削除する。右側面に対角削離を施す刃部を作り出していく。下面に底延加工。
310	3841	B 43	Vb	右核	4.6	3.4	2.8	29.5	-98286.239	53416.377	91.203	上面上に削除面がある。上面、右側面から削片を剥離している。裏面に一辺削離。	
311	8061	B 73	Vb	二次加工削片	11.1	4.3	1.7	90.0	-98316.375	53409.924	90.076	斜面に削離を入れた底延加工。背面に削離して裏面から内側削離が認められ、上部及び腹面が削離である。	
312	2718	B 33	Vb	削片	5.4	1.2	1.3	6.3	-98297.389	53406.020	91.344	上面に削離がある。背面側面に剥離感が強度がみられる。	
313	2258	B 41	Vb	削片	4	3.9	1.8	0.9	4.9	-98289.873	53413.980	91.294	腹面削片。上面に剥離感がある。下面は欠損している。
314	3056	C 42	Vb	削片	4	2.9	1.2	0.7	2.2	-98294.527	53412.017	91.249	腹面削片。上面に加削感あり。裏面右側面に剥離感が確認。

第30表 後期旧石器時代V期石材別石器観察表(1)

番号	分類 骨部 骨部	グランジ	番	器種	形態 Type	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	国上麻原 X線像	国土施措 Y線像	レベル (m)	備考
【複数の】 [第61表]													
315	2830	D 34	Vb	ナイフ形石器	4	2.5	1.5	0.7	2.2	-98203.854	43409.069	91.161	打削面と側面に削痕からの基部調整が入る。上端は火炙、下端に磨痕を有する。
316	2144	H 31	Vb	ナイフ形石器	—	4.2	2.2	0.8	6.2	-98247.884	43404.143	99.795	刃端部に肩出山からの刃端調整が入る。基部調整も可能である。刃端に斜面と斜面を有する。上端は火炙をしている。
317	2869	C 41	Vb	ナイフ形石器	—	4.5	1.8	1.2	5.5	-98283.426	43423.319	91.210	刃端部に刃端のための肩出山削痕を有する。背側両面に調整を大きく残す。火炙は火炙していない。
318	2869	C 41	Vb	ナイフ形石器	—	2.8	1.3	0.5	2.1	-98295.544	43423.250	91.176	刃端部に刃端の加工が入る。刃端に斜面と斜面を有する。下部は火炙していない。
319	2963	F 23	Vb	ナイフ形石器	—	2.7	1.4	0.9	2.7	-98329.766	43398.281	90.185	刃端部に刃端の加工の跡及び刃端部の削痕を有する。高角及び刃端に斜面を有する。
320	2199	B 43	Vb	角擦状石器	—	3.3	1.6	1.3	5.3	-98266.438	43116.798	91.249	角擦状石器類、矢石頭類に共通して見られる特徴を有する。刃端に斜面を有する。刃端部に斜面を有する。
321	3845	D 43	Vb	角擦状石器	—	2.4	1.3	0.7	3.6	-98287.046	43408.750	91.195	角擦状石器類、矢石頭類に共通して見られる特徴を有する。刃端部に斜面を有する。
322	2300	B 43	Vb	スクリーパー	—	5.2	3.7	2.1	48.6	-98288.363	43417.219	91.243	刃端部に斜面を有する。上端は火炙、下端で刃端部に斜面を有する。
323	2928	E 21	Vb	片削	—	4.6	1.9	0.9	3.0	-98216.777	43401.394	90.747	断面に削離された刃形、刃端部に斜面を有する。
【ホルンブルース】 [第64表]													
324	5656	H 74	Vb	ナイフ形石器	—	13.6	4.6	2.9	138.8	-98212.276	43448.080	90.105	刃端部に斜面と火炙の跡を有する。刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
325	150	C 33	Vb	角擦状石器	4	3.7	1.9	1.4	10.7	-98296.653	43407.078	91.852	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
326	2524	C 41	Vb	角擦状石器	4	3.5	2.2	0.8	8.6	-98265.983	43408.795	91.368	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
327	3607	C 41	Vb	角擦状石器	4	8.6	2.2	1.7	22.6	-98298.193	43423.945	91.319	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
328	2890	C 41	Vb	角擦状石器	—	8.8	1.3	1.1	4.6	-98298.220	43421.289	91.137	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
329	2913	C 41	Vb	角擦状石器	—	6.9	2.5	2.1	37.7	-98299.326	43432.836	90.645	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
330	963	D 42	Vb	角擦状石器	—	5.0	1.6	1.7	10.9	-98300.353	43434.411	91.159	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
331	3602	D 43	Vb	角擦状石器	—	7.0	2.0	1.3	19.8	-98309.654	43419.981	90.955	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
332	2726	C 42	Vb	角擦状石器	—	4.1	1.8	1.5	4.0	-98292.338	43411.345	91.242	刃端部に斜面と火炙されたと見られる。
333	3502	B 51	Vb	片削	—	10.7	9.7	3.0	257.4	-98287.419	43422.836	91.028	大型の小花崗岩石材、下部に斜面と火炙部が削離される。
334	3501	B 51	Vb	石核	—	7.8	5.9	4.2	219.5	-98288.177	43422.553	91.002	刃端部を大きく削つた石核から、火炙部剥落を経て削離している。
【チート】 [第65表]													
335	2869	F 24	Vb	合形石器	—	1.8	1.5	0.7	1.7	-98298.059	43408.199	91.340	合形石器 (Vb) に削離した肩出山の加工が施される。刃端には刃端部の削離部がある。
336	3622	F 24	Vb	ナイフ形石器	—	3.2	2.0	1.5	4.3	-98297.114	43407.483	91.181	刃端部削離部が加工されたと見られる。
【砂岩】 [第66表]													
337	2837	F 24	Vb	磨石	—	6.4	3.6	3.6	140.1	-98211.561	43395.614	90.737	火炙部と磨打部を持つ一つの磨石が出土した。上端は火炙しており、底面に削離されたと見られる。
338	2868	F 24	Vb	磨石	—	7.6	3.6	2.5	90.2	-98232.726	43394.436	90.773	火炙部と磨打部を持つ一つの磨石が出土した。上端は火炙しており、底面に削離されたと見られる。
【テスカイト】 [第67表]													
339	2907	C 43	Vb	石核	—	1.9	1.7	0.3	0.8	-98295.797	43417.640	91.287	下端に剥離を持ち、底面外縁に凹みを有している。上端は火炙している。

第31表 後期旧石器時代V期石材別石器観察表(2)

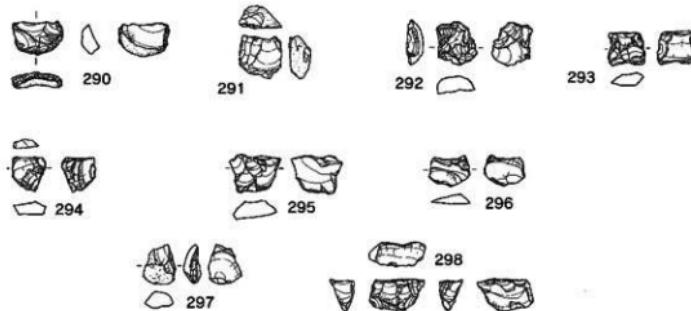
【黒曜石】



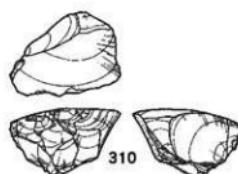
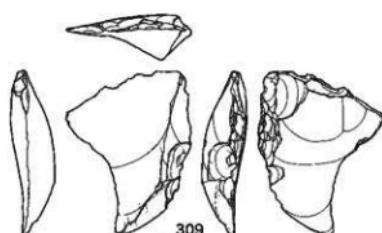
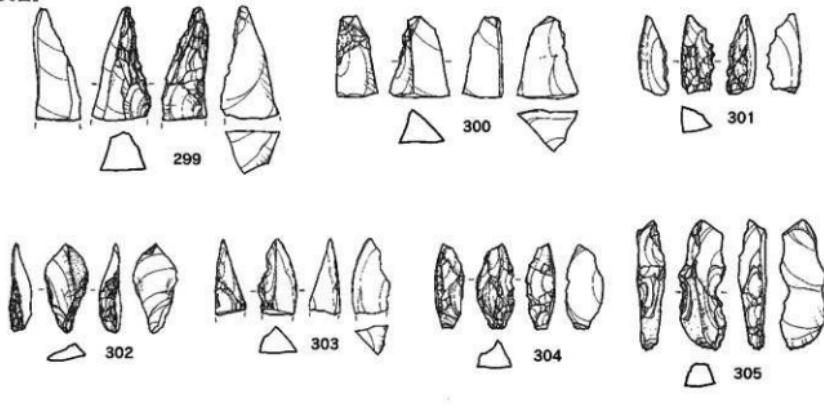
第61図 後期旧石器時代V期石材別石器実測図(1)(S=1/2)



〔黒曜石〕



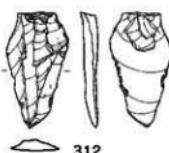
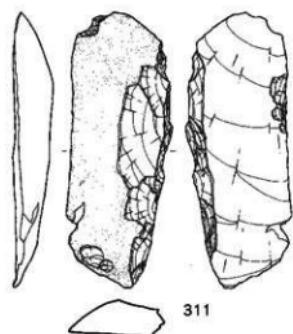
〔頁岩〕



0 10cm

第62図 後期旧石器時代V期石材別石器実測図(2) (S=1/2)

[頁岩]



311

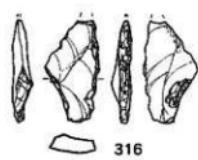
312

313

314

315

[流紋岩]

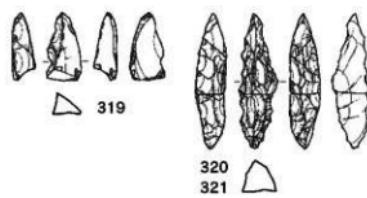


316

317

318

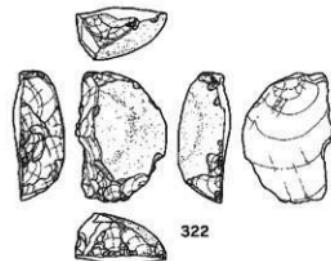
323



319

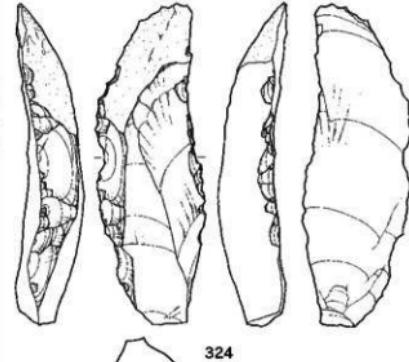
320

321



322

[ホルンフェルス]



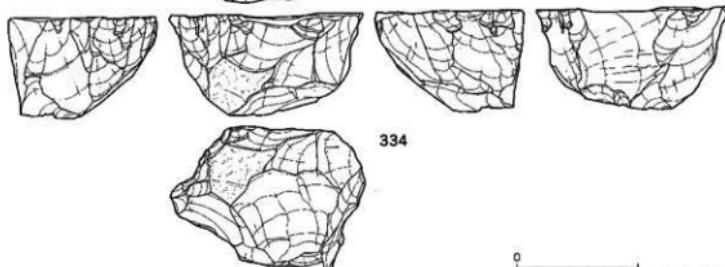
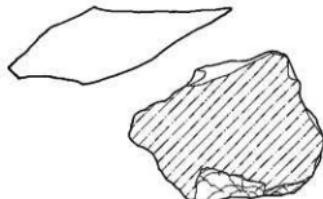
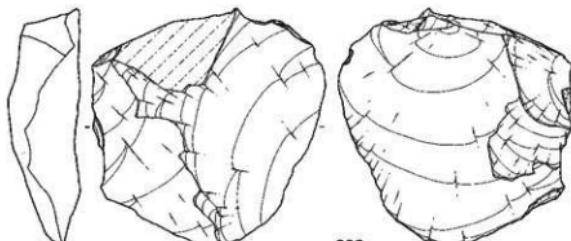
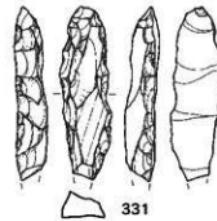
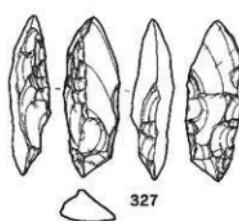
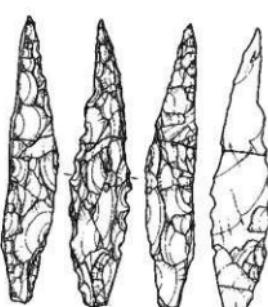
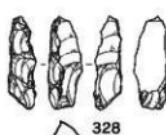
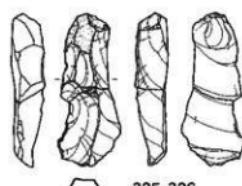
324

0

10cm

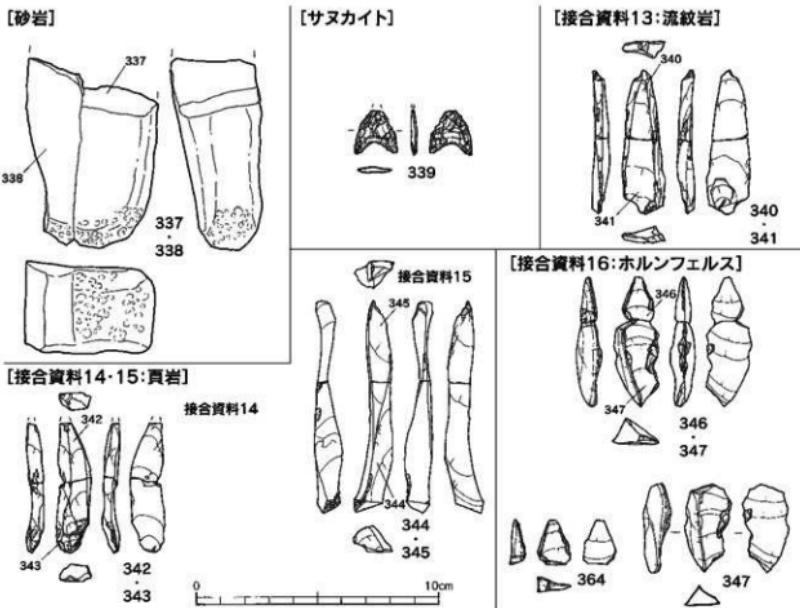
第63図 後期旧石器時代V期石材別石器実測図(3) (S = 1/2)

[ホルンフェルス]



0 10cm

第64図 後期旧石器時代V期石材別石器実測図(4) (S=1/2)



第65図 後期旧石器時代V期石材別石器実測図(5)(S=1/2)

【接合資料】

【接合資料13:流紋岩】(第65図)

340	339	C 41	Vb	ナイフ形石器	4	2.6	1.3	0.6	2.1	-98295.433	43113.549	91.166	箇字な反曲刃・剥片、大右側面に直線的な削痕、剥片刃面部に
341	74	C 41	Vb	ナイフ形石器	4	3.0	1.6	0.8	3.6	-98298.604	43412.877	91.763	かわらく・次加工を施すにダイヤモンド形とする。

【接合資料14:頁岩】(第65図)

342	2853	D 24	Vb	ナイフ形石器	4	2.4	1.1	0.7	2.9	-98303.397	43408.294	91.105	先端の斜長剥片を剥片とする。新月形刃部に二次加工を施すことで
343	2110	D 34	Va	ナイフ形石器	4	3.0	1.2	0.7	2.9	-98300.420	43408.358	91.305	ダイヤモンド形とする。先端部は欠損している。

【接合資料15:頁岩】(第65図)

344	1998	C 33	Vb	ナイフ形石器	4	3.4	1.2	1.3	6.3	-98297.389	43406.020	91.344	優美剝片。打削と先端部に微細な加工痕が認められる。
345	1998	C 33	Va	ナイフ形石器	4	3.3	0.9	1.0	6.3	-98298.931	43407.529	91.710	優美剝片。

【接合資料16:ホルンフェルス】(第65図)

346	1358	E 22	Vb	ナイフ形石器	1.8	1.3	0.6	1.1	-98311.499	43333.650	91.019	三角形を呈する剥片の左側縁、及び基底左側に調節凹が向える。
347	2942	E 22	Vb	ナイフ形石器	3.5	2.0	1.0	5.2	-98314.891	43333.374	90.860	背面に細密な刃部に直接的な削痕が認められる。

第32表 後期旧石器時代V期石材別石器観察表(3)

(3) 小結

後期旧石器時代V期では、38組78点が接合した。そのうち4組・8点を図化し、掲載した。

【接合資料13:流紋岩、接合資料14・15:頁岩】

接合資料13・14・15は、先細りの縦長剥片を作業面調整を入れつつ、連続して剥離したものである。いずれも折れ面同士の接合で、接合資料13・14はナイフ形石器である。

○接合資料

後期旧石器時代V期では、38組78点が接合した。そのうち4組・8点を図化し、掲載した。

【接合資料13:流紋岩、接合資料14・15:頁岩】

接合資料13・14・15は、先細りの縦長剥片を作業面調整を入れつつ、連続して剥離したものである。いずれも折れ面同士の接合で、接合資料13・14はナイフ形石器である。

【接合資料16:ホルンフェルス】(第65図)

接合資料16は、縦長剥片の折れ面が接合したものである。側面には二次加工が施され、346はナイフ形石器として使われたと思われる。

石材では、黒曜石・チャートのように石器ブロック周辺に遺物が集中するもの、頁岩・ホルンフェルス・流紋岩のように、ブロック内外に遺物が出土するものに分かれる。

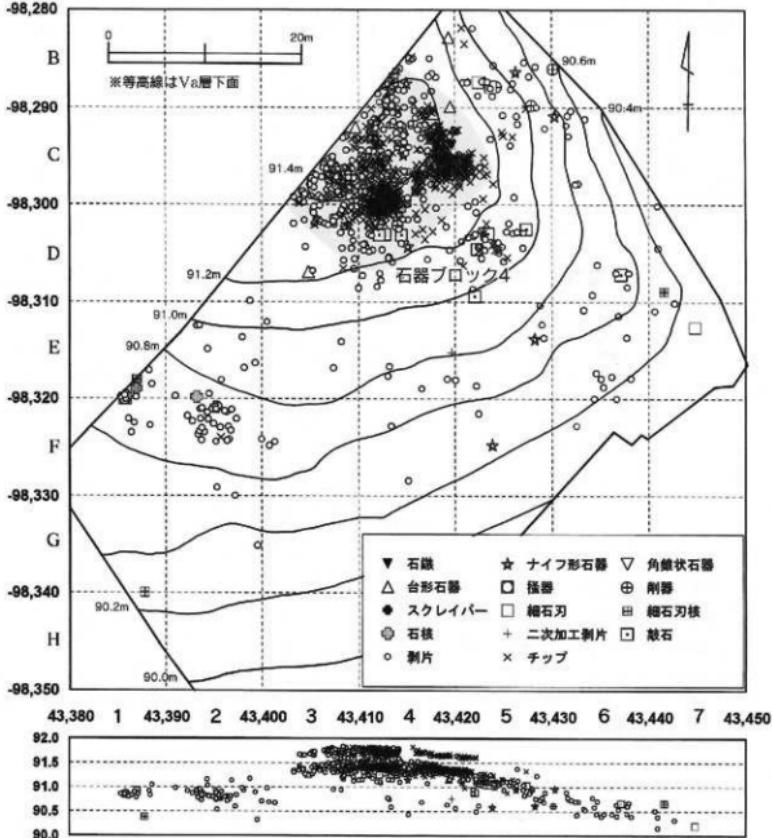
## 6 後期旧石器時代VI期

小林軽石(Kr-Kb)を含む暗褐色土層上部のVa層では、石器ブロック1箇所、遺物1,259点が出土し、後期旧石器時代VI期とした。調査対象面積は、調査区全面約3,000m<sup>2</sup>である。

### (1) 遺構

遺構は、調査区北西部のC4グリッド付近で石器ブロック5を確認した。IV・V期で検出した石器ブロックの上部にあたる。

礫は計141点出土したが、礫群といえるまとまりはない。-98,280



第66図 後期旧石器時代VI期器種別遺物分布図 (S = 1/500)

### (2) 遺物

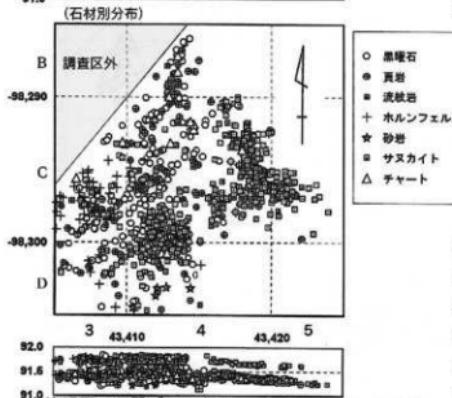
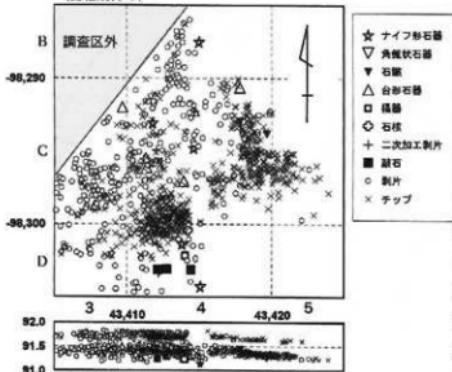
#### ○石器器種

後期旧石器時代VI期の遺物は計1,259点出土した。内訳は、ナイフ形石器9点・角錐状石器1点・台形石器10点・石核6点・撗器1点・刨器4点・スクレイパー1点・細石刃3点・細石刃核3点・石核5点・二次加工剥片3点・敲石8点である。このほか剥片549点・チップ644点が出土した。サムカイト製チップの出土数が特に多い(第33表)。石器の器種別出土状況を第66図に示す。

石材	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	チャート	砂岩	サヌカイト	尾鉛山 黒性岩類	不明	計
石器							6			6
ナイフ形石器	3	5	1							9
角錐状石器			1							1
台形石器		2		7	1					10
擂盤	1									1
削器	1	3								4
スクレイパー	1									1
細石刃	1			2						3
細石刃核				2	1					3
石鏃		4	1							5
二次加工剥片		1	2							3
台石								1		1
敲石						8				8
重石器(敲石)							11			11
剥片	29	111	155	191	12		51			549
チップ		15	1	87	3		536		2	644
計	34	138	163	292	17	19	593	1	2	1259

第33表 後期旧石器時代VI期石器・石材組成表

(器種別分布)



第67図 石器ブロック5  
石材・器種別遺物分布図 (3/1000)

## ○石材及び接合

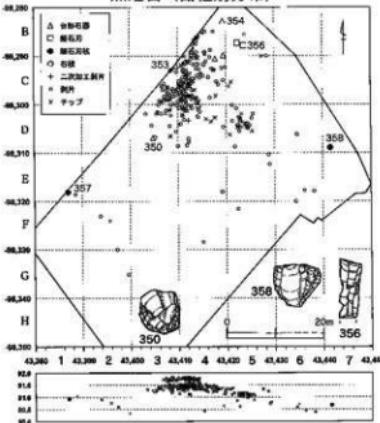
石材ごとの器種・出土位置と接合関係について概観する。各石器の詳細な観察データは第35表にまとめた。

### 黒曜石（第68図）

遺物は292点出土し、石器ブロック5から出土したもののが大半である。製品は台形石器7点・細石刃2点・細石刃核2点・石核1点・二次加工剥片2点で、剥片が191点・チップ87点である。

原産地別に見ると、日東産が最も多く158点、上

### 黒曜石（器種別分布）



### サヌカイト（第68図）

ほぼ全ての遺物が、石器ブロック5内からの出土といってよい。遺物総数は593点で、剥片49点・チップ536点の中に石核5点が含まれる。近くに出土した、石器ブロック内の3組6点が接合した。

### 頁岩（第69図）

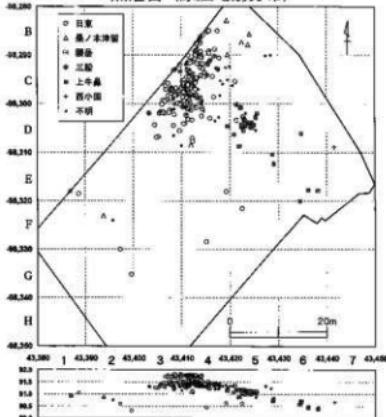
遺物は138点出土した。内訳はナイフ形石器5点、台形石器2点、削器3点、スクレイバー1点、細石刃1点、二次加工剥片1点、剥片111点、チップ15点である。ナイフ形石器は、中～小型で石器ブロック近辺からの出土である。石器ブロックから離れた東端で長さ3cmを超える細石刃が1点出土した。

接合関係では、石器ブロック内の接合例が多い。

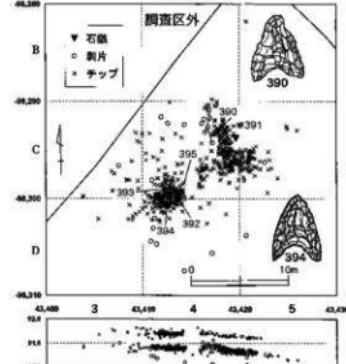
牛鼻産33点、三船産13点、桑ノ木津留産9点、西小国産4点、腰岳産1点となる。製品は、台形石器には日東産が積極的に使われており、細石刃・細石刃核には上牛鼻産が使われている。また、分布域みると、上牛鼻産が石器ブロックの南東側に集中し、桑ノ木津留産は調査区北端に多い。日東産黒曜石はサヌカイトと並んで、石器ブロック5の西側遺物の中核をなす。

接合関係については、小剥片が多いため確認できなかった。

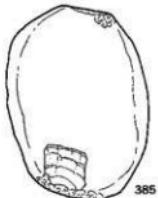
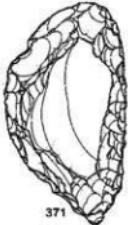
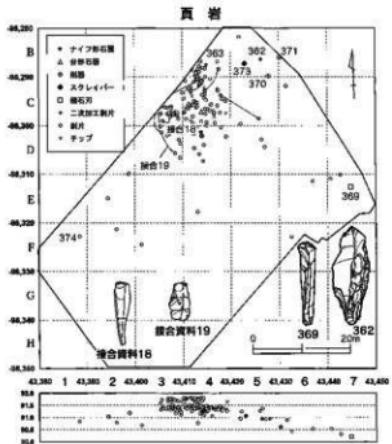
### 黒曜石（原産地別分布）



### サヌカイト



第68図 後期旧石器時代VI期石材別遺物分布図(1)  
(黒曜石S=1/1,000、サヌカイトS=1/1,500)



The figure is a geological map of the Holznefelle area. The vertical axis on the left shows elevations from B to H in meters (m), with horizontal grid lines every 100m. The horizontal axis at the bottom shows distances from 1 to 7 km. A legend on the left identifies symbols: a triangle for 'ナメル系地層' (Nameru系chisho), a square for '内底面石炭' (Nai-domei sekitan), a circle for '二疊系地層' (Ni-tyaku系chisho), a diamond for '石灰岩' (Kireisan), a dot for '鉄片' (Tetsupin), and an 'X' for 'チャップ' (Chappu). A large irregular boundary line separates different geological units. Several numbered localities are marked: 381, 328, 20, 21, and 22. Three detailed views of rock fragments are shown in the lower right: '複合資料20' (Fukukōshiryō 20) and '複合資料21' (Fukukōshiryō 21) each containing multiple small rock fragments, and '複合資料22' (Fukukōshiryō 22) showing a single large, irregularly shaped rock fragment.

### ホルンフェルス（第69図）

出土総数は163点である。器種はナイフ形石器1点、角錐状石器1点、石核4点、二次加工剥片1点である。石器ブロック5の西側に集中域があり、これとは別に調査区南西部にも石核を含む剥片のまとまった出土域が確認できる。

接合関係では、距離の離れた遺物同士の接合が数組みられ、最大45m離れた遺物が接合した。

### 流紋岩（第69図）

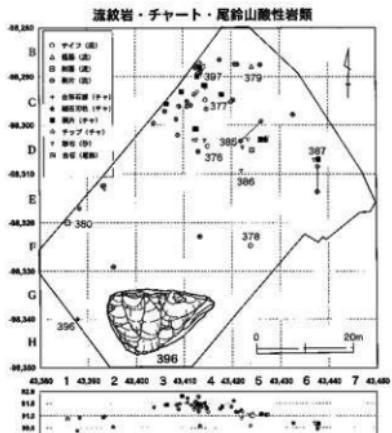
遺物は34点出土し、ナイフ形石器3点・様器1点・削器1点・剥片29点である。ナイフ形石器は石器ブロック付近から、1点は調査区南東に単独で出土している。近くで出土した遺物同士の接合がほとんどである。

### 砂岩（第69図）

遺物は19点出土した。内訳は敲石8点で、虫石器11点も出土した。出土位置は、南東に下る傾斜に沿うように出土している。接合は確認できなかった。

### モード一ト (第69図)

遺物は台形右器・細石刃核各1点を含む17点である。北部を中心に出土するが、特に集中域はみられない。細石刃核1点のみ調査区南西端で出土したが、周囲に細石刃・剥片・チップ等の遺物は確認できず、製品単独の持ち込みと考えられる。接合関係は確認できなかつた。



第69図 後期旧石器時代VI期  
石材別遺物分布図(2) ( $S = 1/1,000$ )

番号	時代 年分	アーチ	器種	石器	石器 ブロック	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	西土器 K器	西土器 K器	レバーパー ル	備考
<b>[石器石] 第70回</b>													
546	1178	C44	Va	台形石器	6	1.7	1.5	0.7	1.9	-98290.618	43417.809	91.18	出来物地名。左も西側に位置する。地盤はあれ。
349	1242	B43	Va	台形石器		2.4	1.6	0.7	2.2	-98299.855	43419.495	91.285	出来物地名。右側面と有効側に並んで底部から側面まで、裏面は斜面に位置する。
350	1415	D31	Va	台形石器	1.7	1.6	0.7	1.8	98306.919	43404.820	91.258	出来物地名。右側面から下部に左斜面にかけて、裏面が斜面となる。	
361	1566	C41	Va	台形石器	5	1.8	1.3	0.7	1.2	-98296.137	43411.860	91.053	出来物地名。右側面から下部に左斜面にかけて、裏面が斜面となる。
362	1992	C35	Va	台形石器	5	1.8	1.2	0.6	1.0	-98298.708	43407.803	91.717	出来物地名。左側面は80mmを有しておらず、手元に通じて側面が斜面となる。
353	1748	C41	Va	台形石器	5	1.5	1.4	0.7	1.0	-98291.985	43409.694	91.199	出来物地名。裏面の斜面は、右側面に集中する。
364	1391	B44	Va	台形石器	2.3	1.6	1.2	3.2	-98282.652	43119.383	91.156	出来物地名。右側面は、斜面と平らな斜面、トマリの斜面との間に斜面が存在する。	
355	970	B51	Va	斜刀	1.4	0.7	0.3	0.4	-98287.383	43423.413	91.095	左側面が斜面で、右側面が直角面で裏面は斜面。上下両端とも削れてい。	
359	974	B51	Va	斜刀刃	2.4	0.9	0.5	0.7	-98287.856	43423.711	91.131	左側面が斜面で、右側面は直角面で裏面は斜面。上下両端とも削れてい。	
327	1363	H15	Va	無刃石斧	2.1	1.6	1.2	3.6	-98118.049	43286.590	90.917	左側面が斜面で、右側面は直角面で裏面は斜面。上下両端とも削れてい。	
358	630	D71	Va	梯形石器	2.9	1.8	1.2	4.0	-98308.933	43441.401	90.859	左側面が斜面で、右側面は平らな斜面、トマリの斜面との間に斜面が存在する。	
369	1881	I42	Va	石器	5	3.1	2.7	1.6	7.3	-98000.637	43412.156	91.379	左側面が斜面で、右側面は直角面で裏面は斜面。上下両端とも削れてい。
360	1574	C41	Va	二次加工片	5	3.4	1.5	1.2	4.9	-98294.837	43412.056	91.432	左側面が斜面で、右側面は直角面で裏面は斜面。裏面には入力跡がある。
361	1774	I42	Va	二次加工片	5	1.8	1.1	0.6	0.8	-98303.320	43412.208	91.595	左側面が斜面で、右側面に複数の凹凸の凹部が残る。裏面には擦れ跡がある。
<b>[石器石] 第71回</b>													
362	969	B53	Va	ナイフ形石器	3.9	1.5	1.0	4.1	-98266.302	43428.306	90.947	斜面真っ直ぐ、右側面に刃状のための刃切跡を有す。基部は工具もしくは研削している。	
363	1317	B41	Va	ナイフ形石器	5	2.6	1.4	0.6	1.8	-98247.494	43434.994	91.305	中央部が斜面で、右側面は直角面で裏面は斜面。右側面に斜面が存在する。
364	1312	E54	Va	ナイフ形石器	3.5	1.9	1.1	0.9	-98133.787	43436.270	90.808	斜面真っ直ぐ、右側面に刃状のための刃切跡を有す。基部は工具もしくは研削している。	
365	1836	D12	Va	ナイフ形石器	5	2.8	1.3	0.8	1.0	-98301.375	43413.649	91.255	斜面真っ直ぐを特徴とする。基部は刃切跡を有す。右側面は削れてい。
366	1712	C42	Va	ナイフ形石器	8	2.5	1.3	0.6	1.7	-98293.857	43411.800	91.473	小頭部は斜面を有す。斜面は刃状のための刃切跡がぶ起る。
367	1567	C41	Va	台形石器	5	1.7	1.4	0.6	0.9	-98205.809	43411.126	91.445	斜面真っ直ぐ。斜面から正面まで斜面からの距離度が入る。右側面は削れてい。
368	1811	C41	Va	台形石器	5	1.7	1.3	0.6	0.9	-98297.989	43413.941	91.398	斜面真っ直ぐ。斜面から正面まで斜面からの距離度が入る。右側面は削れてい。
369	8168	B72	Va	鋸刃刀	3.3	0.7	0.5	0.6	-98012.654	43444.812	90.204	上下両端が斜面で、右側面は直角面で裏面は斜面。刃先は削れてい。	
370	984	B53	Va	削面	7.0	5.3	1.5	5.7	-98299.787	43427.903	90.880	右側面を削り抜く。刃先は削り落す。右側面は削れてい。	
371	985	B61	Va	削面	9.0	5.6	2.1	8.1	-98296.056	43430.151	90.812	削面が直角面で、右側面は直角面で裏面は斜面。刃先は削り落す。裏面は削れ痕が確認できる。	
372	1522	D42	Va	削面	6	4.7	3.7	1.3	27.5	-98062.152	43414.003	91.311	右側面は削面で、右側面は直角面で裏面は斜面。刃先は削り落す。
373	2121	B51	Va	スクリュー	5.0	3.9	1.2	24.6	-98287.293	43422.959	91.064	右側面に複数の凹凸を有す。刃先は削り落す。	
374	2182	P14	Va	削面	9.0	2.9	1.2	-	-98322.754	43383.422	90.831	削面真っ直ぐ。削面側面を削いて、刃面にわずかに加工が入る。	
375	1377	D33	Va	削面	3.6	1.4	1.1	5.1	-98306.587	43409.461	91.124	削面真っ直ぐ。刃先に削面加工が施されている。	
<b>[石器石] 第72回</b>													
376	499	D42	Va	ナイフ形石器	5	4.9	1.6	0.8	5.0	-98304.259	43415.107	91.149	右側面に削面があり削面から入る。基部は丸く削れてい。
377	888	C42	Va	ナイフ形石器	5	1.3	1.4	0.6	1.5	-98244.812	43414.617	91.208	右側面に複数の凹凸を有す。刃先は削り落す。
378	2131	F52	Va	ナイフ形石器	5.4	3.2	1.1	13.4	-98324.395	43423.093	90.578	右側面に複数の凹凸を有す。刃先は削り落す。	
379	976	B51	Va	削面	8.3	3.5	1.6	29.4	-98287.854	43421.266	91.085	斜面と削面との不定形の削面。削面側面に削面から削られた跡がある。	
380	676	E13	Va	削面	11.4	5.6	4.9	29.7	-98320.649	43385.803	90.845	右側面の削面及び削面側面の削面は削る。刃先は削り落す。	
<b>[石器石] 第73回</b>													
381	611	C62	Va	ナイフ形石器	5	1.0	1.1	0.6	-98290.840	43430.285	90.988	斜面真っ直ぐ。右側面に刃状のための刃切跡がある。右側面にも削面が加工された跡がある。	
382	1797	D42	Va	角形状石器	5	6.7	3.2	1.7	24.5	-98300.321	43411.870	91.464	右側面に削面があり削面から入る。刃先は削り落す。
<b>[石器石] 第74回</b>													
383	469	D42	Va	鉈	5	10.0	3.5	2.8	21.6	88303.133	43414.437	91.299	右側面に削面があり削面から入る。右側面に刃切跡がある。
384	1310	D61	Va	鉈	7.0	4.0	2.7	16.0	-98242.994	43422.465	91.644	右側面の削面使用。上面に削面、右側面は削面、右側面は削面である。	
385	1344	D51	Va	鉈	8.0	5.5	3.5	131.1	-98304.814	43422.302	91.130	裏面の削面を削る。裏面に削面がある。	
386	1316	D63	Va	鉈	7.1	5.0	3.6	161.5	-98299.659	43422.094	90.984	右側面の削面を削る。上面に削面、下面の削面を削る。	
387	1316	D63	Va	鉈	13.0	8.1	3.3	117.9	-98307.213	43437.154	90.685	裏面の削面を削る。上面に削面を削る。	
388	1480	D42	Va	鉈	11.6	4.4	2.4	172.3	-98303.140	43412.132	91.333	右側面を削る。人型の削面がある。トマリの斜面が削り落としてある。	
389	1481	D42	Va	鉈	2	8.0	3.5	2.5	67.3	-98303.079	43412.760	91.258	削り落としてある。
<b>[石器石] 第75回</b>													
390	1184	C44	Va	石器	5	2.6	2.1	0.5	1.7	-98292.974	43417.812	91.433	右側面に削面があり削面をしている。削面はやや傾斜的である。上面は欠けている。

第34表 後期旧石器時代VI期石材別器観察表(1)

番号	出因 地名	アソシ	層	器種	玉縄 ブリッジ	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	出土施設 X座標	出土施設 Y座標	レベル (m)	備考
391	1251	C44	Va	石核	5	1.6	1.9	0.4	1.2	-98293.795	43419.657	91.28	二等辺一角形状を有する上部及び側面が欠損したもの。 内側に凹入部がある。
392	1812	C33	Va	石核	5	2.6	1.6	0.4	1.1	-98300.009	43412.286	91.39	二等辺二角形状を有する上部及び側面が欠損しておらず、内側の脊部などはわからぬ、表面に磨削面有り。
393	1669	C41	Va	石核	5	1.6	1.2	0.4	0.6	-98299.734	43411.481	91.42	二等辺一角形状を有する小型の石核。下部に側面の抉りが入る。
394	1762	D42	Va	石核	5	2.7	2.0	0.5	1.6	-98300.227	43411.545	91.49	二等辺二角形状を有する大型の石核。下部に大きな抉りが入る。
395	1819	C41	Va	石核	5	1.3	1.2	0.3	0.6	-98299.580	43412.985	91.68	二等辺二角形状を有する大型の石核。下部が削り取られていたため、全体の形は不明である。
〔データー〔第73回〕〕													
396	2187	G13	Va	細石刃核	4.5	2.1	2.8	23.5	98339.971	43387.799	90.38	上部に打穿孔形跡、迷路状跡有り。側面に平行斜面有り。周面に平行斜面有り。	
397	505	C42	Va	合形石器	6	2.1	1.6	0.5	1.6	98292.233	43414.617	91.33	A:右側斜面に複雑な刃差し溝が入る。刃部は使用痕が數箇である。

第35表 後期旧石器時代VI期石材別石器観察表(2)

[黒曜石]

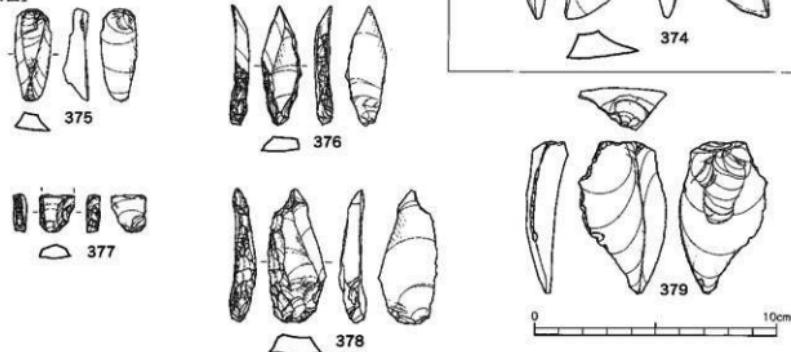


第70図 後期旧石器時代VI期石材別石器実測図(1) (S = 1/2)

[頁岩]

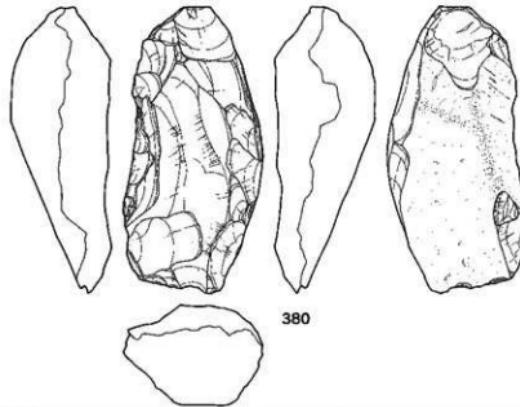


[流紋岩]

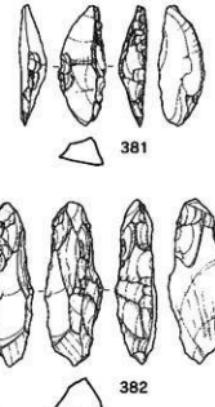


第71図 後期旧石器時代VI期石材別石器実測図(2) (S = 1/2)

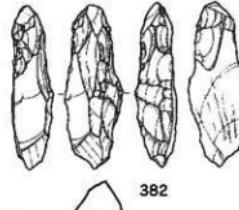
[流紋岩]



[ホルンフェルス]

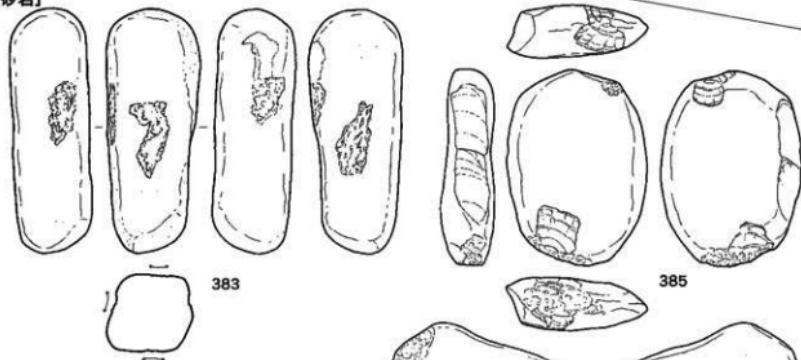


381



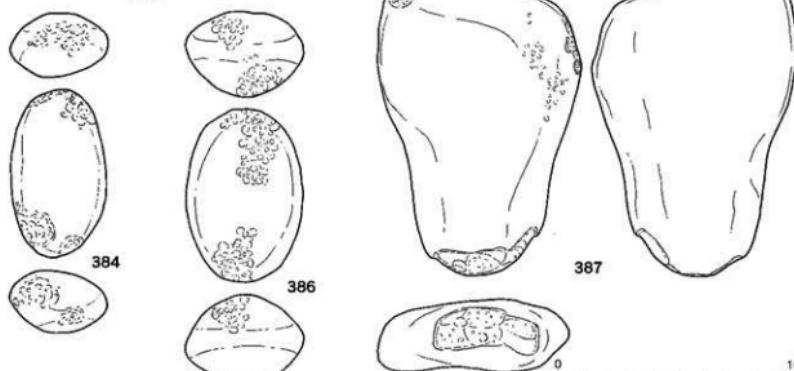
382

[砂岩]



383

385



384

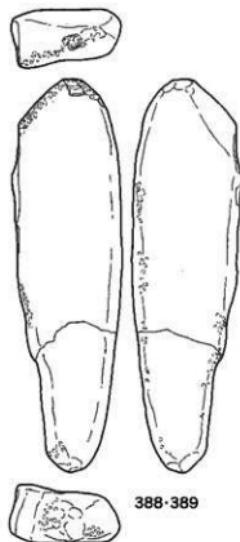
386

387

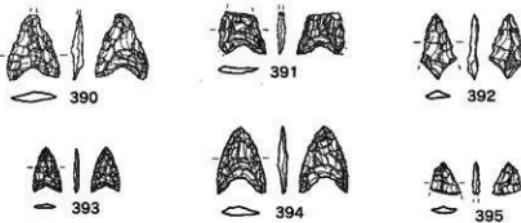
10cm

第72図 後期旧石器時代VI期石材別石器実測図(3) (S = 1/2)

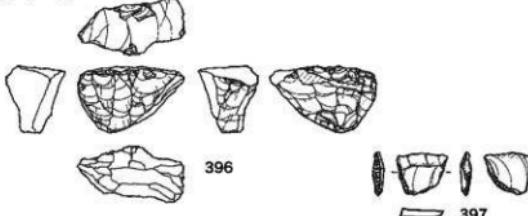
## [砂岩]



## [サヌカイト]



## [チャート]



0 10cm

第73図 後期旧石器時代VI期石材別石器実測図(4) (S=1/2)

番号	形名	アンド	W	厚さ	バット	長名	幅	厚さ	重さ	出土地名	出土層	出土地質	レーベル	備考
【後合資料17: 灰岩】[第74図]														
396 439 C42 Va 刃片 8 1.6 9.9 0.6 0.9 -90292.974 43114.726 91.416 鋸齿状刃下部、背側及び腹面方に複数の凹窓あり。														
397 766 D43 IV 刃片 2.5 0.9 0.7 1.6 -90326.357 43117.691 91.450 褐鐵鉄河川上部。刃部は欠けていてる。														
【後合資料18: 灰岩】[第74図]														
400 1425 C33 Va 刃片 8 3.1 1.3 0.6 3.9 -90295.968 43106.918 91.374 刃部に複数の凹窓があり。														
401 1412 C33 Vn 刃片 5 2.2 0.9 0.6 1.7 -90296.171 43107.428 91.402 刃部にハサビ形の凹窓がある。右側面に複数の凹窓がある。														
【後合資料19: 灰岩】[第74図]														
402 2558 D33 Vb 刃片 1.1 1.3 0.7 0.9 -90296.279 43106.441 91.346 後合資料19の刃部にある。刃部に複数の凹窓がある。														
403 1380 D53 Vn 刃片 1.6 1.0 0.5 1.1 -90303.759 43106.637 91.188 右側面に複数の凹窓がある。														
404 1405 D34 Va 刃片 5 0.8 1.4 0.5 0.7 -90301.140 43105.543 91.384 右側面に複数の凹窓がある。人差し指のひらで握ると丸くなる。														
【後合資料20: ホルンブリッカ】[第75図]														
405 881 E21 Va 破片 8.0 6.0 3.2 254.7 -90313.846 43395.227 90.879 上下両面に複数の凹窓があり。表面の凹窓を除く全ての刃部が削り出される。														
406 2171 F24 Va 刃片 3.4 3.3 1.4 14.8 -90322.590 43394.975 90.791 上部に複数の凹窓があり。刃部に小さな加工がある。														
407 2174 F22 Vn 刃片 2.3 1.7 0.5 1.7 -90322.117 43395.660 90.865 不規則削り。上部と下部に複数の凹窓がある。														
408 8 F22 III 刃片 3.1 3.3 0.7 5.6 -90321.424 43394.343 91.146 不規則削り。上部に舟形の凹窓。														
409 436 F24 III 刃片 2.5 4.0 1.4 17.0 -90319.147 43396.921 91.126 上部より下部に向かって刃形が変化する。刃部に複数の凹窓がある。														
410 943 E21 IV 刃片 3.5 2.9 1.5 13.1 -90319.573 43394.571 90.802 不規則削り。上部と下部に複数の凹窓がある。														
【後合資料21: ホルンブリッカ】[第75図]														
411 2969 F24 Vb 破片 9.3 6.1 3.4 231.6 -90323.962 43395.244 90.760 上部に複数の凹窓がある。刃部に複数の凹窓がある。														
412 2173 F22 Va 刃片 3.1 3.2 1.6 17.0 -90321.015 43395.816 90.829 不規則削り。刃部に複数の凹窓がある。														
413 883 F22 Va 刃片 3.1 1.5 0.3 0.9 -90321.115 43395.812 90.946 不規則削り。刃部と下部に複数の凹窓がある。														

第36表 後期旧石器時代VI期石材別石器観察表(3)

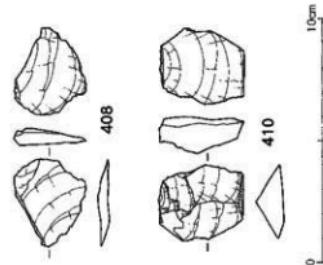
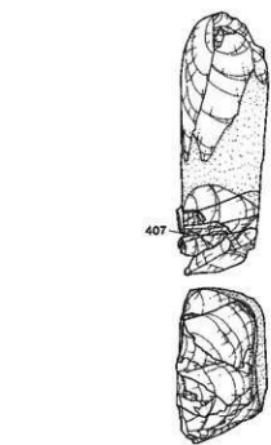
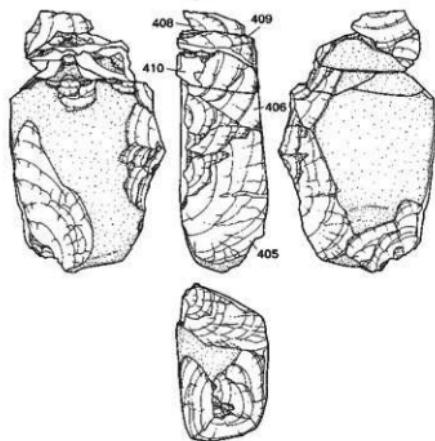
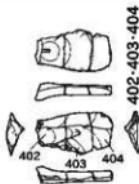
[接合資料17:頁岩]



[接合資料18:頁岩]

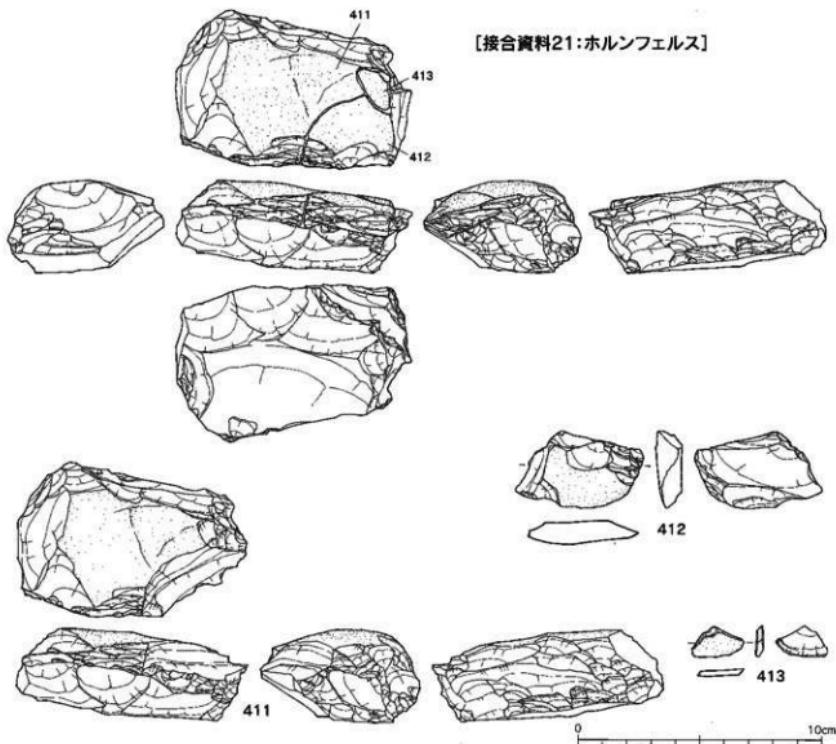


[接合資料19:頁岩]



第74図 後期旧石器時代VI期石材別石器実測図 (5) (S = 1/2)

10cm



第75図 後期旧石器時代VI期石材別石器実測図(6) (S=1/2)

○接合資料

後期旧石器時代VI期では、23組55点の遺物が接合した。そのうち5組・17点を図化し掲載した。

【接合資料17・18:頁岩】【第74図】

接合資料17・18は、先細りの縦長剥片を作業面調整を入れつつ、連続して剥離したものである。

【接合資料19:頁岩】【第74図】

縦長に剥離された剥片が3分割され、それらが折れ面で接合した。打面調整が少し入る。

【接合資料20:ホルンフェルス】【第74図】

接合資料20は、礫面を大きく残す石核(398)と剥片5点が接合している。401→402→399→403→400の順に不定形剥片を連続して剥離している。剥片には、一部礫面も残る。

【接合資料21:ホルンフェルス】【第75図】

接合資料21は、石核と剥片2点が接合した。石核

の礫面を除去する作業として406→405の順に剥いでいる。いずれも背面に礫面を残している。

(3) 小結

後期旧石器時代VI期では、石器ブロック1箇所と遺物1,259点が出土した。器種は豊富で、大きさは中型～小型の右器が主流になる。

遺物の垂直分布をみると、遺物の集中域が2層に分かれていることから、さらに2時期に分けられる可能性もある。

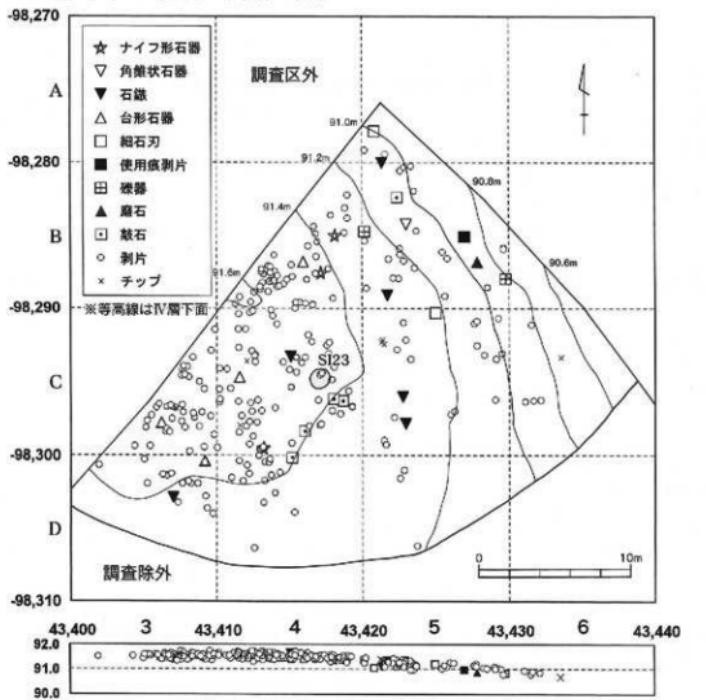
石材では、サヌカイト製石器の大量出土があげられる。チップが多量に出土しており、石鐵はこの場で製作されたと考えられる。黒曜石は、複数の原産地が確認できたが、日東産と桑ノ木津留産が積極的に製品に利用されていた。

## 7 縄文時代草創期

Kr-Kbを含む暗褐色土上層のIV層（ML1）では、25%調査の結果、遺構・遺物が確認された北部を中心に調査した。この文化層を縄文時代草創期とする。草創期に相当する上器は出土していないが、IV層は包含層の厚さが25cm～30cmあり、調査区北部では遺物の出土が活発である。また、上層のIII層（MB0）遺物の多くがアカホヤ（K-Ah）直下から出土しており、IV層遺物とは明らかに出土レベルに差があることから、時期差があると判断した。調査対象面積は、調査区北部約500m<sup>2</sup>である。

### (1) 遺構

遺構は、調査区北部のC43～C41グリッド付近で集石遺構1基（S123）を確認した。標高は91.7mで、礫のレベル差の少ない比較的平坦な場所である。



第77図 縄文時代草創期器種別遺物分布・遺構分布図（3/1000）

長径1m、短径0.8mで礫総数32点である。掘り込みや鉢石はみられない（第76図）。石材はホルンフェルス19点・尾鈴山酸性岩類11点・砂岩2点である。尾鈴山酸性岩類の構成割合が高いのが特徴である。全ての礫が赤化し、大部分が破碎礫である。出土位置を遺物の器種別分布とともに第77図に示す。



第76図 集石遺構実測図（S=1/40）

(2) 遺物

○石器器種

縄文時代草創期の遺物は計299点出土した。内訳は、石鏃6点・ナイフ形石器3点・角錐状石器1点・台形石器4点・細石刃2点・石核2点・使用痕剥片2点・礫器2点・磨石1点・敲石5点である。このほか剥片251点・チップ13点が出土した。石器の石材別組成を第37表に示す。

○遺物分布

遺物は特に集中区はみられないが、東部斜面より丘陵頂上部付近の平坦面にあたる西部により多くの遺物が出土している。

○石材及び接合

石材ごとの器種・出土位置と接合関係について述べる。各石器ごとの詳細な観察データは第38表にまとめた。

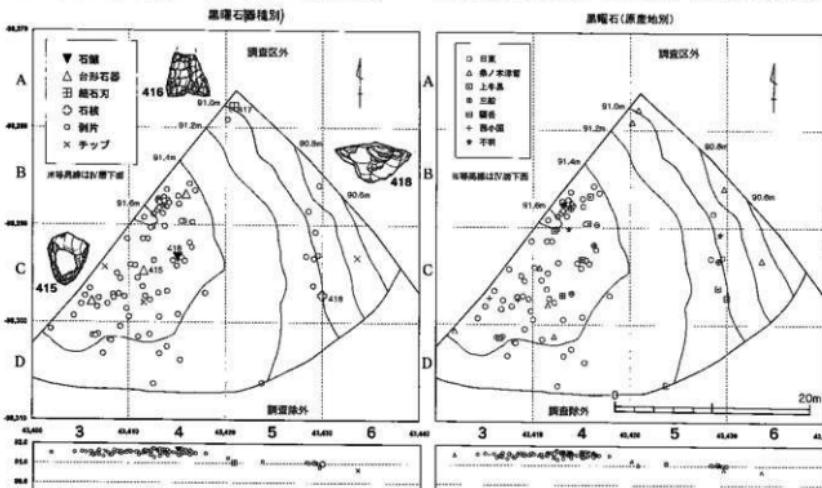
石材 器種	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	チャート	砂岩	サヌカイト	不明	計
石鏃				1	3		2		6
ナイフ形石器	1	2							3
角錐状石器	1								1
台形石器		1		2	1				4
細石刃		1		1					2
石核				1	1				2
使用痕剥片		1	1						2
磨石					1				1
礫器				2					2
敲石						5			5
亜石器(敲石)						7			7
剥片	12	41	51	89	14		41	3	251
チップ		1		7	4		1		13
計	14	47	55	101	23	12	44	3	299

第37表 縄文時代草創期石器・石材組成表

黒曜石 (第78図)

遺物は101点出土し、西側緩斜面に多く東側斜面に少ない。内訳は石鏃1点・台形石器2点・細石刃1点・石核1点・剥片が89点・チップ7点である。

原産地別に見ると、日東産が最も多く66点、桑ノ木津留産10点、上牛鼻産7点、三船産6点、西小国産2点、腰岳産3点となる。製品は石鏃には腰岳産、台形石器には日東産・上牛鼻産、細石刃には上牛鼻



第78図 縄文時代創草期黒曜石、器種・原産地別遺物分布図 (S = 1/500)

座が使われている。接合関係については、確認できなかった。

#### 頁岩 (第79図)

遺物は47点出土した。内訳はナイフ形石器2点、台形石器1点、細石刃1点、剥片41点、チップ1点である。遺物は、西側緩斜面からの出土が中心である。接合関係は確認できなかった。

#### 流紋岩 (第79図)

遺物は14点出土し、ナイフ形石器1点・角錐状石器1点のほかはすべて剥片(12点)である。接合関係は確認できない。

#### ホルンフェルス (第79図)

出土総数は55点である。内訳は、使用痕剥片1点・石核1点・礫器2点である。他の石材と違い、東側斜面からも礫器・二次加工剥片・剥片等が出土している。2組5点が接合した。

#### サヌカイト (第79図)

遺物は44点出土し、石鎌2点のほかは剥片41点、チップ1点である。遺物はほとんどが西側緩斜面からの出土である。剥片2組7点が接合した。

#### 砂岩 (第79図)

遺物は12点出土した。5点は鼓石で、残りは石器7点である。亜石器は、集石遺構の南側からまと

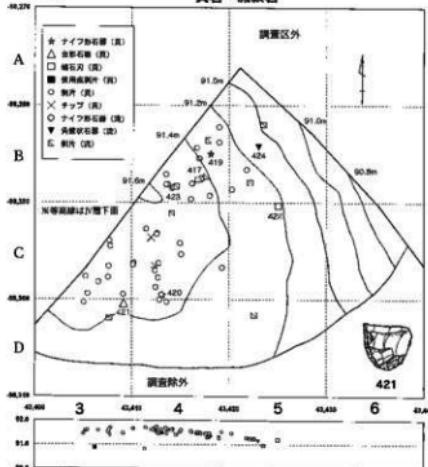
#### ホルンフェルス

まって出土した。東側斜面には砂岩製石器は出土していない。接合関係は確認できなかった。

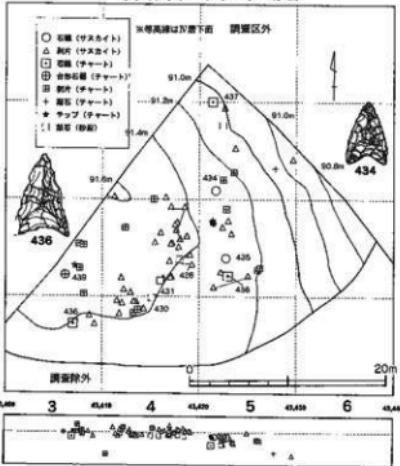
#### チャート (第79図)

遺物は石鎌3点を含む剥片14点・チップ4点である。石鎌は北西壁近くに多い剥片・チップから少し離れて単独で出土する。接合関係は確認できなかった。

#### 頁岩・流紋岩



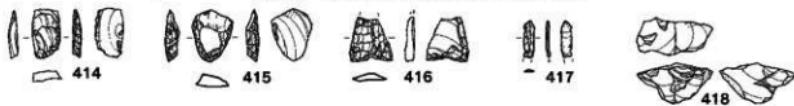
#### サヌカイト・チャート・砂岩



第79図 繁文時代草創期石材別遺物分布・接合状況図 (S = 1/500)

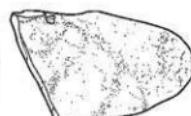
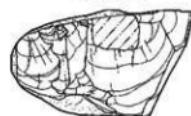
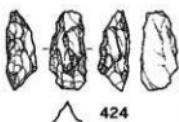
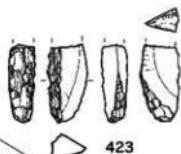
番号	性質 分類	グレード	層	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国士原磨 X座標	国士原磨 Y座標	レベル (m)	備考
【玉器】[第30回]												
414	905	C42	IV	舟形石器	1.9	1.1	0.6	1.0	98294.692	43411.546	91.596	口部尖、右側縁に磨痕から他の調査例が施され、一方の左側縁は多様な打痕が施されていることにより、両側面をなし。
415	758	B43	IV	舟形石器	2.0	1.6	0.7	1.9	-98286.923	43415.935	91.595	口部尖、左側縁に磨痕から他の調査例が施され、右側縁に磨痕から他の調査例が施される。
416	882	C44	IV	石器	1.9	1.7	0.5	1.2	-98293.296	43415.082	91.673	舟形石器、二等辺一角削をもつていて左上端は欠損している。表面に磨痕がある。
417	679	A51	IV	舟形石器	1.5	0.4	0.2	0.1	-98277.867	43420.856	91.632	舟形石器、表面に磨痕がある。
418	714	C63	IV	石核	3.0	1.4	1.8	6.2	-98297.218	43429.983	90.992	舟形石器をもつていて、右側縁に磨痕がある。
【岩器】[第30回]												
419	748	B43	IV	ナイフ	3.8	1.1	1.2	3.1	-98284.998	43418.129	91.339	舟形舟器、表面に磨痕から他の調査例が施される。刃部が尖る。
420	908	C41	IV	ナイフ	2.3	1.3	0.8	1.3	-98299.511	43413.199	91.583	舟形舟器をもつていて左側縁下端に磨痕から他の調査例が施される。
421	924	D34	IV	舟形石器	2.0	1.7	0.8	1.9	-98300.398	43409.181	91.485	舟形舟器をもつていて左側縁から下部にかけて磨痕からの調整が施される。右側縁は欠損され、そこに調整を入れる。
422	739	C54	IV	細石刀	0.9	0.7	0.3	0.1	-98290.349	43425.049	91.302	小型の舟形刃。
【鉱銅器】[第31回]												
423	765	B43	IV	ナイフ	3.1	1.5	1.2	5.8	-98287.539	43117.155	91.456	舟形舟器、表面には直線的対向磨痕が入る。基部が丸く削られている。上端は欠損している。
424	689	H52	IV	角擦伏石器	3.2	1.4	1.2	5.1	-98284.251	43423.028	91.146	内側面に背面基部からのやや長い刃部がある。刃部上端で凹む。
【ホルンブレス】[第31回]												
425	960	B54	IV	使用剥片片	6.1	3.1	1.5	23.9	-98285.101	43426.986	90.957	△角擦伏を施した剥片の左刃が右側縁下端に渡し刃部が削離できる。
426	1773	B41	IV	石核	7.5	7.5	4.8	284.7				正面前と右側縁に脱片の剥離を伴う。それ以外の面には磨痕が多く残す。
427	703	H53	IV	礫器	8.2	8.3	3.7	285.6	-98287.953	43429.800	90.817	正面前下端に複数のV字型の刃部が作られていて、左端は使用刃とが離離せき。
428	743	N52	IV	礫器	8.6	9.3	3.4	338.2	-98281.758	43420.154	91.382	刃部形状をもつた本材料の刃部が正面から右側縁を削離する。刃部上端で凹む。
【砂利】[第32回]												
429	687	B52	IV	敲石	15.6	5.2	3.5	376.9	-98282.400	43422.416	91.124	砂利表面は、W字・裏面・左側縁上部及び下部に斜打刃が確認できる。
430	949	T44	IV	敲石	13.5	5.3	4.5	386.2	-98300.150	43415.168	91.294	砂利の刃を裏面とし、上面に長い削離痕がある。下部にも長い斜打刃と左側縁に脱片の剥離が確認できる。
431	961	C43	IV	敲石	13.2	3.7	3.0	389.1	-98299.369	43416.026	91.396	砂利表面使用。ドリル頭部打ちあり、左側縁上部は欠損している。
432	963	C43	IV	敲石	17.6	6.7	8.3	671.8	-98296.296	43418.656	91.375	砂利の刃や大きめの歯を使用するが、上面より下部にかけて刃部が削離される。下部に複数のV字型の刃部がある。
433	966	C43	IV	敲石	17.6	4.9	5.0	629.5	-98296.163	43418.011	91.409	砂利表面使用。刃部上端で斜打刃と斜打刃で伸びる砂利が認められる。剝離の痕跡が全体的に広がる。
【サヌカ】[第33回]												
434	941	H51	IV	石核	2.6	1.7	0.5	1.2	-98299.105	43421.782	91.360	一等辺・舟形刃を呈する。下面に長い斜打刃がある。
435	726	C51	IV	石核	2.5	1.8	0.3	1.1	-98296.043	43422.780	91.204	二等辺・舟形刃を呈するが、右側縁は欠損している。下面に長い斜打刃がある。
【チャーブ】[第33回]												
436	842	D34	IV	石核	3.3	2.1	0.8	3.2	-98302.960	43407.026	91.375	一等辺・舟形刃を呈する。砂利は薄く、左側縁先端は欠損している。
437	682	B52	IV	石核	2.6	1.3	0.3	0.7	-98280.022	43421.373	91.181	一等辺・舟形刃を呈するが、側面から外側面を削離する。右側縁は欠損部分がある。背面側に右側縁上部部分が残る。
438	723	C51	IV	石核	1.2	1.7	0.3	0.6	-98297.857	43422.964	91.352	刃部は欠損して砂利全面の研磨が不明である。やや表面の抜けがある。
439	833	C33	IV	舟形石器	0.9	1.4	0.5	0.9	-98297.806	43406.206	91.305	右側縁に腹面からの加工がある。刃部に後退痕が検出される。

第38表 紹文時代草創期石材別石器観察表

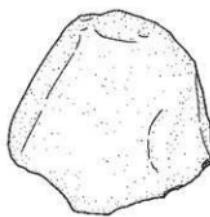
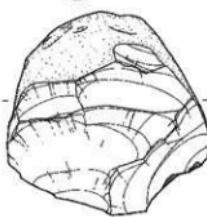


第80図 紹文時代草創期石材別石器実測図(1) (S=1/2)

【流紋岩】

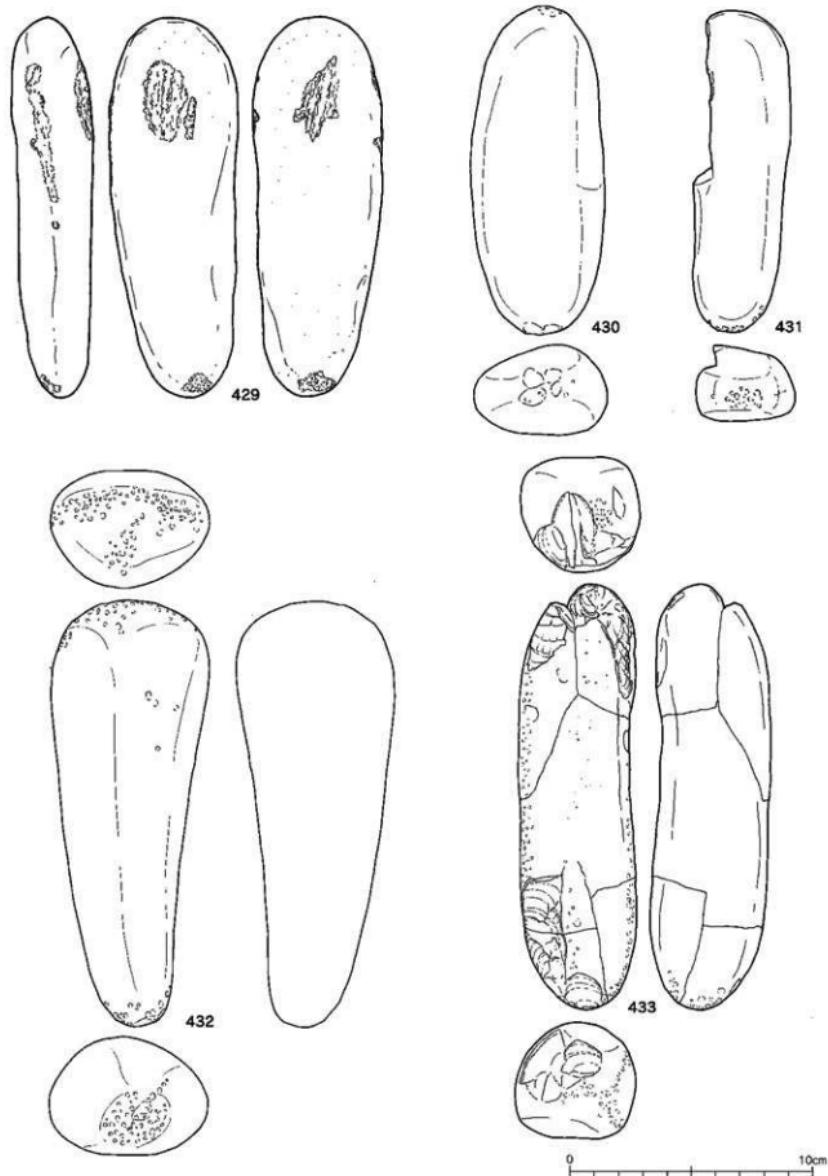


【ホルンフェルス】



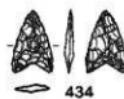
第81図 縄文時代草創期石材別石器実測図(2) (S=1/2)

[砂岩]

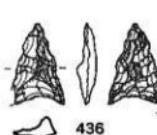


第82図 縄文時代草創期石材別石器実測図 (3) (S = 1/2)

[サヌカイト]



[チャート]



第83図 繩文時代草創期石材別石器実測図(4) (S=1/2)

(3) 小結

縄文時代草創期では、集石遺構1基が検出され、遺物299点が出土した。調査面積が調査区北部の約500m<sup>2</sup>と狭いため、遺構・遺物はそれほど多く確認できなかった。

集石遺構は数点の大型礫とその破片を中心に構成される。掘り込みや配石は持たないが、ほとんどすべての礫が赤化し、調理施設として使用された可能性が高い。

遺物は、特に集中域はみられないが、調査区北側の標高の高い、比較的平坦な場所に多く出土する。石材（黒曜石・ホルンフェルスなど）によっては、

東側斜面からも出土する。

製品では、小型で緻密な加工が施されたものが多い。チャート・サヌカイト製の石鏃、黒曜石・頁岩・流紋岩製のナイフ形石器・台形石器・細石刃などである。後削旧石器時代と縄文時代の遺物が共存していることになるが、あくまでも出土層位でみた場合のことであり、他文化層の遺物混入の可能性も否定できない。

その一方で、少數ではあるが、穂器や敲石などには大型の礫が素材として使われる。礫面を残したまま単純な加工を施したり、素材をそのまま使用した石器も出土している。

## 7 繩文時代早期

III層(MB0)は、アカホヤ直下にあたる。集石遺構・土坑を検出し、遺物も多数出土した。石器ブロックも3箇所確認された。繩文時代早期後葉に相当すると思われる土器片も出土している。これらのことから、III層を繩文時代早期の文化層とした。調査対象面積は、調査区南西部を除く約2,000m<sup>2</sup>である。

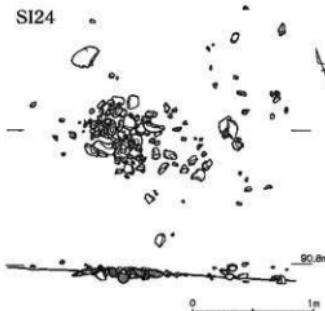
### (1) 遺構

遺構は集石遺構1基、土坑11基を検出した。遺構分布図を第85図に示す。土坑については、検出面はV-a層(Kr-Kb上部)であるが、埋上の状況などから繩文時代早期の遺構と判断した。土坑は、形状・埋土の特徴から、土坑I(焼土を伴う土坑)、土坑II(二段掘り土坑)、土坑III(用途不明土坑)に細分した。第39表に観察表を示す。

### 集石遺構(第84図)

調査区北部のD63～E61グリッド付近で集石遺構1基(SI24)を確認した。標高は90.8m～90.6mで、南東方向に緩やかに下る地点である。配石や掘り込みは持たず、炭化物も確認されなかった。石材は砂岩が多く、ほとんどが赤化している。完形礫は少なく、破碎礫が多い。石器等は含まれない。

III層では、大小様々な大きさからなる散礫が多数出土したが、集石遺構と判断できる礫のまとまりはSI24以外に確認できなかった。



第84図 集石遺構実測図 (S = 1/40)

### 土坑I(焼土を伴う土坑)

#### 【SC1】(第86図)

SC1は、調査区南東部端に近いE72グリッドの壁面で半裁された形で検出された。長径90cm、短径は34cmで、検出面の形状は橢円形である。残深は、検出面から26cmを測る。埋土に長径4cm・短径1cmの焼土や多量の径2mm以下の赤褐色焼十粒、径5mm～3mm程度の炭化物や径1mm以下の炭化物粒を多く含む。遺物は出土していない。

#### 【SC2】(第86図)

SC2は、E52グリッドに長径67cm、短径58cmを測り、残深は検出面から13cmと浅い。検出面の形状はほぼ円形をしている。埋土の褐色土中に赤褐色粒を多く含む。検出面には、径5mmほどの焼土が確認できた。遺物は出土していない。

### 土坑II(二段掘り土坑)

SC3～SC5は、調査区南東端の比較的近い位置に、並ぶように検出された。いずれも1段幅広く掘り下げたあと、下部を掘り込んでいく構造になっている。根菜類植物の採取跡の可能性がある。

#### 【SC3】(第86図)

D63～D64グリッドにかけて、長径110cm、短径62cmで検出面の形は橢円形を呈す。1段目を検出面から20cmほど掘り下げ、さらに南端部を60cm掘り下げてIX層(MB2)まで達していた。埋土は4層に分層できるが、壁面の土層の影響をうけていることがわかる。遺物は出土していない。

#### 【SC4】(第87図)

E74グリッドに長径86cm、短径76cmを測り、検出面では北部にふくらみを持つ四角形に近い形状を呈する。特徴は2段目の土坑を二つ持つことである。1段目は検出面から約35cmほど掘り込まれ、さらに二本に分かれて掘り込まれる。南側の掘り込みは、1段目からさらに20cm掘り下げられ、VII層(AT)上面に達している。北側の掘り込みは、1段目からさらに深く44cm下がり、IX層(MB2)まで達している。埋土は、SC3同様壁際の土層の影響を受けているとみられる。

**【S C 5】 (第86図)**

E73グリッドに長径76cm、短径60cmを測り、検出面が円形に近い形状を示す。1段目は検出面から18cmと浅めで、そこからさらに北側に80cm掘り込まれ、IX層(MB2)下位で終結している。埋土はS C 3・S C 4同様、壁面の上が混在する形になる。遺物は出土していない。

**土坑Ⅲ (用途不明土坑)**

S C 6～S C 11は、形状や掘り込みの深さなどは様々で、焼土や遺物は含まれず、どのような用途の土坑かは不明である。埋土が黒褐色土(MB0と思われる)を中心とした単層である点は共通しており、縄文時代早期の土坑と判断した。

**【S C 6】 (第87図)**

D61グリッドに長径90cm、短径47cmを測り、検出面の形状は楕円形である。検出面からの残深は20cmほどであるが、床面は広く、底は平らになっている。遺物は出土していない。

**【S C 7】 (第87図)**

E62グリッドに長径74cm、短径60cmを測り、検出面の形状は円形を呈する。掘り込みは検出面から40cmほど掘り下げたところから2本に分かれている。

北側の掘り込みはさらに22cm、南側の掘り込みは19cmほど掘り込まれている。遺物は出土していない。

**【S C 8】 (第87図)**

E64グリッドに長径127cm、短径73cmを測り、やや大きめの楕円形を呈して検出された。検出面からの残深は35cmである。埋土中央部から底部にかけて、径1～2mm以下の炭化物粒をまばらに含む。遺物は出土していない。

**【S C 9】 (第87図)**

E42グリッドに長径72cm、短径49cmの楕円形で検出された。掘り込みは、残深24cmで断面は半円形をしている。遺物は出土していない。

**【S C 10】 (第87図)**

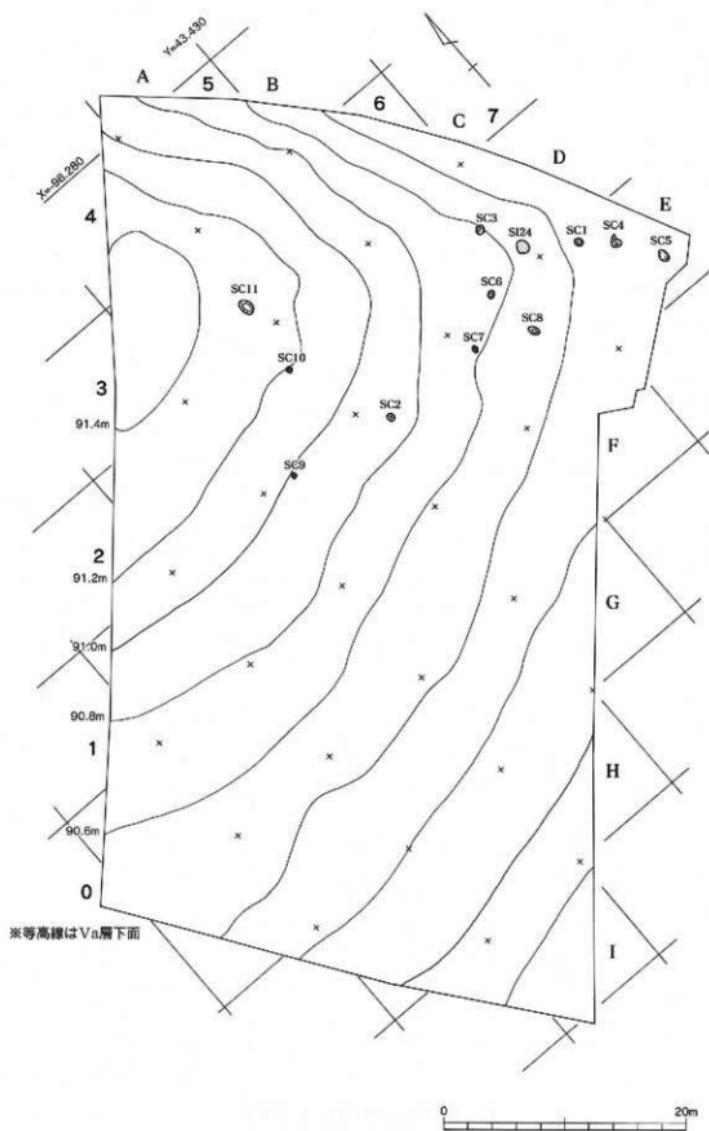
D44グリッドで検出され、検出面は長径55cm、短径38cmと小さめである。東側に5cmほど1段掘り下げ、さらに5cmほど掘り下げられており、検出面から10cmほどの残深しかない。遺物は出土していない。

**【S C 11】 (第87図)**

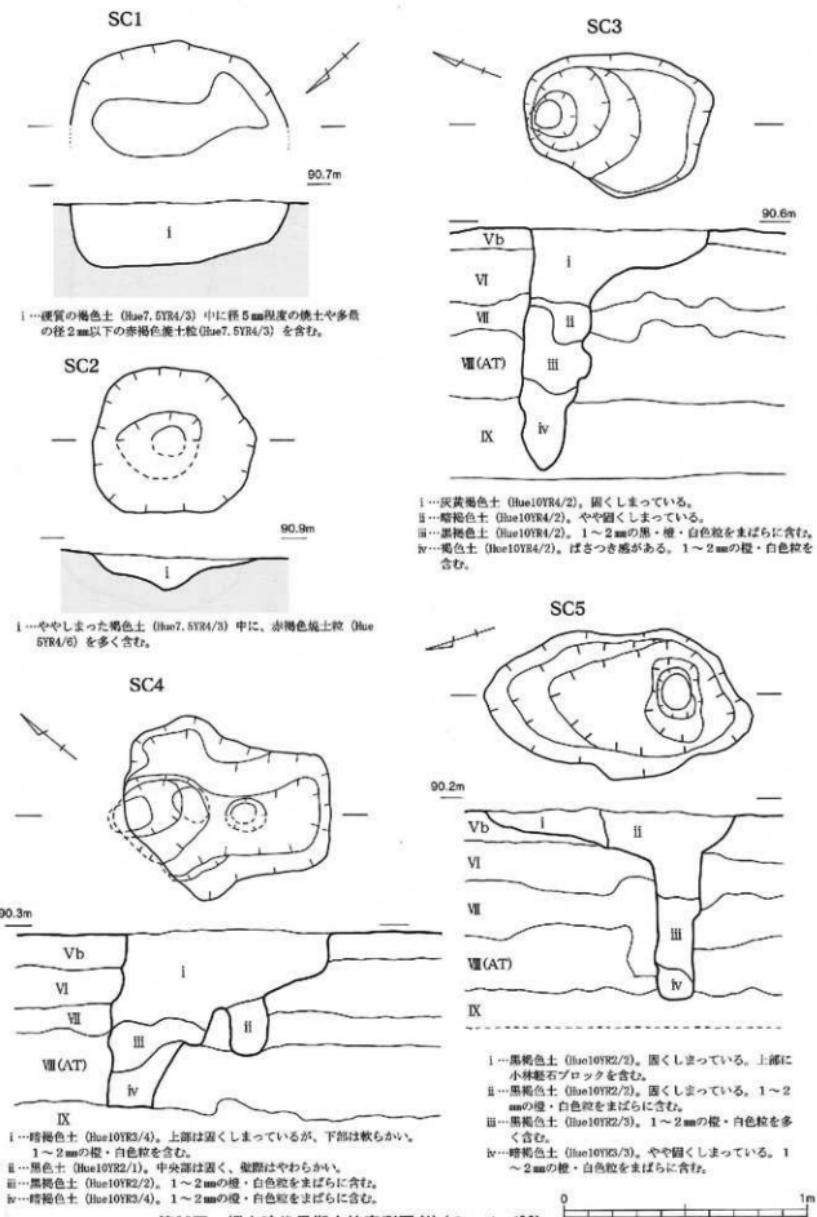
C43グリッドに長径142cm、短径60cmと細長い楕円形をした形状で検出された。残深は10cm程度と浅く平らであるが、南端部にさらに8cmほどの掘り込みがある。遺物は出土していない。

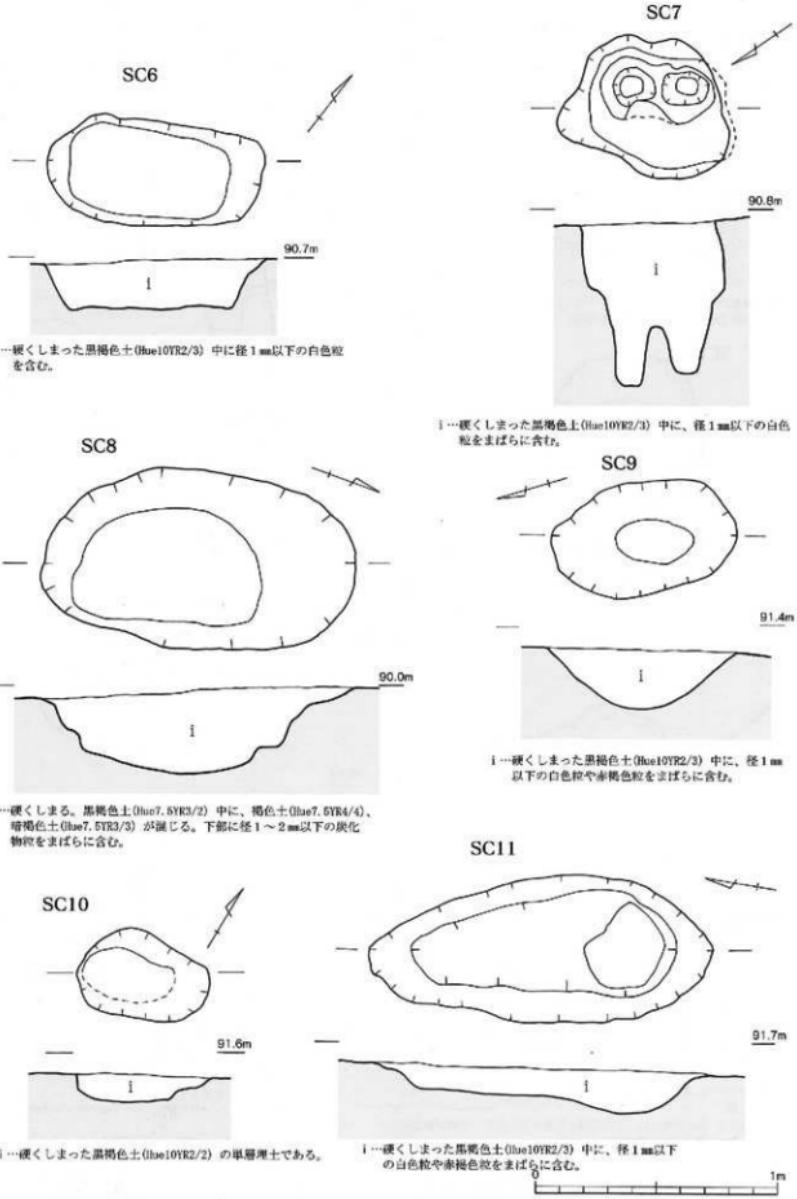
種別		番号	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	残深(cm)	主軸方向	検出面の形状	備考
I	焼土を伴う土坑	SC1	E72	90	34	26	北東～南西	楕円形	
		SC2	E52	67	58	13	東～西	円形	
II	二段掘り土坑	SC3	D63～D64	76	60	98	北西～南西	楕円形	
		SC4	E74	86	76	54・78	北西～南西	四角形	掘り込み2つあり
		SC5	E73	110	62	80	北～南	楕円形	
III	用途不明土坑	SC6	D61	90	47	20	北東～南西	楕円形	
		SC7	E62	74	60	66・60	北～南	円形	掘り込み2つあり
		SC8	E64	127	73	35	北西～南西	楕円形	
		SC9	E42	72	49	24	北～南	楕円形	
		SC10	D44	55	38	15	北西～南西	楕円形	
		SC11	C43	142	60	18	北～南	楕円形	

第39表 縄文時代早期土坑計測表



第85図 繩文時代早期遺構分布図 (S = 1 / 400)





第87図 縄文時代早期土坑実測図(2) ( $S = 1/20$ )

## (2) 遺物

縄文時代早期の文化層では、土器片が242点、石器が496点出土した。

### 縄文早期土器

土器片242点は、すべて破片である。摩耗が著しく器形や文様の判別が困難なものが多い。ここでは、口縁部・底部のほか文様等が頗るな胴部の一部を含めて報告する。土器は文様や色調・胎土の状況から、少なくとも5個体分が出土していると判断した。

① 摩耗文・縄文が施され、外面はにぶい黄橙色、内面は灰色をしている。すすぐが付着するものもある。胎土は微細な白色粒を含む(440~444)。

② 押圧刻み目突帯が施され、外面は橙色、内面は

にぶい橙色をしている。薄手で、胎土に微細な乳白色粒を含む(445~448)。

③ 縄文の上に沈線文や押圧刻み目貼付け突帯が施される。外面はにぶい黄褐色、内面はにぶい褐色。胎土に黒・乳白色粒を含む(449~459)。

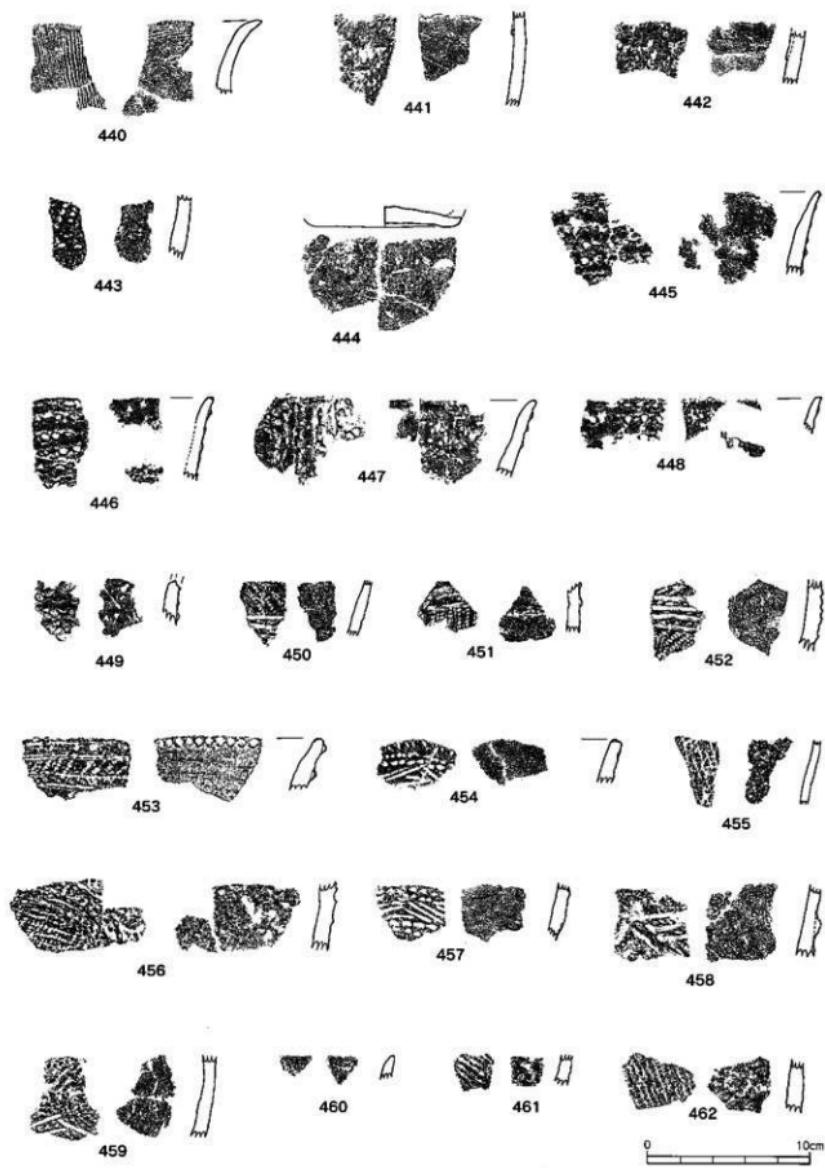
④ 縄文が施されるが、摩耗が著しい。外面が明褐色、内面はにぶい橙色。胎土に微細な黑色粒・明褐色粒を含む(460~463)。

⑤ 微隆起突帯を施し、色は両面ともにぶい黄橙色。黒色粒・乳白色粒を胎土に含む(464~466)。

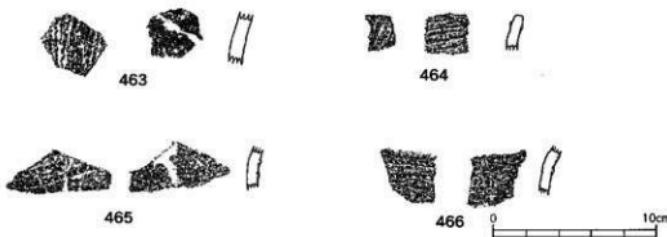
それぞれの個体別分類に基づき、27点の土器片を実測・掲載した。詳細は第40表のとおりである。

番号	注文番号	縄文	分類番号	部位	広葉(cm)	手彫・縫織・文様記述		手彫		胎土の特徴		備考
						外側	内側	外側	内側	外側	内側	
440	D72-Ⅲ-253,254	縄文	①	口縁部		横の斜め溝、斜位の斜め文(1例)		ナゲ	にぶい黄褐色	にぶい灰褐色	2mm以下の乳白色粒、3mm以下の白灰色粒	
441	E73-Ⅲ-3078	縄文	①	口縁部		縫織(横)、斜位のナゲ		斜位のナゲ	にぶい黄褐色	灰	2mm以下の濃褐色、1mm以下の白色粒、表面凹	
442	E73-Ⅲ-3105	縄文	①	口縁部		縫織(斜)、斜位のナゲ		斜位のナゲ	にぶい黄褐色	灰	1mm以下の白色粒、透明白	スス付着
443	E73-Ⅲ-3173	縄文	①	口縁部		縫文(横)		斜位のナゲ	にぶい黄褐色	灰	1mm以下の濃褐色、白色粒、透明白	スス付着
444	E75-Ⅲ-38 3125,3130(2枚)	縄文	①	底部	(8.0)	ナゲ		不規則方向のナゲ	白黒	灰黒	1mm以下の白色粒、透明白	スス付着
445	C44-Ⅲ-561,642	縫織	②	口縁部		横の斜め溝、斜位のナゲ		ナゲ	白	にぶい黄褐色	1mm以下の灰褐色	
446	C44-Ⅲ-567,569	縫織	②	口縁部		横の斜め溝と斜め文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	0.5mm以下の手白	
447	C44-Ⅲ-583 CS2-Ⅲ-529	縫織	②	口縁部		横・縦の斜め溝と斜め文、ナゲ		ナゲ	白	にぶい黄褐色	0.5mm以下の手白	
448	C44-Ⅲ-592 CS2-V-5213	縫織	②	口縁部		横の斜め溝と斜め文、ナゲ		ナゲ	白	にぶい黄褐色	0.5mm以下の手白	
449	C44-V-597,599	縫織	②	口縁部		横の斜め溝と斜め文、ナゲ、後述前記ナゲ(1例)		ナゲ	白	灰黒	1mm以下の乳白色	
450	F52-Ⅲ-86	縫織	③	胴部		縫文、沈縫文		斜位のナゲ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の灰褐色・乳白色粒	
451	G22-Ⅲ-9	縫織	③	胴部		縫文、斜位斜込み縫文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	2mm以下の灰褐色・乳白色粒、1mm以下の白色粒	スス付着
452	G22-Ⅲ-19	縫織	③	胴部		縫文、斜位斜込み縫文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	1mm以下の乳白色	
453	F42-Ⅲ-689	縫織	③	口縁部		縫文(文様あり)斜込み縫文		上部に斜位ナゲ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	5mm以下の乳白色粒、2mm以下の褐色・白色粒	
454	C44-Ⅲ-189,198	縫織	③	口縁部		縫文(文様あり)斜込み縫文(2例)		斜位のナゲ	白	にぶい黄褐色	1mm以下の乳白色・透明白	
455	D81-Ⅲ-251 D73-Ⅲ-392	縫織	③	胴部		縫文(文様あり)斜込み縫文		ナゲ	白	白	4mm以下の乳白色、3mm以下の黑色粒	
456	C43-Ⅲ-194	縫織	②	胴部		内丸文、斜行文		噴塗のナゲ	白	にぶい白	1mm以下の灰褐色・乳白色	
457	F24-Ⅲ-448	縫織	②	胴部		斜位斜込み縫文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	2mm以下の乳白色・無白色	スス付着
458	F24-Ⅲ-450	縫織	②	胴部		縫文、沈縫文、突起		工具による斜位のナゲ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の灰褐色・乳白色	
459	E62-Ⅲ-416	縫織	②	胴部		斜位の縫文、沈縫文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	3mm以下の灰褐色・乳白色	
460	F24-Ⅲ-454	縫織	④	口縁部		縫文		ナゲ	白	白	1mm以下の白色粒	
461	F24-Ⅲ-458	縫織	④	胴部		斜位の縫文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	2mm以下の白色粒、1mm以下の乳白色	
462	F24-Ⅲ-468	縫織	④	胴部		斜位の縫文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	0.5mm以下の白色粒、1mm以下の乳白色・無白色	
463	F24-Ⅲ-555	縫織	⑤	胴部		斜位の縫文		ナゲ	白	白	4mm以下の乳白色・無白色	
464	D71-Ⅲ-310	縫織	⑤	口縁部		斜位の横縫文		斜位の横縫文	白	灰白	1mm以下の白色・白色粒	
465	F24-Ⅲ-414	縫織	⑤	胴部		斜位の縫文		ナゲ	白	にぶい黄褐色	2mm以下の白色・無白色	
466	F24-Ⅲ-440	縫織	⑤	胴部		斜位の縫文		斜位の縫文(ヘア状)(1例)	ナゲ	白	2mm以下の透明白・無白色	

第40表 縄文土器観察表



第88図 縄文時代早期土器実測図(1) ( $S = 1/3$ )



第89図 繩文時代早期土器実測図(2) (S = 1/3)

### 石器

#### ○石器器種

縄文時代早期の石器は、496点出土した。内訳は、石鏃34点・ナイフ形石器3点・角錐状石器2点・台形石器4点をはじめ礫器・磨石・台石・敲石などが出土した。また、剥片は266点・チップ168点である。旧石器時代の範疇に包含される遺物もあるが、出土層位をもとにこの時代で報告する。

#### ○遺物分布

石器は、調査区中央部から北部にかけて多く出土した。石材別分布図をみると後期旧石器時代のような大きな石器集中箇所（石器ブロック）はみられないが、比較的狭い範囲に遺物が集中する箇所が3箇所確認できる（第90図石材別遺物分布図）。これを石器ブロック6・7・8とする。

#### 「石器ブロック6」

D63～D71グリッドにかけて石器が集中する。長径6m、短径4mの範囲に130点の遺物が出土するが、そのうち120点がチップ、2点の石鏃が含まれる。

石材はチャート76点・黒曜石29点が中心で、石鏃はチャート製・黒曜石（姫島）製である。集石遺構（S124）のすぐ北側に位置する。

#### 「石器ブロック7」

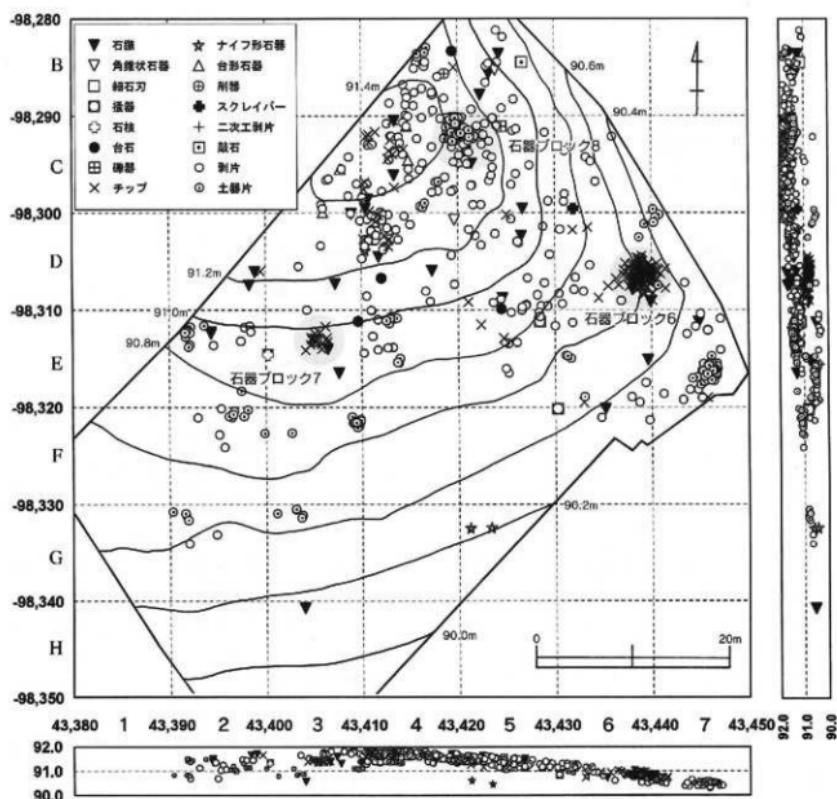
E32～E34グリッドにかけて、長径4m、短径2.5mの範囲に16点の桑ノ木津留産黒曜石チップが集中する。この中から姫島産石鏃が1点出土した。この石器ブロック7の南東側にも姫島産黒曜石製石鏃が1点出土した。

#### 「石器ブロック8」

C44～C52グリッドにかけて、長径6m、短径5mの範囲に64点の石器が集中する。石材はサヌカイト33点・ホルンフェルス17点・黒曜石7点であるが、この内サヌカイト製石鏃が6点・黒曜石製石鏃が2点含まれる。また、石器ブロック7は本文化層で最も土器片が集中する箇所である。活発な人間の活動の痕跡と考えられるため、遺物分布図に土器片の出土位置も示した。

石材	流紋岩	頁岩	ホルンフェルス	黒曜石	チャート	砂岩	サヌカイト	玉髓	尾崎山 酸性岩類	不明	計
石鏃	1			12	10		10	1			34
ナイフ形石器	2	1									3
角錐状石器	1	1									2
台形石器	2			1	1						4
礫器	1					1					2
削器		1									1
スクレーパー		1									1
石核			1								1
二次加工剥片	1										1
礫器			1								1
磨石						3					3
ワタ								3			3
圓石リ			1								1
敲石						1					1
帯石器(敲石)		1				3					4
剥片	16	43	81	59	7	43				17	266
チップ		1	2	65	83	2				15	168
計	17	64	87	138	102	7	55	1	3	32	496

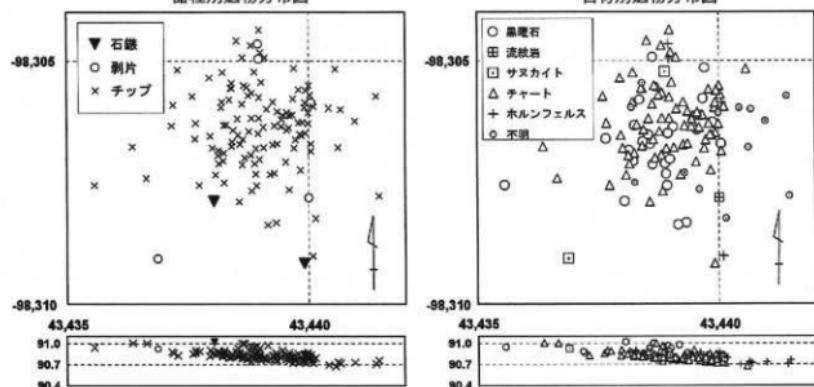
第41表 縄文時代早期石器・石材組成表



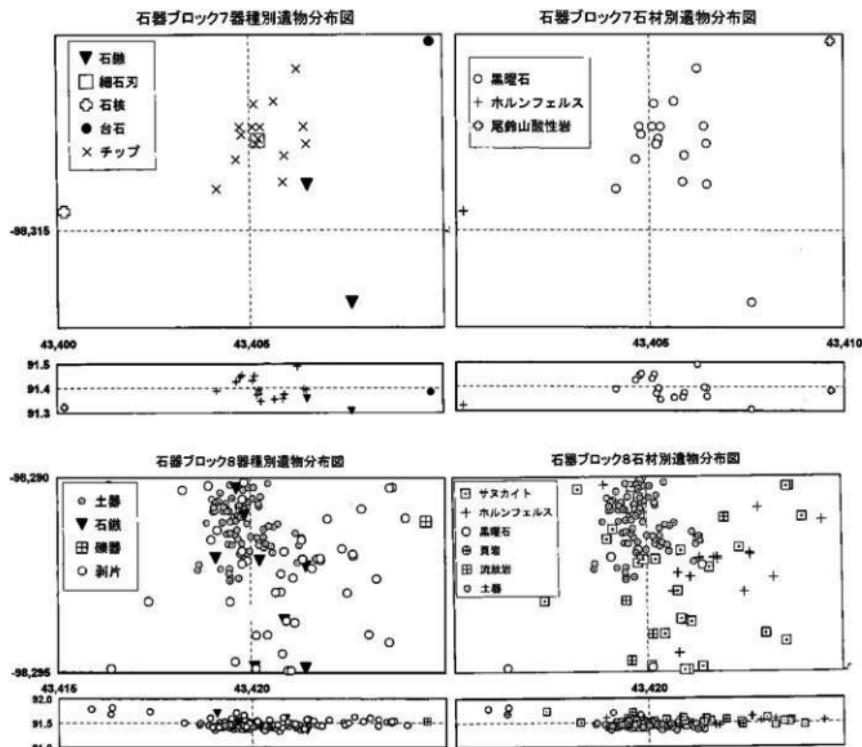
第90図 繩文時代早期器種別遺物分布図 ( $S = 1/500$ )

器種別遺物分布図

石材別遺物分布図



第91図 石器ブロック6器種・石材別遺物分布図 ( $S = 1/100$ )



第92図 石器ブロック7・8器種・石材別遺物分布 ( $S = 1/125$ )

#### ○石材及び接合資料

遺物は石材別では、黒曜石が138点で最も多く、次いでチャート102点・ホルンフェルス87点・サヌカイト65点・頁岩54点・流紋岩17点・砂岩7点・尾鈴山酸性岩類3点・玉髓1点・不明32点である。

接合は、8組16点が接合したが、ほとんどが隣り合う剥片の接合のため、実測はしていない。

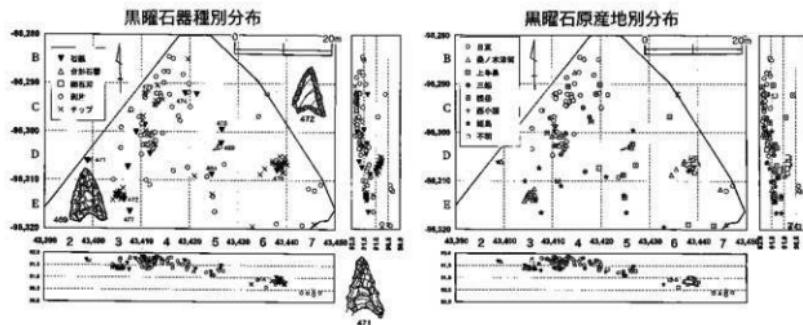
以下、石材別に出土石器の特徴を述べる。

#### 黒曜石（第93図）

石鏃12点・台形石器1点・細石刃1点・剥片59点・チップ65点・計138点が出土した。原産地別にみると

と日東産45点・桑ノ木津留産27点・上牛鼻産8点・三船産7点・腰岳産11点・西小国産2点・姫島産14点・不明26点となる。姫島産の利用が特徴的で、石鏃が7点出土している。また、腰岳産石鏃4点も特筆される。しかし、石核は出土せず、本遺跡内で製作されたものとは考えにくい。後期旧石器時代に活発に利用された日東産・上牛鼻産は、剥片は出土するが製品は少ない。

分布では、石器ブロック6と7に黒曜石の集中区が確認できる。接合は、1組2点である。



第93図 縄文時代早期黒曜石器種・原产地別遺物分布図 ( $S = 1/1,000$ )

石材	日東	腰岳	三船	上牛鼻	西小国	桑ノ木津留	鹿島	不明	計
石鐵		4	1				7		12
台形石器	1								1
錐石刃		1							1
剥片	31	5	6	8	2	3	3	1	59
チップ	13	1				24	3	24	65
計	45	11	7	8	2	27	13	25	138
総重量(g)	24.2	7.7	7.3	12.2	0.4	11.6	9.2	3.2	75.8

第42表 縄文時代早期黒曜石原产地別石器組成表

#### 頁岩 (第94図)

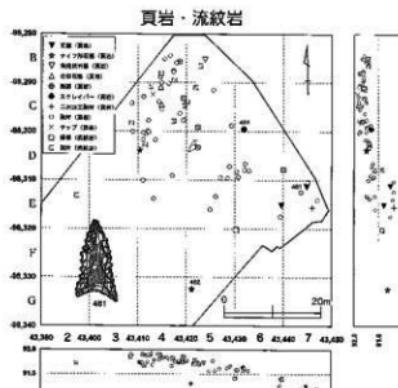
遺物は、石鉋1点・ナイフ形石器2点・角錐状石器1点・台形石器2点・削器1点・スクレイバー1点・二次加工剥片1点・剥片43点である。出土総数は54点で、石器器種は豊富であるが、旧石器時代の範疇に包含される遺物もあり、今後さらに検討が必要である。

分布では、調査区北東部の斜面側に集まる傾向が見られる。特に集中域はみられない。接合関係は、確認できなかった。

#### 流紋岩 (第94図)

遺物総数は、17点と少なく、製品は搔器が1点出土したのみである。この時代においては、積極的に活用された石材であるとは言い難い。

出土域は調査区北端が中心であるが、特に集中することはない。接合も剥片1組2点のみ確認された。



第94図 縄文時代早期石材別遺物分布図(1)  
( $S = 1/1,000$ )

### ホルンフェルス（第95図）

出土総数は87点で、製品はナイフ形石器1点・角錐状石器1点・石核1点・礫器1点である。この時代、石器としての利用は少ない。

特に集中区は見あたらず、調査区全域から遺物は出土している。接合は5組9点が接合したが、隣接して出土した剥片同士の接合である。

### サヌカイト（第95図）

出土総数は55点であるが、石鎌が10点と積極的に製品に活用されている。石鎌は二等辺三角形を呈するものがほとんどで、未製品も含まれる。抉りは、やや浅めのもの、基部中央に半円形に作られているものなどがある。分布状況をみると、調査区北部C 4グリッドの石器ブロック8付近に多く集まる。しかし、石核はなく、製品は他の場所から持ち込まれ、本遺跡内で使用されたと考えられる。接合は1組2点確認できた。

### 砂岩（第95図）

敲石1点が調査区北端から出土した。3箇所の石器ブロックとは離れており、関係は見いだせない。亜石器としたものが3点ある。

### 尾鈴山酸性岩類（第95図）

台石が3点出土した。いずれも長さ20~30cm、重量10kgを超えるような大型の礫を使用している。

出土地点は、石器ブロックからやや離れた所であり、石器ブロックとの関係は明らかではない。

### チャート（第95図）

チャートも、積極的に製品に活用されている石材である。出土総数は102点で、内訳は石鎌10点・台形石器1点・礫器1点・剥片7点・チップ83点である。チップは、ほとんどが石器ブロック6からの出土で、石鎌3点を伴う。石核はないが、製作の場と考えられる。その他の石鎌は単独で出土しており、他の場所から持ち込まれたものであろう。石鎌は1点を除き二等辺三角形の形状をしており、製作途中と思われる未製品も2点含まれている。

接合関係は、みられない。

### 玉髓（第95図）

石鎌1点のみの出土である。他の石器は見あたらず、製品単独の持ち込みであると判断できる。



第95図 繩文時代早期  
石材別遺物分布図(2) ( $S = 1/1,000$ )

番号	社記 番号	グリッド	層	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	国十年度 X坐标	国土土壤 Y坐标	レベル (m)	備 考
【黒曜石】[第96回]												
467	155	D34	Ⅲ	石縫	2.5	1.7	0.4	1.0	-98300.084	43408.929	91.772	原形石、全体に黒色な調理が施されている。中央は大きめで一 角切欠に入れる。
468	169	D51	Ⅲ	石縫	1.6	1.6	0.5	1.0	-98308.747	43421.593	91.235	原形石、二等辺二角形を呈すと見られるが、尖端は削れて 丸くなっている。抜けは表面から少し内側に入る。
469	181	D54	Ⅲ	石縫	2.2	1.5	0.6	1.5	-98302.358	43426.571	91.361	原形石、やや小形の二等辺三角形をしている。全体に黒色な 調理が施されている。抜けは平行形状である。
470	208	C44	Ⅲ	石縫	1.6	1.2	0.4	0.6	-98292.062	43419.087	91.699	原形石、底面は黒色がさざらうが、先端部しか煮度しない。下 部は削れて尖角形しているため全体の形状が不規則である。
471	22	D23	Ⅲ	石縫	2.6	1.5	0.3	0.8	98306.076	43398.869	91.702	原形石、二等辺一角形を呈し、左側斜面は削り切っている。抜けは 人字形である。
472	33	E34	Ⅲ	石縫	2.0	1.4	0.3	0.7	-98314.070	43406.493	91.359	原形石、二等辺二角形を呈す。左側斜面を削り切っている。背側 が削られている。左側斜面を大きく削っている。抜けは人字形である。
473	69	C41	Ⅲ	石縫	2.0	1.5	0.4	0.5	-98298.828	43410.721	91.820	原形石、左側斜面を削り切っている。左側斜面を削り切っている。背側 に「V」字形の溝が施され、抜けは大形である。
474	140	D33	Ⅲ	石縫	1.3	1.6	0.4	0.6	98307.309	43407.269	91.582	原形石、正三角形を呈してしまっているが削り切られている。先端部 が削られている。底部にV字形はない。
475	185	C53	Ⅲ	石縫	1.7	1.4	0.5	0.6	-98299.532	43426.658	91.191	原形石、正三角形を呈している。基部の抜けは削り切れて いる。
476	269	D63	Ⅲ	石縫	2.0	1.5	0.5	0.8	-98307.882	43438.648	91.022	原形石、二等辺二角形の形が施されているが、右側斜面が削り 切られている。底部にV字形はない。
477	479	E33	Ⅲ	石縫	2.5	1.4	0.5	0.9	-98316.489	43407.638	91.304	原形石、「V」字形の形状を呈す。左側斜面が削り切 れている。底部にV字形はない。
478	547	D42	Ⅲ	石縫	1.7	1.0	0.3	0.3	-98304.495	43411.815	91.402	原形石、小形の二等辺二角形の形状を呈す。今般は煮度な く調理が施されている。左側斜面は削り切っており、抜けはV字形 である。
479	151	C33	Ⅲ	台形石器	1.9	1.6	0.6	1.3	-98295.518	43407.795	91.802	原形石、一定の割合で煮度が施してある。背側は削り切 れている。左側斜面はV字形である。
480	29	B34	Ⅲ	鍛石刀刃	1.2	0.4	0.2	0.1	-98313.174	43405.231	91.389	生木状未調理で、上下両端が削り切っている。
【石刀】[第97回]												
481	3874	F72	Ⅲ	石縫	3.3	1.7	0.4	1.8	-98311.246	43414.858	90.196	二等辺三角形をしており、「V」字形が入る。背面側の背辺部 にはV字形が施されている。
482	133	G52	Ⅲ	ナイフ形石器	4.9	1.8	0.6	3.9	-98332.463	43421.160	90.613	原形石、削られた削り跡がある。基部に底面からの調理痕あ り、刃部に使用した跡の跡がある。先端は丸していない。
483	548	D42	Ⅲ	ナイフ形石器	3.4	1.4	0.6	2.6	-98303.863	43410.462	91.478	原形石、片刃を使用。左刃右斜面に底面からの調理を施す。基部 調理も同じ。
484	114	B51	Ⅲ	角錐状石器	1.8	1.1	1.3	1.5	-98285.304	43423.837	91.462	生木状に底面からV字形が入る。角錐状石器の先端部を 削り切っている。(高加工)。
485	78	C42	Ⅲ	台形石器	1.6	1.8	0.3	1.0	-98291.529	43414.903	91.811	原形石、削られた削り跡がある。刃部に背側からの調理が施される。
486	454	C42	Ⅲ	台形石器	2.1	1.6	0.6	1.3	-98291.070	43414.703	91.624	左刃部にV字形が入る。刃部に底面からの調理を施す。
487	230	B43	Ⅲ	剝器	4.3	2.7	1.0	9.1	-98285.676	43418.650	91.472	原形石、刃部の刃辺部に「V」字形の刃頭からV字形を加え、刃頭 が削り込まれている。
488	248	C61	Ⅲ	スクリーパー	5.8	4.5	1.0	31.2	-98299.532	43431.902	91.287	原形石、刃部の刃辺部に「V」字形の刃頭を削り、刃頭からV字形 を削り出している。刃部には底面を大きく削る。
【流紋岩】[第97回]												
489	451	F62	Ⅲ	砾器	6.0	6.2	2.1	71.8	-98320.221	43430.251	90.836	右側斜面に背・腹両方向からの加工が施される。上面と底面下 部に粗面が現れる。
【ボルンブルエルス】[第97回]												
490	134	G52	Ⅲ	ナイフ形石器	4.7	1.5	0.7	4.9	-98332.424	43423.322	90.465	粗面削り使用。背面に底面からの調理を施す。先端に黒色な 調理跡がある。
491	399	D44	Ⅲ	角錐状石器	3.4	1.9	1.1	6.0	98300.692	43419.627	91.500	左刃部に底面からのV字形が入る。刃部に底面からの調理が施される。
492	407	C52	Ⅲ	砾器	11.8	6.6	2.8	206.1	-98291.119	43424.509	91.533	左刃部に底面からのV字形が入る。刃部に底面からの調理が 施される。基部にも二等辺V字形の調理がある。右側斜面に粗面が 現れる。
【砂岩】[第97回]												
493	410	B45	Ⅲ	砾石	9.0	5.7	4.0	252.2	-98284.489	43426.653	91.146	右側斜面に背・腹両方向に刃頭を施す。刃頭を削り、V字形が現 れる。
【サヌカイト】[第98回]												
494	100	C42	Ⅲ	石縫	2.3	1.5	0.5	1.5	-98290.815	43413.473	91.811	原形石を削り、二等辺二角形の形状化している。先端部、 刃頭部が削り落とされている。基部は先端にややぬめのV字 形が現れる。
495	116	B51	Ⅲ	石縫	2.2	2.0	0.4	1.3	-98287.870	43422.323	91.626	原形石を削り、二等辺二角形をしていると思われる。左刃 部は久削りでV字形とは不規則である。黒色な調理跡が加工業 手で削られた跡が現れる。
496	127	C52	Ⅲ	石縫	1.5	1.8	0.3	0.7	-98293.851	43420.869	91.603	左刃部を削り、左刃部はV字形である。右側斜面に底面からの 調理が施されている。V字形が現れる。
497	175	D43	Ⅲ	石縫	2.5	1.4	0.7	1.3	-98305.952	43417.300	91.329	左刃部を削り、左刃部はV字形である。先端部にはV字形の 調理が現れる。
498	515	C44	Ⅲ	石縫	1.9	1.9	0.4	1.1	-98290.944	43419.836	91.524	左刃部を削り、左刃部はV字形である。先端部はV字形で 削り落とされている。
499	537	C52	Ⅲ	石縫	1.6	1.8	0.4	0.9	-98294.847	43420.096	91.499	左刃部を削り、左刃部はV字形である。右側斜面に底面からの 調理が施されている。V字形が現れる。
500	539	C52	Ⅲ	石縫	1.5	1.5	0.5	0.8	98294.889	43421.416	91.500	左刃部を削り、左刃部はV字形である。黒色な調理跡が刃頭 に現れる。
501	619	E22	Ⅲ	石縫	2.2	1.9	0.7	1.6	-98312.447	43394.316	91.354	左刃部を削り、左刃部はV字形である。右側斜面に底面からの 調理が施されている。
502	659	C44	Ⅲ	石縫	2.2	1.6	0.5	1.3	-98290.268	43419.628	91.517	左刃部を削り、左刃部はV字形である。右側斜面に底面からの 調理が施されている。

第43表 繩文時代早期石材別石器観察表 (1)

番号	件記 番号	グリッド	層	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	国土彌標 X座標	国土彌標 Y座標	レベル (m)	備考
503	520	C52	III	石鏃	3.3	2.2	0.5	2.3	-98292.123	43420.227	91.135	右側面製出。三角形状に削り盡くされ、さらに細かな加工を施す作業がうなづかず、遺棄されたと思われる。
504	531	C52	III	剥片	2.5	2.0	0.6	2.1	-98292.939	43420.790	91.146	背面に数回の剥離をうけた痕跡が残る。

【データ】[第99図]

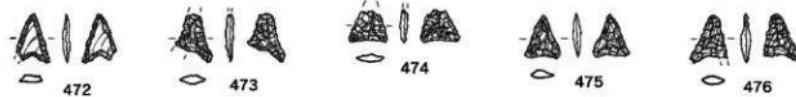
505	1	E22	III	石鏃	2.9	2.0	0.7	2.3	-98312.243	43394.321	91.171	二等辺「角形をしており、腰に狭く中央にさらに深い抉りが入る。」
506	20	H32	III	石鏃	2.7	2.0	0.6	1.8	-98340.773	43403.945	90.568	二等辺「角形をしており、表面には深い抉りがある。」
507	23	D23	III	石鏃	2.2	1.7	0.4	1.0	-98307.472	43398.259	91.060	二等辺「角形の形状を有する。先端・左脚部欠損している。」
508	76	C41	III	石鏃	2.0	1.7	0.3	0.7	-98296.152	43413.387	91.775	やや小窓の「等辺三角形形状を有する。先端と右脚部欠損は火候で入る。基部に大きな抉りが入る。」
509	112	B52	III	石鏃	2.1	1.5	0.6	1.4	-98283.659	43424.233	91.237	二等辺「角形の形状を有する。先端に欠損している。脚部は左右対称形をしている。」
510	235	B51	III	石鏃	1.8	1.3	0.5	1.0	-98285.720	43423.220	91.363	等辺「等辺三角形形状を有する。小窓であるが緻密な調整が施される。基部に抉りは見えない。」
511	315	D63	III	石鏃	2.1	1.8	0.5	1.1	-98309.147	43439.910	90.844	二等辺「等辺三角形形状を有する。先端は細長い抉りが入る。」
512	387	F62	III	石鏃	3.0	2.4	1.1	7.1	-98320.192	43435.188	90.710	二等辺「等辺三角形形状を有する。小窓であるが緻密な調整が施される。基部は細長い抉りで芯に入れる。」
513	418	E63	III	石鏃	4.1	3.5	1.1	12.1	-98315.155	43439.613	90.767	やや大型の「等辺三角形形状を有した石鏃未製品。若い剥離形を有し、緻密な調整が一概にされない。」
514	599	C52	III	石鏃	2.3	1.3	0.4	1.1	-98292.273	43421.425	91.354	二等辺「等辺三角形形状を有する。右側縁はやや丸みを帯びる。」
515	142	C33	III	台形石器	1.7	1.7	0.8	1.8	-98299.937	43405.987	91.644	右側縁「底盤から中心の加工が施される。上面にも既存の剥離形が何處かある。」
516	157	E54	III	極器	4.0	2.7	1.0	9.0	-98311.185	43428.437	91.134	左右両側縁から下部にかけて、底盤から上の調査により剥離が作成される。裏面には、一部既存中心の調査も施される。』

【工具】[第99図]

517	68	C41	III	石鏃	2.8	1.9	0.4	1.4	-98299.559	43410.449	91.732	本道部では尾一平削を石材とする。二等辺三角形形状を有する石鏃である。抉りは浅くなる。
【尾筋山性生剖面】[第100図]												
518	495	I41	III	台石	33.3	31.8	15.2	23500	-98306.698	43412.084	91.499	正面中央に取り戻が残る。奥行き30cmを超える巨塊。
519	496	D51	III	台石	25.6	24.0	15.0	11600	-98309.898	43424.444	91.157	正面中央に右側縁に取り戻が残る。奥行き30cmを超える巨塊。
520	497	B44	III	台石	22.7	31.0	8.2	6000	-98283.353	43419.442	91.614	奥行き30cmを超える扁平な巨塊。中央に使用痕が残る。

第44表 繩文時代早期石材別石器観察表(2)

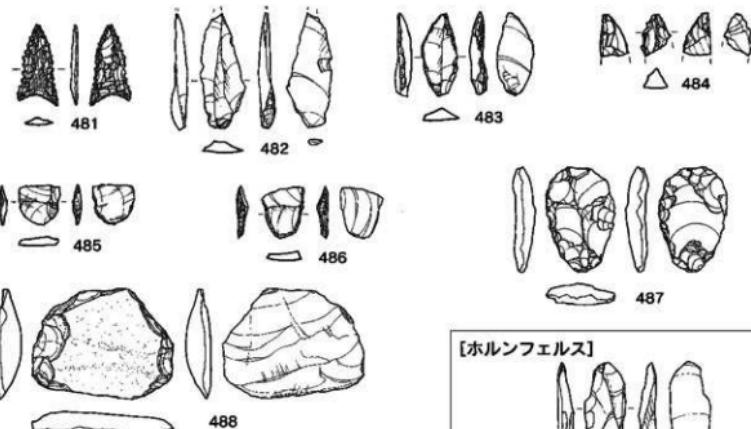
## 【黒曜石】



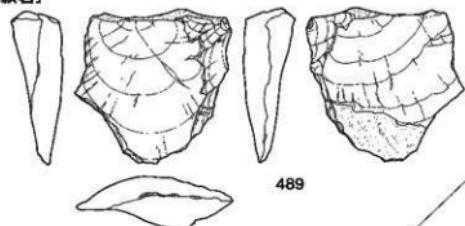
0 10cm

第96図 繩文時代早期石材別石器実測図(1) (S=1/2)

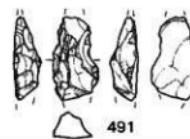
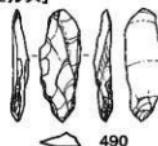
【頁岩】



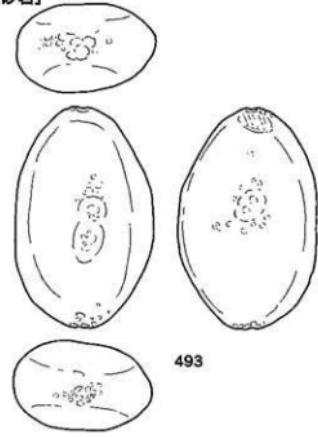
【流紋岩】



【ホルンフェルス】

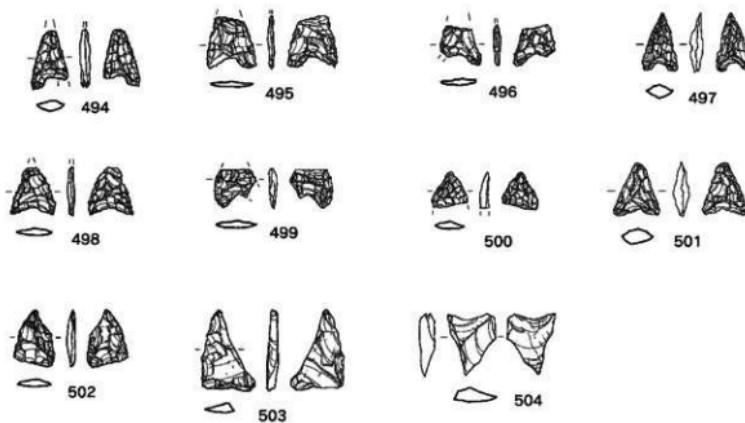


【砂岩】

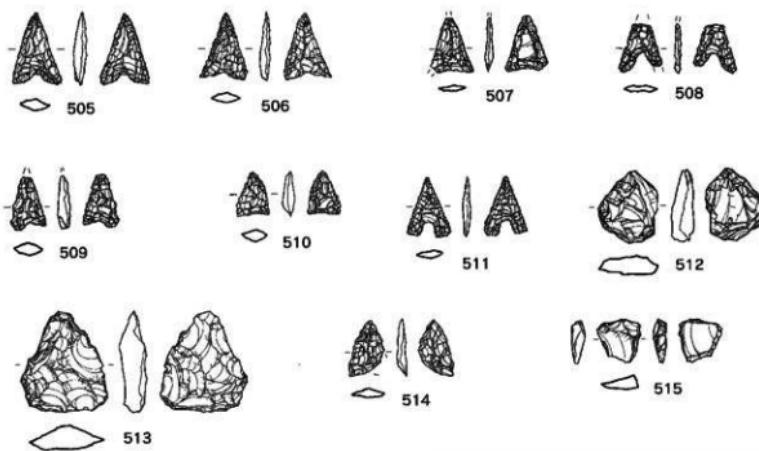


第97図 繩文時代早期石材別石器実測図(2) (S=1/2)

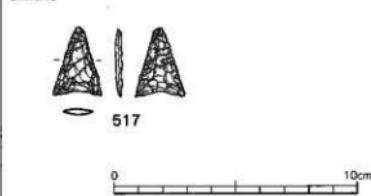
[サヌカイト]



[チャート]

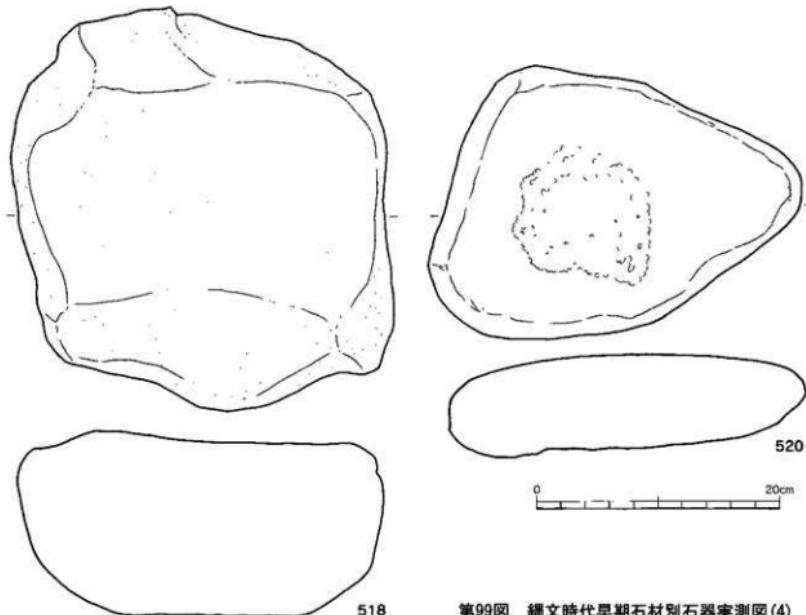


[玉髓]



第98図 繩文時代早期石材別石器実測図 (3) ( $S = 1/2$ )

〔尾鈴山酸性岩類〕



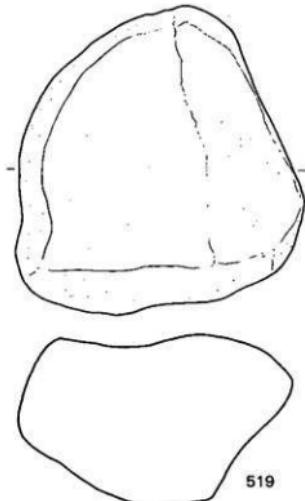
第99図 縄文時代早期石材別石器実測図(4)  
(S = 1/4)

(3) 小結

縄文時代早期では、集石遺構1基・土坑11基を検出した。集石遺構や焼上を伴う土坑は、火を利用した調理施設の可能性が高い。二段掘り土坑は、近隣の牧内第1遺跡（高鍋町）でも検出されており、根菜類の採取に利用されたと考えられている。

遺物は、アカホヤ層直下という層位、土器片の特徴から縄文時代早期後葉のものと考えられる。土器については、小破片が多いため、実測図中の傾きについては不確実なものもある。

石器は、黒曜石・サヌカイト・チャート製の石器の出土に特徴がある。石器ブロックや未製品から、本遺跡内で製作されたと考えられる。その一方で、黒曜石製石器を原産地別に細分すると、腰岳・姫島産の剥片・チップが見あたらないこと、サヌカイトの集中区が未検出のこと、石核や敲石が出土しないことなどから、多くは他の場所で製作され、本遺跡内で使用されたと考えるのが自然である。



519

## 9 中世

本遺跡では、確認調査で調査区東側のアカホヤ上面で帶状の黒色埋土が1条検出されていた。調査の結果、道路状遺構と判明した。また、調査区南端部で溝状遺構を1条検出した。さらに、町道を隔てた東側斜面でトレーンチ調査を行ったところ、アカホヤ上面及びその上層の黒色土中に硬化面を4条検出した。各遺構の配置は、第101図のとおりである。

### (1) 遺構

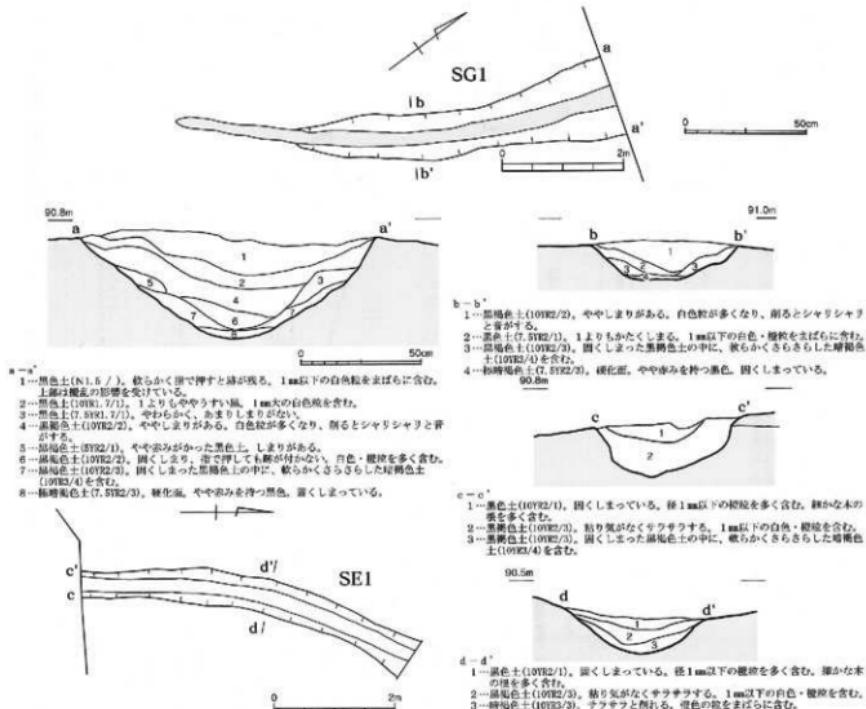
#### SG 1 (第100図)

町道より西側に検出した SG 1 は、主軸が南西から北東方向へ延びている。残存長は7.1mで、検出面は斜面のため約80cmのレベル差がある。削平のた

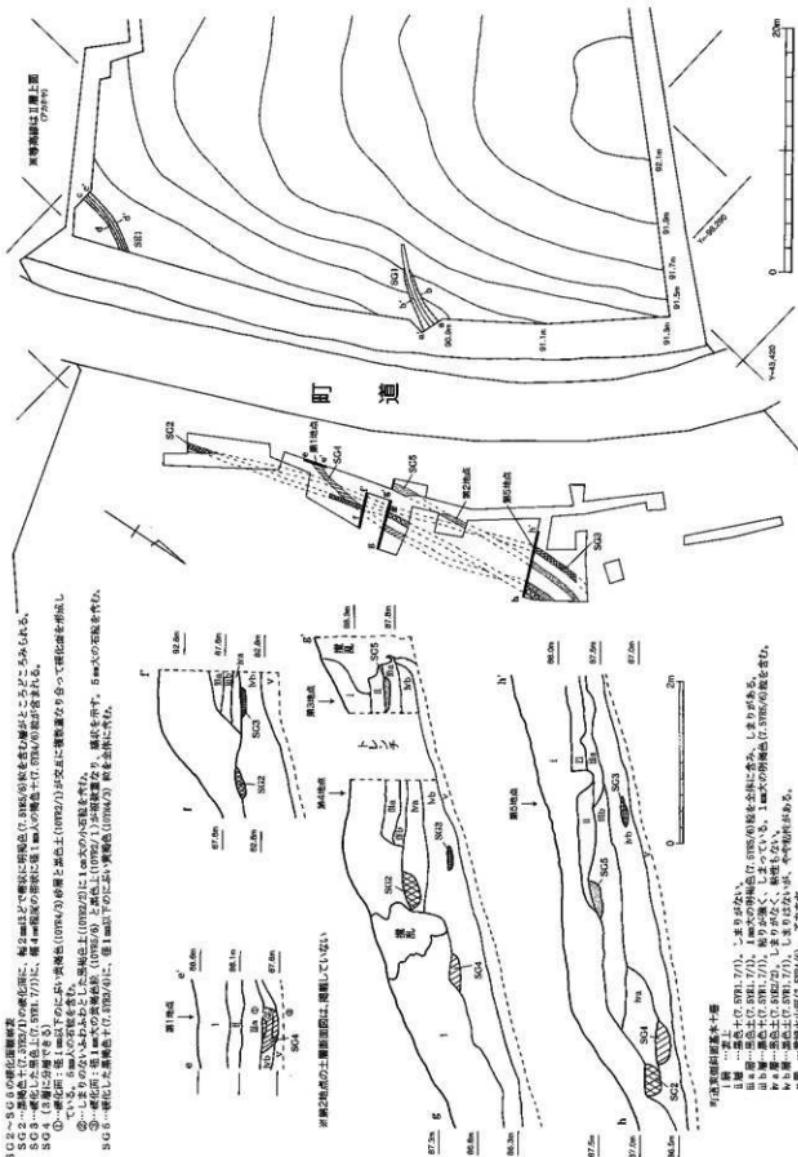
め、途中で掘り込みはなくなり、硬化面のみ残る。さらに西側では硬化面も消滅する。第100図に遺構の平面図と断面図を示した。埋土から遺物は出土しなかった。

#### S E 1 (第100図)

調査区南端の表土を剥いだところ、黒色埋土の溝状の遺構が検出され、SE 1とした。残存長は約6mで、主軸は南西から北東方向に延びる。第100図に実測図と土層断面図を掲載した。掘り込みは途中で擾乱土に切られていた。断面の黒色土から径1mm以下の橙粒が多く検出されたが、遺物は出土せず、時期は不明である。



第100図 道路状遺構・溝状遺構実測図平面図(S=1/80)、断面図(S=1/20)



## SG 2～SG 5 (第101図)

町道東側に検出した SG 2～SG 5 は、急斜面のため、安全面を考慮してトレンチ調査となった。調査では、はじめに南北にトレンチを入れ遺構の有無を調査した。硬化面が検出されると、その延長方向を確認するため、さらに東西にトレンチを入れていった。このため、遺構の全容は検出していない。

SG 2～SG 5 は、いずれも主軸が南北方向へ延び、北端でやや東に向きを変える。硬化面は、単層のものから複数に分層できるものがあり、第101図にその詳細を掲載した。硬化面は、一部切り合ひ関係を持つものがあり、時期差があると思われる。しかし、遺構から時代が判明するような遺物は出土しなかったため、埋土に含まれる火山灰から年代を推定することにした。

硬化面が検出されたアカホヤ上の黒色土中には、計 1～2 mm 程度の火山灰と思われる明褐色粒が含まれる。この明褐色粒を含む埋土の分析を行うことで、示標テフラを検出同定し、降灰時期を特定することができる。それを基準に遺構の時期を判断することにした。

### (2) 自然科学分析

SG 2～SG 5 が検出されたトレンチの土層は、表土からアカホヤまでが 5 層に分層できる (第101 図)。ここから、各 7～10 点の試料を採取し、テフラ分析を行った。試料採取箇所は第101図に示した 5 箇所で、採取した試料の点数は第102図の柱状図に示した。また、テフラ検出分析結果は第46表に示す。

### ○分析結果

第1地点では、試料15にごく細粒の黒褐色スコリア (最大径 0.7 mm) がわずかに含まれている。試料2には、暗褐色や暗灰色のスコリア (最大径 2.7 mm) が比較的多く含まれている。火山ガラスとしては、いずれの試料にもアカホヤ (K-Ah) や約 2.4～2.5 万年前に始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰 (AT) に由来すると考えられる無色透明や淡褐色さらに褐色のバブル型ガラスが、比較的多く含まれる。

第2地点では、試料8より上位で、暗褐色や暗灰色のスコリアが比較的多く含まれている。その中で

は、試料4' に特に多くのスコリア (最大径 2.0 mm) が認められる。

第3地点では、いずれの試料にも暗褐色や暗灰色のスコリア (最大径 1.4 mm) が比較的多く含まれている。この中では、試料4により多くのスコリアが認められる。火山ガラスとしては、K-AhやATに由来すると考えられる無色透明や淡褐色さらに褐色のバブル型ガラスが比較的少量認められる。

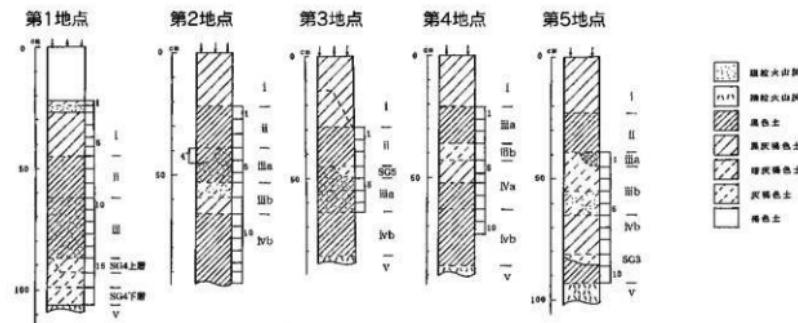
第4地点では、いずれの試料にも暗褐色や暗灰色のスコリア (最大径 1.4 mm) が比較的多く含まれている。この中では、試料4により上位から、暗褐色や暗灰色のスコリアが比較的多く検出される。ここでは、試料2により多くのスコリアが含まれているほか、スポンジ状に発泡した白色軽石 (最大径 1.2 mm) が少量認められる。火山ガラスは下位より上位に向かって減少する傾向にある。火山ガラスは、やはり K-AhやAT に由来すると考えられる無色透明や淡褐色さらに褐色のバブル型ガラスである。

第5地点の試料9にスコリアは認められなかった。この試料には、K-AhやAT に由来すると考えられる無色透明や淡褐色さらに褐色のバブル型ガラスが比較的多く含まれている。

### ○考察

テフラ検出分析により検出された暗灰色や暗褐色のスコリアについては、土層によって量の違いは若干あるものの、層位による岩相の顕著な違いは認められないことから、10～13世紀に霧島火山から噴出した霧島高原スコリア (Kr-Th, 井ノ上 1988, 早田 1997) に由来すると考えられる。その産状から降灰層準は iii b 層があればその上部付近、一般的には iii a 層の基底付近にあるように思われる。

ただし、霧島火山は Kr-Th の噴火の前にもスコリア質テフラを噴出させている (井ノ上 1988, 早田 1997 など)。実際、井村・小林 (1991) により片添スコリアとよばれたテフラは、その後霧島御鉢延層スコリア (Kr-OhE) に同定されている (町田・新井 1992)。その詳細な特徴が不明であるために同定は難しいが、今回検出されたごく細粒黒褐色スコリアについて、このテフラに由来するのかもしれな



※ 数字はテフラの試料番号

第102図 テフラ分析実施箇所土層柱状図

地 点	試 料	輕石・スコリア			火 山 ガ ラ ス		
		量	色 調	最大径	量	形 態	色調
1	2	++	暗褐, 暗灰	2.7	+++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐
	15	+	墨褐	0.7	++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐
	16	-	-	-	++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐
	17	-	-	-	++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐
2	2	+++	暗褐, 暗灰	1.4	+	b w	透明
	4'	++++	暗褐, 暗灰	2.0	-	-	-
	6	+++	暗褐, 暗灰	1.2	+	b w	透明
	7	++	暗褐, 暗灰	1.2	+	b w	透明
	8	++	暗褐, 暗灰	1.1	+	b w > p m	透明, 淡褐
	10	-	-	-	++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐
3	2	-ト	暗褐, 暗灰	1.1	++	b w	透明, 淡褐, 褐
	4	++	暗褐, 暗灰	1.4	+	b w	透明
	6	++	暗褐, 暗灰	0.9	++	b w	透明, 淡褐, 褐
4	2	+++	暗褐, 暗灰>白	1.3, 1.2	+	b w	透明
	4	++	暗褐, 暗灰	1.2	+	b w > p m	透明, 淡褐
	6	-	-	-	++	b w > p m	透明, 淡褐
	8	+	灰白	1.2	++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐
	10	-	-	-	++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐
5	9	-	-	-	++	b w > p m	透明, 淡褐, 褐

++++: とくに多い、+++: 多い、++: 中程度、+: 少ない、-: 認められない。

最大径の単位は、mm、b w: バブル型、p m: 軽石型

第45表 テフラ検出分析結果

い。なお、第4地点の試料2から検出された白色軽石については、その特徴から1471年に桜島火山灰から噴出した桜島第3テフラ (Sz-3、小林1986、町田・新井1992) に由来する可能性はある。

以上のテフラ同定をもとに、各地点の遺構や土層について層位を検討してみたい。第1地点のSG4上層については、iii a層より下位にあることからKr-Thより下位にあると考えられる。なお、第16試料から検出されたスコリアがKr-OhEに由来するすれば、SG4層についてはKr-OhEよりさらに下位にある可能性が考えられる。またSG4上層についてはKr-OhEより上位で、Kr-Thより下位にあるのかもしれない。ただし、これらの点については、Kr-OhEに関する分布調査や特徴記載が必要となっている。

第2地点及び第3地点のSG5層については、Kr-Thより上位にあると考えられる。第4地点の試料2には、Kr-ThのほかにSz-3に由来する可能性がある白色軽石が含まれている。したがって、少なくとも本地点においてはiii a層はSz-3灰灰後に形成された可能性がある。第5地点のSG3層については、Kr-Thより下位にあると考えられる。

#### (4) 小結

自然科学分析の結果、下位より鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah、約6,300年前)、霧島高原スコリア (Kr-Th、10~13世紀)、桜島3テフラ (Sz-3、1471年)などに由来する可能性が高いテフラ粒子が検出された。SG3層及びSG4(下層・上層)については、Kr-Thより下位、SG5層についてはKr-Thより上位にあると考えられる。これらのことから遺構の時代は、中世と考えられる。

さらに、調査の結果SG2はSG4を、SG3がSG4を、SG5がSG3を切ることがわかった。第4地点の土層断面図からSG3はSG2より古い。この切り合い関係と自然科学分析の成果から、遺構の時期は古い順からSG4→SG3→SG2→SG5となる。ただし、SG1との時期差は不明である。

同様の道路状遺構は、隣接する音明寺第1・第2遺跡でもみられる。本遺跡の遺構と同時期の可能性も想定される。



第103図 道路状遺構分布図 (S = 1/2,000)

## 第4節　まとめ

東畦原第1遺跡の四次調査では、後期旧石器時代から縄文時代早期かけて、重層的に遺構・遺物が確認された。長い間人々の営みが繰り返されてきたといえる。また、中世に相当する道路状遺構も確認された。遺跡全体では、後期旧石器時代においては6期、縄文時代においては2期、中世と合計9期の文化層が認められた。本節では、今回の調査成果を時代ごとに整理していくことでまとめたい。

### 1 後期旧石器時代

#### 【AT下位】

AT下位では、合計3期の文化層が確認できた。遺構は礫群を中心とするが、時代は1基（I期）を除き、II期に9基が集中している。礫群の構成疊は、比較的密に出上し、赤化度が高い。掘り込みや配石は確認できず、遺物はほとんど伴わない。礫群の石材は、ホルンフェルス・砂岩が中心で、頁岩や尾鈴山酸性岩類はあまり利用されていない。

遺物は、礫面を残した比較的大型の剥片石器や礫塊石器が多い。石材は、I・II期では、ホルンフェルスや砂岩など、在地において容易に入手可能な石材が中心である。III期になると、頁岩・流紋岩が石材の主力になり、調査区北端のAT直下で確認した石器ブロック1では、頁岩・流紋岩製の小型ナイフ形石器が、数多くの剥片・チップと共に出土している。石核・未製品も出土し、接合関係も複数の遺物で確認された。これらのことから石器ブロック1は、石器製作の場と判断できる。

#### 【AT上位～Kr-Kb下位】

AT上位～Kr-Kb下位の文化層（IV期；MB1）は、本遺跡において最も活発な人間の活動が行われた時期と考えられる。遺構は礫群が14基、石器ブロック2箇所、遺物が約1,500点出土した。

礫群は、調査区の南西部を除き、ほぼ全域から検出される。石材構成比や赤化度・完形度等は共通する傾向がみられた。しかし、構成礫数や検出範囲・平均重量等は礫群ごとに違いがあり、さらに、散疊も多く出土したため、礫群の認定には困難が伴った。礫群と認定する際の基準をどこにおくかは、今後の検討課題として残った。

調査区北西部では、2基の石器ブロックが確認できた。石器ブロックは、IV期以降のV期～VI期においても、同じ箇所で引き続き確認され、多くの石器が出土した。この場所は丘陵頂上部に近く、比較的平坦な場所である。人間が活動するのに適した環境であったことは推察できるが、詳細は現時点では明らかにできない。石器ブロック2は、黒曜石が最も多い石材であるが、それ以外にも多様な石材から構成されている。これに対し、石器ブロック3は頁岩を土体とする石器ブロックで、隣接した二つの石器ブロックの違いとなっている。

黒曜石は、この時代には積極的に石器に用いられ、石器ブロック内の加工作業によって、数多くの製品・剥片・チップが製作された。中でも口東・桑ノ木津留産といった南九州原産黒曜石が、数・重量ともに抜き出で多い。ナイフ形石器・角錐状石器・台形石器などに加工され、石核も出土しているが、剥片・チップの出土数に対し、製品数はやや少ない。遺跡外に持ち出された可能性もある。

IV期で最も製品に利用されている石材は、頁岩である。石器ブロック内に限らず、石器ブロック外でも多くの石器に加工され、器種も豊富にみられる。中でもナイフ形石器の出土数は多く、この時代、最も利用された石器器種になっている。加工にも様々な技法が使われて、縦長剥片や横長剥片を素材に一側線加工・二側線加工・基部加工が施される。大きさは、中型から大型までバラエティに富んだ構成となっている。

ナイフ形石器は、頁岩以外にも流紋岩・ホルンフェルス・砂岩・黒曜石と様々な石材が積極的に利用されている。このほかの器種では、角錐状石器にはホルンフェルス・流紋岩が多く利用され、スクレイパー類には、頁岩・ホルンフェルスと石器器種と石材にも特徴が伺える。

#### 【Kr-Kb下部～上部】

Kr-Kb下部～上部にかけてのV・VI期では、遺物は数多く出土したが、遺構は検出されなかった。散疊は多く出土したもの、礫群となるようなまとまりはみられなかった。

遺物は、IV期すでに述べた調査区北西部の石器ブロック4・5を中心出土するが、構成石材には違いがみられる。V期の石器ブロック4は、黒曜石が中心で6割を占め、さらに頁岩が2割、その他の石材が1割と続く。VI期ではサヌカイトが構成石材の中心となり、約半数を占める。次いで黒曜石が2割、ホルンフェルス・頁岩と続く。黒曜石やサヌカイトは、いずれも本遺跡周辺では入手できない遠隔地産の石材である。黒曜石は、日東産が遺物数・重量とも最も多い。サヌカイトも遠隔地素材であるが、原産地は現段階では不明である。今後明らかにしていくことが課題となる。石器として活用しやすい石材を遠方から入手して活用することが多くなったためであるろう。

器種では、ナイフ形石器と並んで台形石器の出土が顕著になる。ナイフ形石器はやや小型化し、ナイフ終末期を示す先細りの縦長剥片を素材とし、打点に二次加工施す製品も出土している。台形石器の石材は、日東・上牛鼻産黒曜石と頁岩が中心である。その一方、本遺跡内では、細石刃・細石刃核の出土例は少なかった。

Kr-Kb下部～上部は、2時期に分けて調査を行つたが、遺物は大量に出土し、一部には上層と下層の接合も確認された。2つの文化層の遺物が混在している可能性もある。

## 2 繩文時代

繩文時代は、草創期と早期の文化層を確認した。

### 【草創期】

草創期は、調査対象範囲が北部に限られ、出土遺物数もそれほど多くない。遺構は、集石遺構が1基であり、掘り込みや配石を持たない。丘陵頂上部近くに、周りに遺物を伴うような形で検出された。

遺物は、石礫やナイフ形石器・台形石器・細石刃・礫器・敲石などが出上した。後期旧石器時代の範疇にはいると思われる遺物と繩文時代の遺物が混じって出土する。これは、草創期という時期的な特徴と合わせて、遺物自体が上下して出土した可能性を考えられる。

出土範囲を石材別にみると、黒曜石や頁岩・流紋岩などは、丘陵頂上部に近い平坦面に多く出土する

傾向がある。一方、サヌカイトやチャート製の石器は、頂上部からやや下った緩斜面に多く出土しているのが特徴である。

### 【早期】

早期の遺構としては、集石遺構1基・土坑11基が検出された。集石遺構は、東側斜面のチャート・黒曜石の剥片・チップからなる石器ブロック6のすぐ北に位置する。土坑も調査区北東側に偏って検出されている。本調査区の東側には谷が迫っており、水場として利用されていた可能性がある。早期の遺構が、東側に多いことと関連づけて考えることもできよう。

土坑は、焼土を伴うもの・2段掘りを持つものなど用途が推測できるものもある。焼土を伴う土坑は、深さが浅く、掘り込み面はもっと上の可能性がある。2段掘り土坑については、高鍋町の牧内第1遺跡(四次調査)の報告書に数多くの検出例が記載されている。根菜類鋸削の跡と考えられる。

遺物は、早期後半に位置付けられる土器片・石礫を中心とする石器類が出土した。石礫の石材は、腰岳・姫島産黒曜石、サヌカイト・チャートなどである。遠隔地石材が中心であるが、その中でもこれまで主体だった南九州産から、九州北西や北東部原産の石材にまで、原産地が広がりをみせている点が注目される。

### 3 中世の遺構

アカホヤ灰以降の遺構として、道路状遺構5条、溝状遺構1条を検出した。この中で町道東側斜面で検出した4条については、自然科学分析の結果、高原スコリアが硬化面前後に含まれていることがわかり、中世の遺構と判明した。道路状遺構には使用された時期に差があり、長い期間にわたり、本遺跡付近を頻繁に人々が往来していたことがわかる。近隣遺跡で確認された同様の道路状遺構とつながる可能性が極めて高いと考えられる。今後さらに検証していく必要がある。

## 第VI章

### まとめ

東畦原第1遺跡では、一次～四次調査まで主に後期旧石器時代を対象とした発掘調査が行われてきた。ここでは、ATより下層の礫群・石器ブロックについて三次・四次調査の成果に一次・二次調査の成果を加え、東畦原第1遺跡全体を概観してみたい。

本遺跡は、南向きの陽当たりのよい台地上に位置

する。AT下位の旧地形を復元すると遺跡内に谷があり、水の入手も容易であったと考えられる。農地整理により削平と盛土が行っているが、ATより下層の堆積は良好である。その結果、すべての調査区で礫群が検出され、石器ブロックが二次～四次調査区で確認できた。詳細は、第46表のとおりである。

	層位	項目	一次調査	二次調査	三次調査	四次調査
礫群	MB2	検出数	4	2	3	7
		平均重量	—	893g	229g	232g
		出土状況	散漫な出土	散漫な出土	散漫な出土	やや密集
	MB3	検出数	12	5	9	1
		平均重量	679g	565g	626g	263g
		出土状況	散漫な出土	散漫な出土	散漫な出土	やや密集
石器 ブロック	検出層位	なし	MB2(AT直下)	MB2	MB2(AT直下)	MB2(AT直下)
	出土遺物数		約1,200点	13点	約600点	約600点
	主な石材(構成比)		頁岩(89%) ホルンフェルス(10%) その他(1%)	頁岩(70%) ホルンフェルス(15%) 流紋岩(15%)	頁岩(54%) 流紋岩(38%) その他(8%)	頁岩(54%) 流紋岩(38%) その他(8%)
	主な器種		ナイフ形石器 スクレーパー 剥片、チップ	ナイフ形石器 強器 剥片	ナイフ形石器(小型) 強器、石核 剥片、チップ	ナイフ形石器(小型) 強器、石核 剥片、チップ

第46表 東畦原第1遺跡AT下位礫群・石器ブロック検出状況

#### 礫群

AT下位層の礫群の出土層位は、MB2とMB3に分かれる。

MB3検出の礫群は、一次～三次調査では、比較的大型礫(平均重量は500gを超える)が多く完形または完形に近い形状で、散漫に出土する。赤化が6割～7割の礫に認められ、炭化物や遺物を伴う例も報告されている。

これに対し、MB2で検出された礫群は、調査区によって形状が異なる。1～3次調査区では、散漫な出土状況は同じであるが、礫の平均重量は、二次調査区では重く、他は軽量になる。また、四次調査区では、やや密集して出土し、9割以上の礫が赤化する、遺物をほとんど伴わないなど、他の調査区の礫群と違った特徴を持つ。

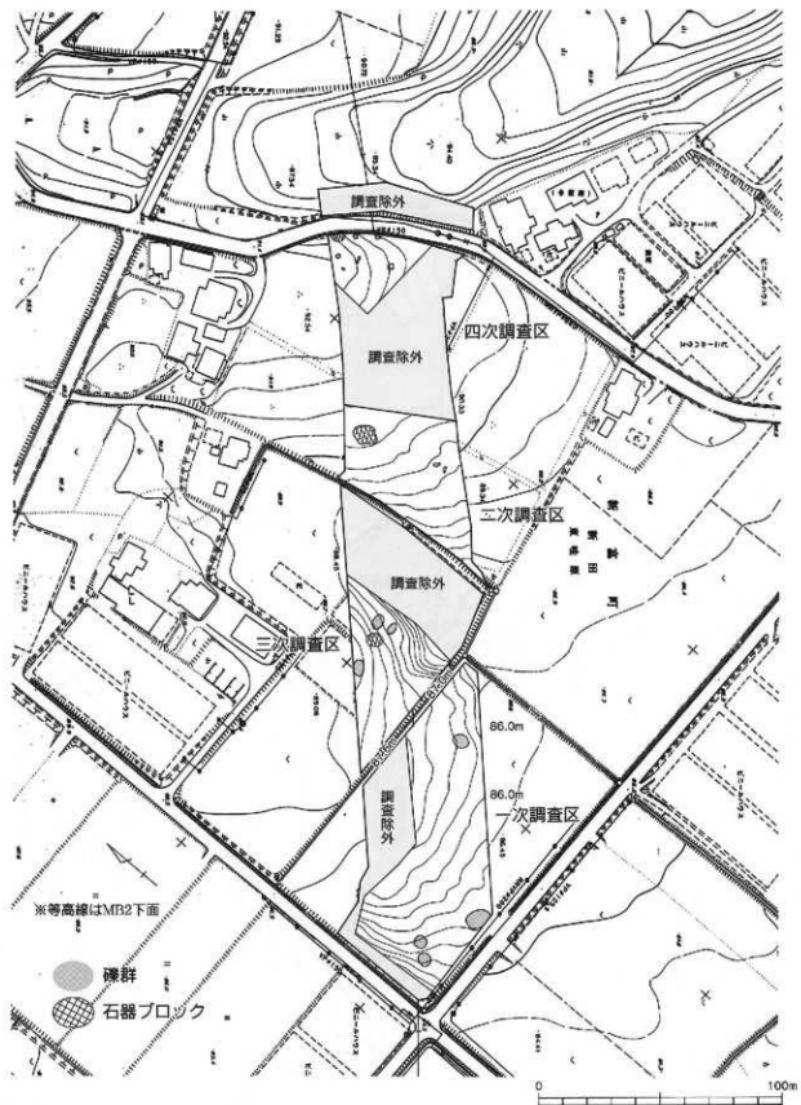
近年、AT下位層から礫群検出の報告例は増えつあり、その形態分類も行われている。本遺跡で検

出された礫群も、現場での出土状況から調査区ごとに認定しており、統一した基準によるものではない。礫群の認定基準をどう設定していくか、今後の検討課題である。

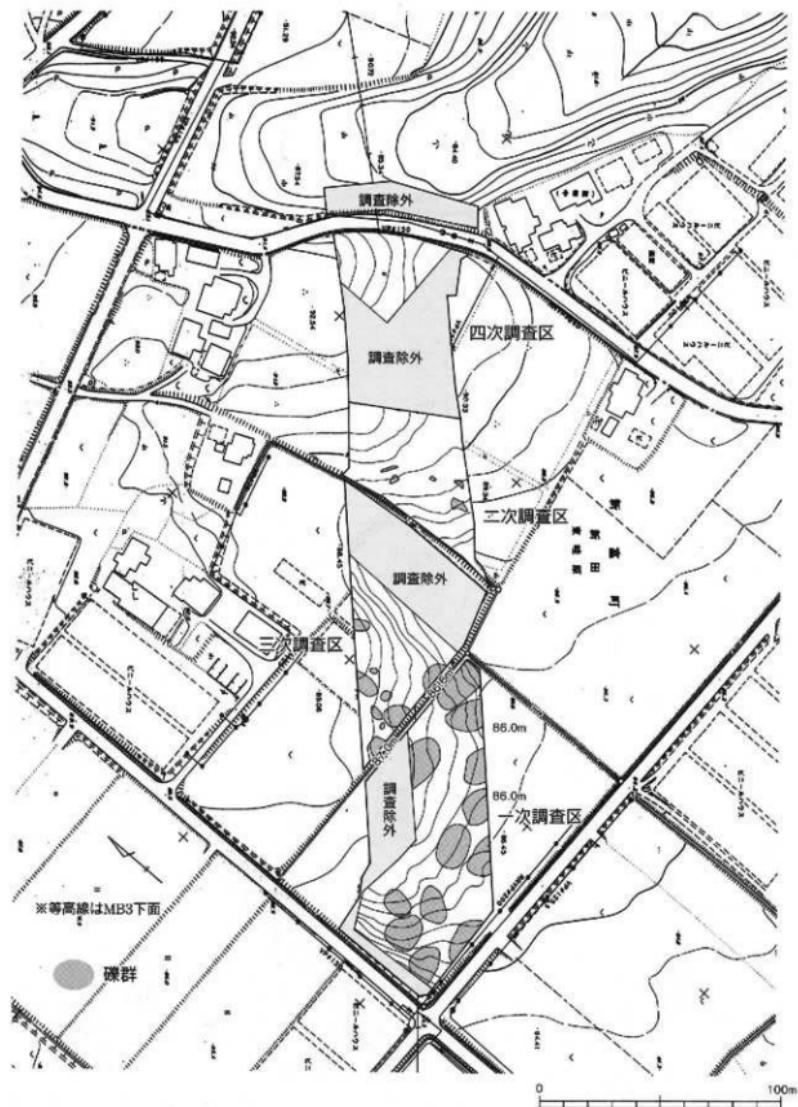
#### 石器ブロック

石器ブロックについては、二次～四次調査区に顕著にみられる。特に大量の石器が出土した二次・四次の調査区は、南北方向に下る同じ斜面上にあり、位置的にも近い。石材、出土遺物の器種、AT直下という検出層位などから、ほぼ同時期の人間の活動の痕跡と考えられる。また、石器の接合状況などから明らかに石器を製作したと考えられる。石器の製作技法など二つの石器ブロックの遺物をさらに検討し、共通性や相違点を明らかにする必要があろう。

今後は、AT上位の礫群や石器ブロックについても、本遺跡内や近隣遺跡との特徴を比較検討し、その性格を明らかにしていきたい。



第104図 東畦原第1遺跡MB2砾群分布図 ( $S = 1/2,000$ )



第105図 東畦原第1遺跡MB3砾群分布図 (S = 1/2,000)



東畦原第1遺跡四次調査区 遠景 西より



東畦原第1遺跡 四次調査区 全景



後期旧石器時代Ⅰ期 遺物・礫出土状況 南より



後期旧石器時代Ⅰ期 SI1 南より



土層断面（VⅢ層～XⅢ層）北より



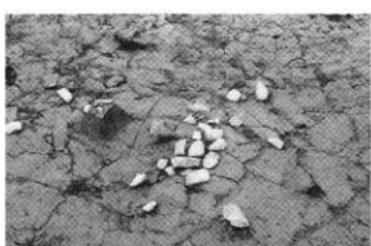
後期旧石器時代Ⅱ～Ⅲ期 遺物・礫出土状況 南より



後期旧石器時代Ⅱ期 SI2・3 南より



後期旧石器時代Ⅱ期 SI7 東より



後期旧石器時代Ⅱ期 SI8 東より



後期旧石器時代Ⅲ期  
石器ブロック1検出状況 南西より



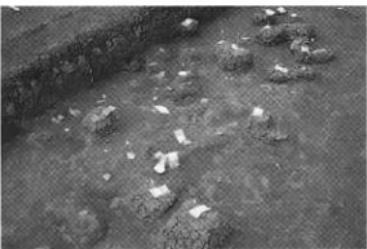
後期旧石器時代IV期 遺物・礫出土状況 東より



後期旧石器時代IV期 SI9 南西より



後期旧石器時代IV期 SI11と石器ブロック2 南より



後期旧石器時代IV期 SI12 南東より



後期旧石器時代IV期 SI14 南西より



後期旧石器時代IV期 SI20 西より



後期旧石器時代IV期 SI21 南より



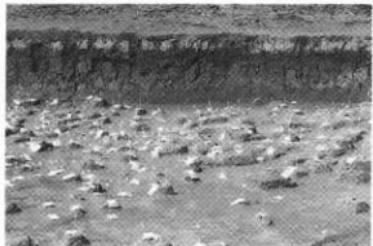
25%調査実施風景



土層断面(IV～VII層) 南より



後期旧石器時代IV期  
石器ブロック2・3検出状況 南東より



後期旧石器時代IV期 石器ブロック2 南東より



後期旧石器時代V期石器ブロック4 検出状況 東より



後期旧石器時代VI期  
遺構・遺物・礫出土状況 南東より



後期旧石器時代VI期 遺物・礫出土状況 南東より



後期旧石器時代VI期 石器ブロック5 検出状況 南東より



縄文時代草創期 遺物・礫出土状況 南東より